

令和6年2月富山県議会定例会議案

令和6年2月富山県議会定例会議案目次

議案第 1 号	令和6年度富山県一般会計予算	1
議案第 2 号	令和6年度富山県物品調達等管理特別会計予算	26
議案第 3 号	令和6年度富山県公債管理特別会計予算	29
議案第 4 号	令和6年度富山県収入証紙特別会計予算	32
議案第 5 号	令和6年度富山県母子父子寡婦福祉資金特別会計予算	34
議案第 6 号	令和6年度富山県中小企業活性化資金特別会計予算	37
議案第 7 号	令和6年度富山県就農支援資金特別会計予算	40
議案第 8 号	令和6年度富山県沿岸漁業改善資金特別会計予算	42
議案第 9 号	令和6年度富山県林業振興・有峰森林特別会計予算	44
議案第 10 号	令和6年度富山県奨学資金特別会計予算	47
議案第 11 号	令和6年度富山県公共用地先行取得事業特別会計予算	49
議案第 12 号	令和6年度富山県「元富山県営水力電気並鉄道事業」資金特別会計予算	54
議案第 13 号	令和6年度富山県国民健康保険特別会計予算	56
議案第 14 号	令和6年度富山県港湾施設特別会計予算	60
議案第 15 号	令和6年度富山県工業用地等管理特別会計予算	63
議案第 16 号	令和6年度富山県病院事業会計予算	66
議案第 17 号	令和6年度富山県流域下水道事業会計予算	70
議案第 18 号	令和6年度富山県電気事業会計予算	73
議案第 19 号	令和6年度富山県水道事業会計予算	77
議案第 20 号	令和6年度富山県工業用水道事業会計予算	80
議案第 21 号	令和6年度富山県地域開発事業会計予算	83
議案第 22 号	富山県デジタルによる変革推進条例制定の件	85
議案第 23 号	地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定の件	90
議案第 24 号	富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例一部改正の件	92
議案第 25 号	富山県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例一部改正の件	95
議案第 26 号	富山県住民基本台帳法施行条例一部改正の件	96

議案第 27 号	富山県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例一部改正の件	98
議案第 28 号	富山県職員定数条例一部改正の件	99
議案第 29 号	富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例一部改正の件	100
議案第 30 号	富山県職員等退職手当支給条例一部改正の件	102
議案第 31 号	富山県「北日本放送」社会福祉事業基金条例一部改正の件	103
議案第 32 号	富山県手数料条例一部改正の件	104
議案第 33 号	富山県税条例一部改正の件	107
議案第 34 号	富山県安全なまちづくり条例一部改正の件	108
議案第 35 号	富山県青少年健全育成条例一部改正の件	109
議案第 36 号	富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	110
議案第 37 号	富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	124
議案第 38 号	富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	128
議案第 39 号	富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害者支援施設の設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	134
議案第 40 号	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター条例等一部改正の件	138
議案第 41 号	富山県社会福祉法に基づく軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	139
議案第 42 号	富山県老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	142
議案第 43 号	富山県老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件	144
議案第 44 号	富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例等一部改正の件	149

議案第 45 号	富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例等一部改正の件……………	168
議案第 46 号	富山県介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件……………	186
議案第 47 号	富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例一部改正の件………	191
議案第 48 号	富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例一部改正の件……………	195
議案第 49 号	富山県国民健康保険条例一部改正の件……………	198
議案第 50 号	富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例一部改正の件……………	199
議案第 51 号	富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件……………	206
議案第 52 号	富山県児童福祉法に基づく指定障害児入所施設等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件……………	213
議案第 53 号	富山県女性相談センター条例一部改正の件……………	216
議案第 54 号	富山県医療法に基づく病院及び診療所の病床数の補正、人員、施設等に関する条例一部改正の件……………	217
議案第 55 号	富山県医学生等修学資金貸与条例一部改正の件……………	218
議案第 56 号	富山県病院事業の設置等に関する条例一部改正の件……………	219
議案第 57 号	富山県漁港管理条例一部改正の件……………	220
議案第 58 号	富山県建築基準法施行条例一部改正の件……………	221
議案第 59 号	富山県営住宅条例一部改正の件……………	222
議案第 60 号	市町村立学校県費負担教職員定数条例一部改正の件……………	223
議案第 61 号	富山県森林整備地域活動支援基金条例廃止の件……………	224
議案第 62 号	富山県介護保険法に基づく指定介護療養型医療施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例廃止の件……………	225
議案第 63 号	工事請負契約締結に関する件（白岩川河川改修（水橋大橋）上部工工事）……………	226
議案第 64 号	工事請負契約変更に関する件（主要地方道富山立山公園線道路総合交付金（改築）富立大橋上部工工事）……………	227
議案第 65 号	工事請負契約変更に関する件（主要地方道高岡環状線道路改築橋梁上部工（5－1）工事）……………	228

議案第 66 号	公立大学法人富山県立大学第 2 期中期目標の一部変更の件……	229
議案第 67 号	国営土地改良事業及び県営土地改良事業に要する費用に係る 市町村の一部負担の追加に関する件……	232
議案第 68 号	建設事業に要する経費に対する市町村の一部負担の変更に関 する件……	233
報告第 1 号	地方自治法第 179 条による専決処分……	234
	令和 5 年度富山県一般会計補正予算（第 7 号）……	235
	令和 5 年度富山県一般会計補正予算（第 8 号）……	245
	令和 5 年度富山県港湾施設特別会計補正予算（第 2 号）……	253
	令和 5 年度富山県工業用地等管理特別会計補正予算（第 1 号）……	257
	令和 5 年度富山県流域下水道事業会計補正予算（第 4 号）……	260
	令和 5 年度富山県電気事業会計補正予算（第 3 号）……	261
	令和 6 年能登半島地震による災害の被害者の権利利益の保全等を図る ための特別措置に関する条例制定の件……	264
	損害賠償に係る和解に関する件……	267
報告第 2 号	地方自治法第 180 条による専決処分……	268
	損害賠償に係る和解に関する件……	269

議案第 1 号

令和 6 年度富山県一般会計予算

令和 6 年度富山県の一般会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 612,655,531 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(債務負担行為)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 214 条の規定により債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額は、「第 2 表 債務負担行為」による。

(地方債)

第 3 条 地方自治法第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 3 表 地方債」による。

(一時借入金)

第 4 条 地方自治法第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、120,000,000 千円と定める。

(歳出予算の流用)

第 5 条 地方自治法第 220 条第 2 項ただし書の規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、各項に計上した給料、職員手当等及び共済費に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用をする場合と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

		歳 入	
		(単位 千円)	
款	項	金	額
1 県	税		148,690,000
		1 県 民 税	42,382,000
		2 事 業 税	38,052,000
		3 地 方 消 費 税	36,738,000
		4 不 動 産 取 得 税	2,240,000
		5 県 た ば こ 税	1,146,000
		6 ゴ ル フ 場 利 用 税	264,000
		7 軽 油 引 取 税	10,389,000
		8 自 動 車 税	17,469,000
		9 鉱 区 税	1,000
		10 狩 猟 税	5,000
		11 旧 法 に よ る 税	4,000
2 地方消費税清算金			50,941,000
		1 地方消費税清算金	50,941,000
3 地方譲与税			21,041,501
		1 特別法人事業譲与税	19,013,000

	2 地方揮発油譲与税	1,724,000
	3 石油ガス譲与税	60,000
	4 自動車重量譲与税	187,000
	5 地方道路譲与税	1
	6 森林環境譲与税	37,500
	7 航空機燃料譲与税	20,000
4 地方特例交付金		3,745,000
	1 地方特例交付金	3,745,000
5 地方交付税		144,200,000
	1 地方交付税	144,200,000
6 交通安全対策金 特別交付金		201,000
	1 交通安全対策金 特別交付金	201,000
7 分担金及び負担金		2,968,009
	1 分担金	526,547
	2 負担金	2,441,462
8 使用料及び手数料		9,123,648
	1 使用料	7,340,667
	2 手数料	1,782,981
9 国庫支出金		57,469,081

	1 国庫負担金	20,685,300
	2 国庫補助金	35,854,735
	3 委託金	929,046
10 財産収入		858,241
	1 財産運用収入	577,694
	2 財産売却収入	280,547
11 寄附金		219,601
	1 寄附金	219,601
12 繰入金		23,197,058
	1 特別会計繰入金	7,082,487
	2 基金繰入金	16,114,571
13 繰越金		1
	1 繰越金	1
14 諸収入		105,566,791
	1 延滞金、加算金料 及 び 過 料	152,367
	2 県預金利子	453
	3 公営企業貸付金元 元 利 収 入	73,418
	4 貸付金元利収入	97,771,959
	5 受託事業収入	159,424

	6 収 益 事 業 収 入	2,700,036
	7 雑 入	4,709,134
15 県 債		44,434,600
	1 県 債	44,434,600
歳 入 合 計		612,655,531
歳 出		
(単位 千円)		
款	項	金 額
1 議 会 費		1,069,801
	1 議 会 費	1,069,801
2 総 務 費		25,899,094
	1 総 務 管 理 費	10,364,649
	2 企 画 費	5,753,093
	3 自 然 保 護 費	1,316,510
	4 徴 税 費	4,948,146
	5 市 町 村 振 興 費	679,701
	6 選 挙 費	574,755
	7 防 災 費	1,591,327
	8 統 計 調 査 費	394,445
	9 人 事 委 員 会 費	135,745

一般会計

	10 監 查 委 員 費	140,723
3 民 生 費		53,726,810
	1 社 会 福 祉 費	36,913,835
	2 兒 童 福 祉 費	16,433,975
	3 生 活 保 護 費	371,594
	4 災 害 救 助 費	7,406
4 衛 生 費		35,979,842
	1 公 衆 衛 生 費	23,931,162
	2 環 境 衛 生 費	1,611,709
	3 保 健 所 費	1,685,150
	4 医 務 費	5,166,211
	5 藥 務 費	1,286,115
	6 公 害 防 止 費	2,299,495
5 勞 働 費		2,874,301
	1 勞 政 費	857,507
	2 職 業 訓 練 費	1,592,525
	3 失 業 对 策 費	363,562
	4 勞 働 委 員 会 費	60,707
6 農 林 水 産 業 費		33,244,145

	1 農 業 費	7,398,807
	2 畜 産 業 費	744,307
	3 農 地 費	15,804,545
	4 林 業 費	7,308,800
	5 水 産 業 費	1,987,686
7 商 工 費		101,002,390
	1 商 業 費	94,828,410
	2 工 鉱 業 費	4,669,537
	3 観 光 費	1,504,443
8 土 木 費		60,190,611
	1 土 木 管 理 費	1,167,638
	2 道 路 橋 り ょ う 費	28,391,719
	3 河 川 海 岸 費	17,044,204
	4 港 湾 費	5,011,283
	5 都 市 計 画 費	7,246,771
	6 住 宅 費	1,328,996
9 警 察 費		26,380,878
	1 警 察 管 理 費	25,631,933
	2 警 察 活 動 費	748,945

10 教 育 費		109,141,516
	1 教 育 総 務 費	11,226,965
	2 小 学 校 費	30,671,737
	3 中 学 校 費	18,409,597
	4 高 等 学 校 費	27,941,400
	5 特 別 支 援 学 校 費	10,267,018
	6 大 学 費	5,011,630
	7 社 会 教 育 費	3,379,905
	8 保 健 体 育 費	2,233,264
11 災 害 復 旧 費		5,015,893
	1 農 林 水 産 業 施 設 災 害 復 旧 費	1,478,110
	2 公 共 土 木 施 設 災 害 復 旧 費	3,537,783
12 公 債 費		91,295,783
	1 公 債 費	91,295,783
13 諸 支 出 金		66,634,467
	1 諸 支 出 金	66,634,467
14 予 備 費		200,000
	1 予 備 費	200,000
歳 出 合 計		612,655,531

第2表 債務負担行為

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
富山県議会中継システム事業（インターネット）	令和7年度から 令和11年度まで	16,638
富山県庁情報通信網整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	155,284
新川こども施設整備・運営事業	令和7年度から 令和23年度まで	5,117,230
新川こども施設PFI事業 モニタリング業務委託	令和7年度	6,244
秘書業務労働者派遣費	令和7年度から 令和9年度まで	110,234
法制執務支援システム事業	令和7年度から 令和9年度まで	1,089
富山県立大学新学部棟附帯 工事事業	令和7年度	161,000
地方債の共同発行によって 生ずる連帯債務	令和6年度から 令和16年度まで	共同発行団体による共同発行市場公募債（グリーンボンド）の発行総額から本県負担額を控除した額及びこれに対する利子相当額
県議会議事堂冷温水発生機 更新事業	令和7年度	161,000
防災行政無線再整備（第3 世代化）事業	令和7年度	1,382,764

一般会計

税オンラインシステム整備事業	令和7年度	57,969
税務電算システム移行データ抽出業務	令和7年度	34,672
大気汚染常時監視システム運用事業	令和7年度	4,728
富山県福祉施設支援資金貸付事業損失補償 1 相手方 社会福祉法人富山県社会福祉協議会 2 損失補償の対象 貸付事業に係る未収債権であって、当該年度終了後3箇月を経過してもなお回収できなかった額	令和7年度から令和14年度まで	令和6年度の貸付事業に係る貸付事業費の30%に相当する額の範囲内
総合リハビリテーションセンター管理運営費	令和7年度	21,400
元気とやま中小ベンチャー総合支援ファンド事業損失補償 1 相手方 公益財団法人富山県新世紀産業機構（以下「機構」という。） 2 損失補償の対象 元気とやま中小ベンチャー総合支援ファンド事業において、投資債務保証事業につき機構が代位弁済した額及び直接投資事業につき機構の損失が発生した場合の損失額に10分の7を乗じて得た額の合計額の範囲内	投資債務保証事業については 令和6年度から令和18年度まで 直接投資事業については 令和6年度から令和16年度まで	42,000

<p>中小企業制度融資損失補償</p> <p>1 相手方 富山県信用保証協会</p> <p>2 損失補償の対象 富山県の制度融資（小口事業資金あっせん保証融資資金、経営安定資金連鎖倒産防止枠）について、信用保険に付した保証につき代位弁済した額と保険金受領額との差額</p>	<p>令和6年度</p>	<p>50,000</p>
<p>創業支援資金（創業者枠）及び新事業展開支援資金（経営革新枠）損失補償</p> <p>1 相手方 富山県信用保証協会</p> <p>2 損失補償の対象 創業支援資金（創業者枠）及び新事業展開支援資金（経営革新枠）について、信用保険に付した保証につき代位弁済した額と保険金受領額との差額</p>	<p>令和6年度</p>	<p>13,000</p>
<p>経営安定資金企業再生支援枠損失補償</p> <p>1 相手方 富山県信用保証協会</p> <p>2 損失補償の対象 経営安定資金企業再生支援枠について、信用保険に付した保証につき代位弁済した額と保険金受領額との差額</p>	<p>令和6年度から 令和18年度まで</p>	<p>6,000</p>
<p>緊急経営改善資金損失補償</p> <p>1 相手方 富山県信用保証協会</p>	<p>令和6年度から 令和18年度まで</p>	<p>37,000</p>

2 損失補償の対象 緊急経営改善資金について、信用保険に付した保証につき代位弁済した額と保険金受領額との差額		
富山勤労総合福祉センター 設備等整備費元利償還金補助 相手方 一般財団法人富山勤労総合福祉センター	令和7年度から 令和16年度まで	元金 8,417 千円及びその利子の範囲内
技術専門学院コンピュータシステム整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	61,475
技術専門学院訓練環境整備事業	令和7年度	35,384
民間委託職業訓練事業	令和7年度から 令和8年度まで	82,240
農業近代化資金利子補給 1 相手方 農業協同組合その他の融資機関 2 資金の種類 農業近代化資金融通法(昭和36年法律第202号)に基づく資金 3 利子補給の対象となる貸付金 1,500,000 千円以内 4 利子補給期間 20年以内	令和7年度から 令和26年度まで	年 4.2%以内の利子補給 185,717
農業振興資金利子補給 1 相手方	令和7年度から 令和13年度まで	年 3.5%以内の利子補給 3,205

<p>農業協同組合その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 富山県農業振興資金融通要綱（平成12年農経第869号）に基づく資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 農業経営安定資金 100,000千円以内</p> <p>4 利子補給期間 7年以内</p>		
<p>球根優良品種導入資金利子補給</p> <p>1 相手方 農業協同組合その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 富山県球根優良品種導入資金融通要綱（昭和44年農政第1049号）に基づく資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 球根優良品種導入資金 40,000千円以内</p> <p>4 利子補給期間 3年以内</p>	<p>令和7年度から 令和9年度まで</p>	<p>年2.0%以内の利子補給 660</p>
<p>農業担い手育成強化資金利子補給</p> <p>1 相手方 市町村</p> <p>2 資金の種類 富山県農業担い手育成強化資金利子補給金交付要綱（平成13年農経第679号）に基づく資金</p>	<p>令和7年度から 令和13年度まで</p>	<p>年1.4%以内の利子補給 1,028</p>

<p>3 利子補給の対象となる貸付金 100,000 千円以内</p> <p>4 利子補給期間 7 年以内</p>		
<p>畜産特別資金利子補給</p> <p>1 相手方 農業協同組合その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 経営改善計画に基づき、借入金の償還軽減のため、農業協同組合その他の融資機関が畜産経営体に貸し付ける資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 100,000 千円以内</p> <p>4 利子補給期間 25年以内</p>	<p>令和 7 年度から 令和31年度まで</p>	<p>年 0.5 %以内の利子補給 2,884</p>
<p>家畜疾病経営維持資金利子補給</p> <p>1 相手方 農業協同組合その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 家畜伝染病等が発生した場合に、畜産経営の再開及び継続に必要な資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 455,440 千円以内</p> <p>4 利子補給期間 7 年以内</p>	<p>令和 7 年度から 令和12年度まで</p>	<p>年 1.0 %以内の利子補給 11,558</p>
<p>中山間地域活性化資金利子補給</p>	<p>令和 7 年度から 令和31年度まで</p>	<p>年 2.5 %以内の利子補給 8,251</p>

<p>1 相手方 農業協同組合その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 中山間地域の農業を総合的に振興し、地域の活性化を図るため、知事が定める要綱に基づき貸し付ける資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 60,000千円以内</p> <p>4 利子補給期間 25年以内</p>		
<p>農業経営基盤強化資金利子助成補助</p> <p>1 相手方 市町村</p> <p>2 資金の種類 日本政策金融公庫資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 100,000千円以内</p> <p>4 利子補給期間 7年以内</p>	<p>令和7年度から 令和13年度まで</p>	<p>年0.5%以内の利子補給 2,166</p>
<p>農業経営負担軽減支援資金利子補給</p> <p>1 相手方 農業協同組合その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 農家の既往債務の軽減を図るため、知事が定める要綱に基づき貸し付ける資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金</p>	<p>令和7年度から 令和21年度まで</p>	<p>年2.5%以内の利子補給 21,928</p>

<p>200,000 千円以内</p> <p>4 利子補給期間 15年以内</p>		
<p>新規就農者特別保証制度損失補償</p> <p>1 相手方 富山県農業信用基金協会 (以下「協会」という。)</p> <p>2 損失補償の対象 富山県が協会と締結する損失補償契約の対象となる債務保証につき、協会が代位弁済した額と保険金受領額との差額</p>	令和 6 年度	1,500
<p>富山県農林水産公社事業資金損失補償</p> <p>1 相手方 公益社団法人全国農地保有合理化協会</p> <p>2 損失補償の対象 公益社団法人全国農地保有合理化協会が富山県農林水産公社に農地中間管理事業農地売買事業資金を貸し付けたことについて損失を受けた場合のその損失</p>	令和 6 年度から 令和25年度まで	元金 118,000 千円及び延滞金並びに違約金相当額
<p>県営水利施設整備事業横江地区水管理制御設備更新工事</p>	令和 7 年度から 令和 8 年度まで	910,000
<p>県営農村地域防災減災事業打尾谷ため池地区打尾谷ため池堤体改修工事</p>	令和 7 年度から 令和 9 年度まで	1,830,000

県営農村地域防災減災事業 湯上池地区湯上池堤体改修 工事	令和7年度	390,000
県営農村地域防災減災事業 宮ヶ谷内池地区宮ヶ谷内池 堤体改修工事	令和7年度	270,000
県営農村地域防災減災事業 大浦大池地区大浦大池堤体 改修工事	令和7年度	270,000
県営農村地域防災減災事業 射水池多地区勅使ヶ池堤体 盛立工事	令和7年度	250,000
県営農村地域防災減災事業 赤田地区土川頭首工起伏堰 製作据付工事	令和7年度から 令和8年度まで	130,000
県営農村地域防災減災事業 赤田地区土川頭首工改修工 事	令和7年度から 令和8年度まで	200,000
富山県農林水産公社事業資 金損失補償 1 相手方 (株)日本政策金融公庫（以 下「公庫」という。） 2 損失補償の対象 公庫が富山県農林水産公 社（以下「公社」という。） に造林資金 334,857 千円 を貸し付けたことについ て損失を受けた場合のそ の損失	公庫が、公社に資金を貸し 付けたときから当該貸付金 の最終償還期限到来後10箇 月の期間が満了し、公庫が 補償の履行日として指定す る日まで	貸付金の最終償還期限到来 後10箇月の期間満了の日 （以下「損失確定日」とい う。）において、公庫が弁 済を受けていない元金 334,857 千円、その利子 （遅延利息を含む。）及び 損失確定日の翌日から補償 履行日まで年11%の割合に よる利子の範囲内
富山県農林水産公社事業資 金損失補償	令和6年度から 令和16年度まで	元金66,273千円及びその利 子の範囲内

<p>1 相手方 北陸銀行その他の金融機関</p> <p>2 損失補償の対象 北陸銀行その他の金融機関が富山県農林水産公社に造林資金66,273千円を貸し付けたことについて損失を受けた場合のその損失</p>		
<p>漁業近代化資金利子補給</p> <p>1 相手方 東日本信用漁業協同組合連合会その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 富山県漁業近代化資金制度実施要綱（平成17年水漁第 566 号）に基づく資金</p> <p>3 利子補給の対象となる貸付金 880,000 千円以内</p> <p>4 利子補給期間 20年以内</p>	<p>令和 7 年度から 令和27年度まで</p>	<p>年1.33%以内の利子補給 85,493</p>
<p>漁業近代化資金・沿岸漁業改善資金損失補償</p> <p>1 相手方 全国漁業信用基金協会</p> <p>2 損失補償の対象 中小漁業融資保証法（昭和27年法律第 346 号）に基づき債務保証したものに付き代位弁済した額</p>	<p>令和 6 年度</p>	<p>1,000 千円の範囲内において代位弁済したとき知事が認めた額</p>
<p>漁業経営安定等資金利子補給</p> <p>1 相手方</p>	<p>令和 7 年度から 令和22年度まで</p>	<p>年1.33%以内の利子補給 34,398</p>

<p>東日本信用漁業協同組合 連合会その他の融資機関</p> <p>2 資金の種類 漁業経営の維持安定等を 図るため、中小漁業者等 に貸し付ける資金</p> <p>3 利子補給の対象となる 貸付金 600,000 千円以内</p> <p>4 利子補給期間 15年以内</p>		
電子納品推進事業	令和 7 年度から 令和 9 年度まで	3,693
<p>富山県道路公社事業資金債 務保証</p> <p>1 相手方 北陸銀行その他の金融機 関</p> <p>2 債務保証の対象 富山県道路公社が立山有 料道路事業運転資金及び 能越自動車道有料道路事 業運転資金に充てる借入 金に係る債務</p>	令和 6 年度から 令和16年度まで	元金 1,100,000 千円及びそ の利子相当額
県単独災害防除事業	令和 7 年度	15,000
県単独道路維持修繕事業	令和 7 年度	60,000
一般国道 415 号道路橋りよ う改築上庄橋（仮称）上部 工工事	令和 7 年度から 令和 8 年度まで	440,000
主要地方道高岡小杉線道路 橋りよう改築下部工（P 1 － 3）工事	令和 7 年度	100,000

主要地方道富山魚津線道路 橋りょう改築今川橋上部工 工事	令和7年度から 令和10年度まで	5,195,000
主要地方道立山山田線道路 橋りょう改築高善寺橋旧橋 撤去工事	令和7年度	129,000
主要地方道富山高岡線道路 橋りょう改築藤子橋補修工 事	令和7年度から 令和8年度まで	360,000
一般県道古鹿熊滑川線道路 橋りょう改築辰野跨線橋補 修工事	令和7年度	340,000
道路橋りょう改築事業	令和7年度	1,350,000
県単独道路改良事業	令和7年度	313,000
道路総合交付金事業費	令和7年度	146,000
県単独橋りょう維持修繕事 業	令和7年度	30,000
県単独河川維持修繕事業	令和7年度	40,000
河川総合交付金事業費	令和7年度	100,000
中川水系沖田川河川改修鉄 道横断部放水路工その2委 託工事	令和7年度	24,000
鴨川河川改修放水路工工事	令和7年度	300,000
上市川ダム・上市川第二ダ ム河川改修（堰堤改良）ダ ム管理設備工事	令和7年度	300,000

利賀川ダム河川改修（堰堤改良）ダム管理設備工事	令和7年度	290,000
角川ダム河川改修（堰堤改良）ダム管理設備工事	令和7年度	250,000
久婦須川ダム河川改修（堰堤改良）ダム管理設備工事	令和7年度	350,000
境川ダム河川改修（堰堤改良）ダム管理設備工事	令和7年度	180,000
白岩川ダム河川改修（堰堤改良）ダム管理設備工事	令和7年度	350,000
河川改修事業	令和7年度	230,000
砂防総合交付金事業費	令和7年度	50,000
砂防関係施設整備事業	令和7年度	150,000
海岸総合交付金事業費	令和7年度	84,000
港湾海岸総合交付金事業費	令和7年度	60,000
県単独港湾運河維持修繕事業	令和7年度	20,000
港湾計画改訂調査事業	令和7年度	22,000
港湾総合交付金事業費	令和7年度	70,000
富山空港整備富山空港灯火電力監視制御装置更新工事 その2	令和7年度から 令和8年度まで	343,000
県単独都市計画街路改良事業	令和7年度	65,000

都市計画街路総合交付金事業費	令和7年度	83,000
街路事業	令和7年度	104,000
県民公園太閤山ランドプール広場塗装工事	令和7年度	20,000
県単独都市公園施設整備事業	令和7年度	150,000
都市公園総合交付金事業費	令和7年度	200,000
公営住宅ストック整備事業	令和7年度	33,000
キャッシュレス端末整備事業	令和6年度から 令和11年度まで	28,490
県立学校情報教育設備整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	643,873
県立学校施設長寿命化改修事業	令和7年度	575,872
県立高校建設事業	令和7年度	330,074
富山県総合教育センター情報教育設備整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	754
交通管制システム整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	339,596
遺失物管理器材整備事業	令和7年度	3,521
警察総合情報管理システム整備事業	令和7年度から 令和12年度まで	300,452
捜査用器材整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	22,264

刑事警察器材整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	5,066
航空機部品定額補償保険加入事業（機体部品）	令和7年度から 令和10年度まで	245,410
航空機部品定額補償保険加入事業（電子装備品）	令和7年度から 令和8年度まで	37,535
運転免許運営器材整備事業	令和7年度から 令和11年度まで	101,195
サイバー犯罪対策器材整備事業	令和7年度から 令和9年度まで	2,187

第3表 地方債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
県有施設整備費	3,567,000	普通貸借 又は 証券発行 (他の地方 公共団体と の共同発行 を含む。)	5.0以内 % (ただし、利 率見直し方式 で借り入れる 資金について、 利率の見直し を行った後に おいては、当 該見直し後の 利率)	借入れの年から据置期 間を含め50年以内に元 利均等、元金均等又は 満期一括で償還する。 ただし、財政の都合に より繰上償還し、償還 年限を短縮し、又は低 利債に借り換えること ができるものとする。 なお、借入先の融通条 件があるときは、これ に従うことができる。
防災対策推進費	11,000			
緊急防災・減災費	1,118,000			
並行在来線費	35,000			
公事等補助費	14,520,000			
県単独農林水産業 施設整備事業費	10,000			
直轄事業費金	10,046,000			
公園整備事業費	396,000			
公営住宅建設費	72,000			
地方道整備費	2,938,000			
自然災害防止費	1,904,000			
警察施設整備費	239,000			
高等学校整備費	2,998,000			
臨時高等学校費	431,000			
特別支援学校費	364,000			
地域活性化費	397,000			

施設整備補助費	329,000			
補助直轄災害復旧事業費	1,498,600			
単独災害復旧費	61,000			
行政改革推進費	1,000,000			
退職手当債	1,000,000			
臨時財政対策債	1,500,000			
計	44,434,600			

議案第 2 号

令和 6 年度富山県物品調達等管理特別会計予算

令和 6 年度富山県の物品調達等管理特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 1,072,196 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(地方債)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 2 表 地方債」による。

(一時借入金)

第 3 条 地方自治法第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、3,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰 越 金			8,913
	1 繰 越 金		8,913
2 諸 収 入			1,061,283
	1 雑 入		1,061,283
3 県 債			2,000
	1 県 債		2,000
歳 入 合 計			1,072,196
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 総 務 費			1,072,196
	1 総 務 管 理 費		1,072,196
歳 出 合 計			1,072,196

第2表 地方債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
自動車管理事業費	2,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 [%]	借入れの年から据置期間を含め30年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。

議案第 3 号

令和 6 年度富山県公債管理特別会計予算

令和 6 年度富山県の公債管理特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 150,807,278 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(地方債)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 2 表 地方債」による。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰 入 金			103,768,278
	1 一 般 会 計 繰 入 金		91,219,288
	2 基 金 繰 入 金		12,548,990
2 県 債			47,039,000
	1 県 債		47,039,000
歳 入 合 計			150,807,278
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 公 債 費			150,807,278
	1 公 債 費		150,807,278
歳 出 合 計			150,807,278

第2表 地 方 債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
借 換 債	47,039,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 [%]	借入れの年から据置期間を含め50年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。

議案第 4 号

令和 6 年度富山県収入証紙特別会計予算

令和 6 年度富山県の収入証紙特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 2,902,268 千円と定める。

- 2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 証 紙 収 入			2,902,267
	1 証 紙 収 入		2,902,267
2 繰 越 金			1
	1 繰 越 金		1
歳 入 合 計			2,902,268
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰 出 金			2,902,268
	1 他 会 計 繰 出 金		2,902,268
歳 出 合 計			2,902,268

議案第 5 号

令和 6 年度富山県母子父子寡婦福祉資金 特別会計予算

令和 6 年度富山県の母子父子寡婦福祉資金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 132,805 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(地方債)

第 2 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 2 表 地方債」による。

(一時借入金)

第 3 条 地方自治法第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、40,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰 入 金			22,861
	1 一般会計繰入金		22,861
2 繰 越 金			3,235
	1 繰 越 金		3,235
3 諸 収 入			66,115
	1 県預金利子		5
	2 貸付金元利収入		65,690
	3 雑 入		420
4 県 債			40,594
	1 県 債		40,594
歳 入 合 計			132,805
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 民 生 費			132,805
	1 児童福祉費		132,805
歳 出 合 計			132,805

母子父子寡婦福祉資金特別会計

第2表 地方債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
母子父子寡婦 福祉資金	40,594	普通貸借	無利子	母子及び父子並びに寡婦福祉法第37条第2項、第4項又は第6項に定める方法による。

議案第 6 号

令和 6 年度富山県中小企業活性化資金特別会計予算

令和 6 年度富山県の中小企業活性化資金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 569,965 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(地方債)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 2 表 地方債」による。

(一時借入金)

第 3 条 地方自治法第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、1,300,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰越金			176
	1 繰越金		176
2 諸収入			249,789
	1 県預金利子		23
	2 貸付金元利収入		248,266
	3 雑収入		1,500
3 県債			320,000
	1 県債		320,000
歳入合計			569,965
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 商工費			569,965
	1 工鉦業費		569,965
歳出合計			569,965

第2表 地方債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
中小企業 高度化資金	320,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 [%]	借入れの年から据置期間を含め30年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。

議案第 7 号

令和 6 年度富山県就農支援資金特別会計予算

令和 6 年度富山県の就農支援資金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 7,971 千円と定める。

- 2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰 越 金			4,705
	1 繰 越 金		4,705
2 諸 収 入			3,266
	1 貸付金元利収入		3,266
歳 入 合 計			7,971
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 農 林 水 産 業 費			7,971
	1 農 林 金 融 対 策 費		7,971
歳 出 合 計			7,971

議案第 8 号

令和 6 年度富山県沿岸漁業改善資金特別会計予算

令和 6 年度富山県の沿岸漁業改善資金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ70,909千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰入金			909
	1 一般会計繰入金		909
2 繰越金			55,634
	1 繰越金		55,634
3 諸収入			14,366
	1 県預金利子		1
	2 貸付金元利収入		14,364
	3 雑収入		1
歳入合計			70,909
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 農林水産業費			70,909
	1 水産業費		70,909
歳出合計			70,909

議案第 9 号

令和 6 年度富山県林業振興・有峰森林特別会計予算

令和 6 年度富山県の林業振興・有峰森林特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 297,785千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入		(単位 千円)
款	項	金 額
1 分担金及び負担金		55,679
	1 負 担 金	55,679
2 使用料及び手数料		86,001
	1 使 用 料	86,001
3 財 産 収 入		1
	1 財 産 売 払 収 入	1
4 繰 入 金		47,529
	1 一 般 会 計 繰 入 金	47,529
5 繰 越 金		17,829
	1 繰 越 金	17,829
6 諸 収 入		90,746
	1 県 預 金 利 子	7
	2 貸 付 金 元 利 収 入	31,589
	3 雑 入	59,150
歳 入 合 計		297,785

歳 出		(単位 千円)
款	項	金 額
1 農 林 水 産 業 費		297,785
	1 林 業 費	297,785
歳 出 合 計		297,785

議案第 10 号

令和 6 年度富山県奨学資金特別会計予算

令和 6 年度富山県の奨学資金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 127,600 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、5,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 繰 入 金			4,474
	1 一般会計繰入金		4,474
2 繰 越 金			22,453
	1 繰 越 金		22,453
3 諸 収 入			100,673
	1 貸付金元利収入		96,009
	2 雑 入		4,664
歳 入 合 計			127,600
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 教 育 費			127,600
	1 教育総務費		127,600
歳 出 合 計			127,600

議案第 11 号

令和 6 年度富山県公共用地先行取得事業 特別会計予算

令和 6 年度富山県の公共用地先行取得事業特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 1,922,601 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(債務負担行為)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 214 条の規定により債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額は、「第 2 表 債務負担行為」による。

(地方債)

第 3 条 地方自治法第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 3 表 地方債」による。

(一時借入金)

第 4 条 地方自治法第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、1,100,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 財 産 収 入			806,353
	1 財 産 運 用 収 入		3,205
	2 財 産 売 払 収 入		803,148
2 繰 越 金			16,248
	1 繰 越 金		16,248
3 県 債			1,100,000
	1 県 債		1,100,000
歳 入 合 計			1,922,601
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 総 務 費			3,205
	1 総 務 管 理 費		3,205
2 土 木 費			1,919,396
	1 土 木 管 理 費		593,149
	2 県単独公共用地先行取得事業費		1,321,247
	3 予 備 費		5,000

公共用地先行取得事業特別会計

歳 出 合 計	1,922,601

第2表 債務負担行為

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
県単独公共用地特別先行取得事業費	令和7年度から 令和8年度まで	300,000

第3表 地方債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
公共用地 先行取得事業費	1,100,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 [%]	借入れの年から据置期間を含め30年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。

議案第 12 号

令和 6 年度富山県「元富山県営水力電気並鉄道事業」 資金特別会計予算

令和 6 年度富山県の「元富山県営水力電気並鉄道事業」資金特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 7,000,600 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 財 産 収 入			160,428
	1 財 産 運 用 収 入		160,428
2 繰 越 金			6,840,103
	1 繰 越 金		6,840,103
3 諸 収 入			69
	1 県 預 金 利 子		69
歳 入 合 計			7,000,600
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 総 務 費			7,000,600
	1 総 務 管 理 費		7,000,600
歳 出 合 計			7,000,600

「元富山県営水力電気並鉄道事業」資金特別会計

議案第 13 号

令和 6 年度富山県国民健康保険特別会計予算

令和 6 年度富山県の国民健康保険特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ76,511,640千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、18,000,000千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入		(単位 千円)
款	項	金 額
1 分担金及び負担金		20,009,578
	1 負 担 金	20,009,578
2 国 庫 支 出 金		20,077,718
	1 国 庫 負 担 金	14,138,127
	2 国 庫 補 助 金	5,939,591
3 前期高齢者交付金		29,893,831
	1 前期高齢者交付金	29,893,831
4 共同事業交付金		254,095
	1 共同事業交付金	254,095
5 出産育児交付金		1,702
	1 出産育児交付金	1,702
6 財 産 収 入		399
	1 財 産 運 用 収 入	399
7 繰 入 金		5,661,364
	1 一般会計繰入金	4,651,364
	2 基金繰入金	1,010,000

国民健康保険特別会計

8 繰越金		612,953
	1 繰越金	612,953
歳入合計		76,511,640
歳出 (単位 千円)		
款	項	金額
1 総務費		3,145
	1 総務管理費	2,606
	2 運営協議会費	539
2 保険給付費等交付金		61,355,506
	1 保険給付費等交付金	61,355,506
3 後期高齢者支援金等		11,340,240
	1 後期高齢者支援金等	11,340,240
4 前期高齢者納付金等		11,531
	1 前期高齢者納付金等	11,531
5 介護納付金		3,487,125
	1 介護納付金	3,487,125
6 病床転換支援金等		6
	1 病床転換支援金等	6
7 共同事業拠出金		254,177

	1 共 同 事 業 抛 出 金	254,177
8 基 金 積 立 金		399
	1 基 金 積 立 金	399
9 保 健 事 業 費		56,757
	1 保 健 事 業 費	56,757
10 諸 支 出 金		2,754
	1 償 還 金 及 算 び 金	2,754
歳 出 合 計		76,511,640

議案第 14 号

令和 6 年度富山県港湾施設特別会計予算

令和 6 年度富山県の港湾施設特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 1,692,368 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(地方債)

第 2 条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第 230 条第 1 項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第 2 表 地方債」による。

(一時借入金)

第 3 条 地方自治法第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、1,000,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 使用料及び手数料			343,453
	1 使 用 料		343,453
2 繰 入 金			368,537
	1 一 般 会 計 繰 入 金		368,537
3 繰 越 金			1
	1 繰 越 金		1
4 諸 収 入			149,377
	1 雑 入		149,377
5 県 債			831,000
	1 県 債		831,000
歳 入 合 計			1,692,368
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 土 木 費			1,692,368
	1 港 湾 費		1,692,368
歳 出 合 計			1,692,368

港湾施設特別会計

第2表 地方債

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
伏木富山港ふ頭 用地造成事業費	167,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 % (ただし、利 率見直し方式 で借り入れる 資金について、 利率の見直し を行った後に おいては、当 該見直し後の 利率)	借入れの年から据置期 間を含め40年以内に元 利均等、元金均等又は 満期一括で償還する。 ただし、財政の都合に より繰上償還し、償還 年限を短縮し、又は低 利債に借り換えること ができるものとする。 なお、借入先の融通条 件があるときは、これ に従うことができる。
伏木富山港伏木 地区港湾関連 用地造成事業費	335,000			
伏木富山港新湊 地区港湾関連 用地造成事業費	104,000			
借換債	225,000			
計	831,000			

議案第 15 号

令和 6 年度富山県工業用地等管理特別会計予算

令和 6 年度富山県の工業用地等管理特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第 1 条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ 80,693 千円と定める。

2 歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第 1 表 歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第 2 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 235 条の 3 第 2 項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、100,000 千円と定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算

歳 入			(単位 千円)
款	項	金	額
1 使用料及び手数料			54,989
	1 使 用 料		54,989
2 財 産 収 入			25,315
	1 財 産 運 用 収 入		22,487
	2 財 産 売 払 収 入		2,828
3 繰 越 金			3
	1 繰 越 金		3
4 諸 収 入			386
	1 県 預 金 利 子		1
	2 雑 入		385
歳 入 合 計			80,693
歳 出			(単位 千円)
款	項	金	額
1 臨海工業用地 造成事業費			23,875
	1 臨海工業用地 造成事業費		23,875
2 太閤山住宅団地 造成事業費			2,827

工業用地等管理特別会計

	1 太閤山住宅団地造成事業費	2,827
3 ふ頭用地造成事業費		53,991
	1 ふ頭用地造成事業費	53,991
歳 出 合 計		80,693

令和 6 年度富山県病院事業会計予算

(総則)

第 1 条 令和 6 年度富山県病院事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第 2 条 業務の予定量は、次のとおりとする。

1 富山県立中央病院

(1) 事業量

(ア) 病床数	733床
一般病床	665床
結核病床	16床
感染症病床	2床
精神病床	50床

(イ) 患者数

入院患者	年間	224,000人	1日平均	614人
外来患者	年間	357,000人	1日平均	1,463人

(2) 主要な建設改良事業

中央病棟 A 改修事業	128,500千円
劣化改修事業	547,470千円
結核病床改修事業	168,000千円
医療器械整備	1,084,830千円

2 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

(1) 事業量

(ア) 病床数	232床
一般病床	232床

(イ) 患者数

入院患者	年間	75,555人	1日平均	207人
外来患者	年間	82,620人	1日平均	340人

(2) 主要な建設改良事業

劣化改修事業	53,000千円
--------	----------

医療器械整備

36,000千円

(収益的収入及び支出)

第3条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収 入

第1款 病院事業収益	33,152,000千円
第1項 医業収益	30,380,477千円
第2項 医業外収益	2,747,205千円
第3項 特別利益	24,318千円

支 出

第1款 病院事業費用	33,084,169千円
第1項 医業費用	32,857,735千円
第2項 医業外費用	225,933千円
第3項 特別損失	1千円
第4項 予備費	500千円

(資本的収入及び支出)

第4条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額1,729,454千円は、過年度分損益勘定留保資金1,729,454千円で補てんするものとする。）。

収 入

第1款 資本的収入	2,511,434千円
第1項 企業債	1,878,000千円
第2項 補助金	394,341千円
第3項 出資金	238,092千円
第4項 固定資産売却代金	1千円
第5項 資本剰余金	1,000千円

支 出

第1款 資本的支出	4,240,888千円
第1項 建設改良費	2,106,950千円
第2項 企業債償還金	2,133,438千円
第3項 予備費	500千円

(債務負担行為)

第5条 債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
富山県立中央病院診療材料調達・管理等業務委託	令和7年度から 令和9年度まで	62,500
富山県立中央病院手術支援ロボット保守業務委託	令和7年度から 令和11年度まで	90,420

(企業債)

第6条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利 率	償 還 の 方 法
富山県立中央病院劣化改修事業費	547,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内	借入れの年から据置期間を含め30年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。
富山県立中央病院中央病棟A改修事業費	128,000			
富山県立中央病院結核病床改修事業費	113,000			
富山県立中央病院医療器械整備事業費	822,000			
富山県立中央病院借換債	150,000			
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター劣化改修事業費	53,000			
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター医療器械整備事業費	36,000			

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 借換債	29,000			
計	1,878,000			

(一時借入金)

第7条 一時借入金の限度額は、2,822,341千円と定める。

(議会の議決を経なければ流用することができない経費)

第8条 次に掲げる経費については、これらの経費の金額を、これらの経費のうち他の経費の金額に、若しくはこれら以外の経費の金額に流用し、又はこれら以外の経費をこれらの経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職員給与費 13,354,840千円

(2) 交際費 300千円

(他会計からの補助金)

第9条 営業助成のため、一般会計からこの会計へ補助を受ける金額は、1,876,629千円である。

(たな卸資産購入限度額)

第10条 たな卸資産の購入限度額は、7,730,157千円と定める。

(重要な資産の取得)

第11条 重要な資産の取得は、次のとおりとする。

	種類	名称	数量
1 取得する資産	医療器械	手術支援ロボット	1
	医療器械	注射自動払出装置	2
	医療器械	内視鏡手術システム	1
	医療器械	デジタルパソロジーシステム	1

令和6年2月26日 提出

富山県知事 新田 八朗

令和 6 年度富山県流域下水道事業会計予算

(総則)

第 1 条 令和 6 年度富山県流域下水道事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第 2 条 業務の予定量は、次のとおりとする。

(1) 流域関連市数	6 市
(2) 年間総処理水量	46,633,673m ³
(3) 1 日平均処理水量	127,763m ³
(4) 主要な建設改良事業	
流域下水道事業費	1,621,988千円

(収益的収入及び支出)

第 3 条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収 入

第 1 款 事業収益	7,772,616千円
第 1 項 営業収益	3,088,361千円
第 2 項 営業外収益	4,684,235千円
第 3 項 特別利益	20千円

支 出

第 1 款 事業費	7,563,527千円
第 1 項 営業費用	7,356,164千円
第 2 項 営業外費用	206,843千円
第 3 項 特別損失	20千円
第 4 項 予備費	500千円

(資本的収入及び支出)

第 4 条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 241,327 千円は、過年度分損益勘定留保資金 241,327 千円で補てんするものとする。）。

収 入

第 1 款 資本的収入	2,371,909千円
-------------	-------------

第1項 企業債	379,700千円
第2項 補助金	1,671,059千円
第3項 建設負担金	319,800千円
第4項 受託工事収入	1,350千円

支 出

第1款 資本的支出	2,613,236千円
第1項 建設改良費	1,630,052千円
第2項 受託工事費	1,350千円
第3項 企業債償還金	981,834千円

(債務負担行為)

第5条 債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
小矢部川流域下水道二上浄化センター最終沈殿池汚泥掻寄機更新工事	令和7年度から 令和8年度まで	540,000
小矢部川流域下水道二上浄化センター砂ろ過機更新工事	令和7年度から 令和8年度まで	240,000
神通川左岸流域下水道神通川左岸浄化センター汚泥脱水設備更新工事	令和7年度から 令和8年度まで	452,000

(企業債)

第6条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
			%	

流域下水道事業費	379,700	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 (ただし、 利率見直し 方式で借り 入れる資金 について、 利率の見直 しを行った 後において は、当該見 直し後の利 率)	借入れの年から据置期 間を含め40年以内に元 利均等、元金均等又は 満期一括で償還する。 ただし、財政の都合に より繰上償還し、償還 年限を短縮し、又は低 利債に借り換えること ができるものとする。 なお、借入先の融通条 件があるときは、これ に従うことができる。
----------	---------	--------------------	---	---

(一時借入金)

第7条 一時借入金の限度額は、2,000,000千円と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第8条 次に掲げる経費については、その経費の金額を、それ以外の経費の金額に流用し、又はそれ以外の経費をその経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職員給与費 74,905千円

(他会計からの補助金)

第9条 経営助成のため、一般会計からこの会計へ補助を受ける金額は、868,127千円である。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

令和 6 年度富山県電気事業会計予算

(総則)

第 1 条 令和 6 年度富山県電気事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第 2 条 業務の予定量は、次のとおりとする。

- | | | | |
|---------------|------------|-----|-------------|
| (1) 年間販売電力量 | 302,077MWh | | |
| (2) 主要な建設改良事業 | 固定資産改良事業 | 事業費 | 433,623千円 |
| | 発電所老朽化対策事業 | 事業費 | 2,738,154千円 |

(収益的収入及び支出)

第 3 条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。なお、特別損失中その他特別損失 1,916,264 千円の財源にあてるため、企業債 1,884,000 千円を借り入れる。

	収	入
第 1 款 事業収益		5,136,990千円
第 1 項 営業収益		4,734,077千円
第 2 項 財務収益		2,979千円
第 3 項 営業外収益		399,914千円
第 4 項 特別利益		20千円

	支	出
第 1 款 事業費		7,024,577千円
第 1 項 営業費用		4,943,148千円
第 2 項 財務費用		37,130千円
第 3 項 営業外費用		123,015千円
第 4 項 特別損失		1,916,284千円
第 5 項 予備費		5,000千円

(資本的収入及び支出)

第 4 条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 753,467 千円は、過年度分損益勘定留保資金 753,467 千円で補てんするものとする。）。

収 入	
第1款 資本的収入	2,697,020千円
第1項 企業債	2,697,000千円
第2項 受託工事収入	10千円
第3項 雑 入	10千円

支 出	
第1款 資本的支出	3,450,487千円
第1項 建設改良費	3,171,777千円
第2項 受託工事費	10千円
第3項 企業債償還金	274,700千円
第4項 予 備 費	4,000千円

(債務負担行為)

第5条 債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
低濃度P C B廃棄物無害 化处理業務委託費	令和7年度	24,882
主要変圧器更新工事費	令和7年度	140,899
発電所主要機器修繕工事	令和7年度	594,000
水車発電機細密点検工事 費	令和7年度	45,628
発電所及びダム設備機器 更新工事費	令和7年度	99,473
発電所通信環境拡充工事 費	令和7年度	64,854
太陽光発電所保守点検業	令和7年度	6,533

務委託費		
発電所機器更新工事費	令和7年度から 令和8年度まで	46,332
秘書業務労働者派遣費	令和7年度から 令和9年度まで	11,398

(企業債)

第6条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
発電所老朽化対策事業費 (建設改良費分)	2,697,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 (ただし、 利率見直し 方式で借り 入れる資金 について、 利率の見直 しを行った 後において は、当該見 直し後の利 率)	借入れの年から据置期間を含め40年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。
発電所老朽化対策事業費 (特別損失分)	1,884,000			
計	4,581,000			

(一時借入金)

第7条 一時借入金の限度額は、2,500,000千円と定める。

(予定支出の各項の経費の金額の流用)

第8条 予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、営業外費用に計上した消費税及び地方消費税に係る予定額に不足を生じた場合における営業費用からの流用をする場合と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第9条 次に掲げる経費については、これらの経費の金額を、これらの経費のうち

他の経費の金額に、若しくはこれら以外の経費の金額に流用し、又はこれら以外の経費をこれらの経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

- (1) 職員給与費 801,638千円
- (2) 交際費 190千円

令和6年2月26日 提出

富山県知事 新 田 八 朗

令和 6 年度富山県水道事業会計予算

(総則)

第 1 条 令和 6 年度富山県水道事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第 2 条 業務の予定量は、次のとおりとする。

(1) 年間総給水量	37,227,810m ³		
(2) 主要な建設改良事業	西部水道用水供給事業	事業費	695,327千円
	東部水道用水供給事業	事業費	45,353千円
	固定資産改良事業	事業費	372,333千円

(収益的収入及び支出)

第 3 条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

	収	入
第 1 款 事業収益		1,703,544千円
第 1 項 営業収益		1,600,728千円
第 2 項 営業外収益		102,796千円
第 3 項 特別利益		20千円
	支	出
第 1 款 事業費		1,613,135千円
第 1 項 営業費用		1,565,550千円
第 2 項 営業外費用		47,065千円
第 3 項 特別損失		20千円
第 4 項 予備費		500千円

(資本的収入及び支出)

第 4 条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額514,397千円は、当年度分損益勘定留保資金459,558千円、過年度分損益勘定留保資金54,839千円で補てんするものとする。）。

	収	入
第 1 款 資本的収入		893,497千円
第 1 項 企業債		568,000千円

第2項 長期借入金	45,487千円
第3項 工事負担金	280,000千円
第4項 雑入	10千円

支 出

第1款 資本的支出	1,407,894千円
第1項 建設改良費	1,113,013千円
第2項 企業債償還金	294,881千円

(企業債)

第5条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
西部水道用水費供給事業費	519,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 (ただし、 利率見直し 方式で借り 入れる資金 について、 利率の見直 しを行った 後において は、当該見 直し後の利 率)	借入れの年から据置期間を含め40年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。
東部水道用水費供給事業費	49,000			
計	568,000			

(一時借入金)

第6条 一時借入金の限度額は、1,400,000千円と定める。

(予定支出の各項の経費の金額の流用)

第7条 予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、営業外費用に計上した消費税及び地方消費税に係る予定額に不足を生じた場合における営業費用からの流用をする場合と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第8条 次に掲げる経費については、これらの経費の金額を、これらの経費のうち

他の経費の金額に、若しくはこれら以外の経費の金額に流用し、又はこれら以外の経費をこれらの経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職員給与費 322,203千円

(2) 交際費 55千円

(たな卸資産購入限度額)

第9条 たな卸資産の購入限度額は、70,000千円と定める。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

令和 6 年度富山県工業用水道事業会計予算

(総則)

第 1 条 令和 6 年度富山県工業用水道事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第 2 条 業務の予定量は、次のとおりとする。

(1) 年間総給水量	75,146,565m ³		
(2) 主要な建設改良事業			
富山県西部工業用水道建設事業	事業費	2,850,547千円	
富山八尾中核工業団地工業用水道建設事業	事業費	939千円	
利賀川工業用水道建設事業	事業費	93,339千円	
固定資産改良事業	事業費	222,922千円	

(収益的収入及び支出)

第 3 条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収 入	
第 1 款 事業収益	2,423,658千円
第 1 項 営業収益	2,034,250千円
第 2 項 営業外収益	389,388千円
第 3 項 特別利益	20千円
支 出	
第 1 款 事業費	2,170,260千円
第 1 項 営業費用	2,134,577千円
第 2 項 営業外費用	35,163千円
第 3 項 特別損失	20千円
第 4 項 予備費	500千円

(資本的収入及び支出)

第 4 条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額800,454千円は、当年度分損益勘定留保資金741,946千円、過年度分損益勘定留保資金58,508千円で補てんするものとする。）。

収 入

第1款 資本的収入	2,602,634千円
第1項 企業債	2,520,400千円
第2項 長期借入金	55,782千円
第3項 補助金	23,900千円
第4項 受託工事収入	1,552千円
第5項 工事負担金	1,000千円

支 出

第1款 資本的支出	3,403,088千円
第1項 建設改良費	3,167,747千円
第2項 受託工事費	1,552千円
第3項 企業債償還金	203,789千円
第4項 他会計借入金償還金	30,000千円

(企業債)

第5条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

(単位 千円)

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
富山県西部工業用水道建設事業費	2,340,600	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 (ただし、 利率見直し 方式で借り 入れる資金 について、 利率の見直 しを行った 後において は、当該見 直し後の利 率)	借入れの年から据置期間を含め40年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。
固定資産改良費	179,800			
計	2,520,400			

(一時借入金)

第6条 一時借入金の限度額は、1,500,000千円と定める。

(予定支出の各項の経費の金額の流用)

第7条 予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、営業外費用に計上した消費税及び地方消費税に係る予定額に不足を生じた場合における営業費用からの流用をする場合と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第8条 次に掲げる経費については、これらの経費の金額を、これらの経費のうち他の経費の金額に、若しくはこれら以外の経費の金額に流用し、又はこれら以外の経費をこれらの経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職員給与費 301,729千円

(2) 交際費 55千円

(たな卸資産購入限度額)

第9条 たな卸資産の購入限度額は、74,000千円と定める。

令和6年2月26日 提出

富山県知事 新田 八朗

令和 6 年度富山県地域開発事業会計予算

(総則)

第 1 条 令和 6 年度富山県地域開発事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第 2 条 業務の予定量は、次のとおりとする。

(1) 駐車場年間総駐車台数 82,855台

(収益的収入及び支出)

第 3 条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収 入

第 1 款 事業収益	65,612千円
第 1 項 営業収益	63,906千円
第 2 項 営業外収益	1,686千円
第 3 項 特別利益	20千円

支 出

第 1 款 事業費	50,243千円
第 1 項 営業費用	44,655千円
第 2 項 営業外費用	5,068千円
第 3 項 特別損失	20千円
第 4 項 予備費	500千円

(資本的収入及び支出)

第 4 条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額38,738千円は、当年度分損益勘定留保資金16,354千円、過年度分損益勘定留保資金22,384千円で補てんするものとする。）。

収 入

第 1 款 資本的収入	10千円
第 1 項 雑入	10千円

支 出

第 1 款 資本的支出	38,748千円
第 1 項 建設改良費	2,200千円

第2項 他会計借入金償還金

36,548千円

(一時借入金)

第5条 一時借入金の限度額は、500,000千円と定める。

(予定支出の各項の経費の金額の流用)

第6条 予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、営業外費用に計上した消費税及び地方消費税に係る予定額に不足を生じた場合における営業費用からの流用をする場合と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第7条 次に掲げる経費については、その経費の金額を、それ以外の経費の金額に流用し、又はそれ以外の経費をその経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職員給与費 6,769千円

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

議案第 22 号

富山県デジタルによる変革推進条例制定の件

富山県デジタルによる変革推進条例を次のように定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県デジタルによる変革推進条例

目次

前文

第 1 章 総則（第 1 条—第 7 条）

第 2 章 デジタルによる変革の推進に関する実施計画等（第 8 条）

第 3 章 デジタルによる変革の推進に関する基本的施策（第 9 条—第 13 条）

第 4 章 財政措置等（第 14 条）

第 5 章 推進体制の整備（第 15 条）

附則

近年、人口減少と少子高齢化が急速に進展し、本県でも、就職期の若者の流出、特に若い女性の社会減が続き、出生数の減少が続く深刻な状況となっている。人口減少と少子高齢化の進展は、社会を支える担い手不足に伴うサービスの質や産業競争力、地域社会の機能の低下などを招くことが懸念される。

このような中で、行政運営や事業活動におけるデジタルの活用は、これまで人が担ってきた業務のデジタルへの置換えによる業務のスピードや正確性の向上に伴う労働力不足の解消、生産性の向上が実現されるほか、多くのデータの取得とその活用等による県民一人ひとりに寄り添った新しいサービスやビジネスの創出、新たな方法による地域社会の課題解決などが期待される。また、デジタルの活用により時間や場所に拘束されずに働き、移動時間及び通勤時間の短縮で生じた時間を子育てや地域活動に使うなど、個々の事情に応じた柔軟で多様な働き方が可能となる。

これまで経験したことがない人口減少の時代が到来する中で、本県の産業が発展し、県民がゆとりと豊かさを実感できる生活を実現していくためには、デジタルをさらに活用して、より多様かつ複雑になっていく課題を解決しながら、デジタルによる変革に社会全体で取り組む必要がある。

ここに、県民、事業者、市町村、県といった地域社会の全ての構成員が、デジタルによる変革を推進するに当たっての基本理念を共有するとともに、それぞれが果たす役割を理解した上で、より強力な推進体制の下、互いに連携及び協力しながらデジタルによる変革に取り組み、もってゆとりと豊かさを実感できる富山県を実現するため、この条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、人口減少や少子高齢化、国内外での産業の競争の激化、地域社会の機能の維持など、本県が直面する課題を克服するためには、デジタルによる変革が極めて重要であるということに鑑み、デジタル社会形成基本法（令和3年法律第35号）の趣旨を踏まえ、富山県におけるデジタルによる変革の推進に関し、基本理念を定め、県の責務並びに県民及び事業者の役割を明らかにするとともに、デジタルによる変革を推進する体制及び基本的施策を定めることにより、デジタルによる変革を総合的かつ計画的に推進し、もって本県経済の持続的かつ健全な発展と県民の幸福な生活の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) デジタル デジタル社会形成基本法第2条に規定する情報通信技術をいう。
- (2) デジタルによる変革 デジタルを適正かつ効果的に活用することにより、社会をあらゆる面でより良い方向に変化させることをいう。

(基本理念)

第3条 デジタルによる変革は、人口減少、少子高齢化の進展その他本県が直面する様々な課題を克服し、産業競争力の強化及び活力ある地域社会の実現に寄与するために推進されなければならない。

2 デジタルによる変革は、全ての県民がゆとりと豊かさを実感できる生活の実現に寄与するために推進されなければならない。

3 デジタルによる変革は、デジタルの活用が目的ではなく、手段の一つであるという認識の下に推進しなければならない。

4 デジタルによる変革は、地域社会のあらゆる分野において、多様な主体が連携し、及び協力しながら推進するものとする。

5 デジタルによる変革の推進に当たっては、地理的な制約、年齢、障害の有無等にかかわらず、全ての県民がデジタルによる変革の推進の成果を享受できるよう、情報格差の解消に取り組まなければならない。

6 デジタルによる変革の推進に当たっては、個人及び団体の権利利益を害さないよう適切な情報セキュリティ対策が講じられなければならない。

(県の責務)

第4条 県は、前条に規定する基本理念にのっとり、デジタルによる変革の推進に関する総合的な施策を策定し、実施する責務を有する。

2 県は、広報活動等を通じて、デジタルによる変革の推進の重要性に関する県民の理解を深めるとともに、県民のデジタルの利用等を促進するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

3 県は、県政の全ての行政運営において、デジタルによる変革を進めるものとする。

(市町村との連携)

第5条 県は、地域社会におけるデジタルによる変革の推進に当たっては、市町村と連携し実施するよう努めるものとする。

2 県は、市町村が進めるデジタルによる変革に関し必要な情報を提供し、及び市町村の求めに応じ技術的な助言を行うものとする。

(県民の役割)

第6条 県民は、人口減少と少子高齢化が進展する中で、サービスの質の維持及び向上、産業競争力の維持及び強化、ゆとりと豊かさを実感できる生活を実現していくためには、デジタルによる変革を推進していくことが重要であることを理解することに努めるとともに、デジタルを活用した社会経済活動への参加やデジタルを活用した行政手続及び行政サービスの積極的な利用に努めるものとする。

(事業者の役割)

第7条 事業者は、自らの事業活動においてデジタルによる変革を推進するよう努めるとともに、県が実施するデジタルによる変革の推進に関する施策に協力するよう努めるものとする。

第2章 デジタルによる変革の推進に関する実施計画等

(実施計画の策定)

第8条 知事は、デジタルによる変革の推進に関する施策の総合的かつ計画的な実

施を図るための計画（以下「実施計画」という。）を策定するものとする。

2 実施計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) デジタルによる変革の推進に関する目標
- (2) デジタルによる変革の推進に関する施策の基本となる事項
- (3) デジタルによる変革を推進するための体制の整備に関する事項
- (4) その他デジタルによる変革を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 知事は、実施計画を策定し、又は変更したときは、速やかに、これを公表しなければならない。

第3章 デジタルによる変革の推進に関する基本的施策

（行政サービスの利便性や質の向上）

第9条 県は、デジタルを活用した行政手続その他行政サービスの利便性や質の向上に必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（産業競争力の強化）

第10条 県は、デジタルを導入する事業者への支援、データの活用等により新しいサービスやビジネスを創出する事業者への支援その他産業競争力の強化に必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（活力ある地域社会の実現）

第11条 県は、防災、観光、交通、子育て、福祉等様々な分野でデジタルを活用して地域課題を解決する取組その他活力ある地域社会の実現に必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（人材の育成）

第12条 県は、デジタルに関する専門的な知識又は技術を有する人材その他デジタルによる変革の推進に必要な人材を育成するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（働き方改革の推進）

第13条 県は、デジタルを活用した多様で柔軟な働き方の推進、業務の効率化その他働き方改革の推進に必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

第4章 財政措置等

（財政上の措置等）

第14条 県は、デジタルによる変革の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

第5章 推進体制の整備

(推進体制の整備)

第15条 県は、デジタルによる変革を推進するため、必要な体制を整備するものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 23 号

地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定の件

地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の一部を次のように定める。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

(昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例の一部改正)

第1条 昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例(平成元年富山県条例第2号)の一部を次のように改正する。

第3条中「第243条の2の2」を「第243条の2の8」に改める。

(富山県知事等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の一部改正)

第2条 富山県知事等の損害賠償責任の一部免責に関する条例(令和2年富山県条例第1号)の一部を次のように改正する。

第1条中「第243条の2第1項」を「第243条の2の7第1項」に、「第243条の2の2第3項」を「第243条の2の8第3項」に改める。

第2条第1号中「第173条第1項第1号」を「第173条の4第1項第1号」に改め、同条第2号中「第173条第1項第2号」を「第173条の4第1項第2号」に改める。

(富山県公営企業の設置等に関する条例及び富山県流域下水道事業の設置等に関する条例の一部改正)

第3条 次に掲げる条例の規定中「第243条の2の2第8項」を「第243条の2の8第8項」に改める。

(1) 富山県公営企業の設置等に関する条例(昭和41年富山県条例第60号)第5条

(2) 富山県流域下水道事業の設置等に関する条例(昭和62年富山県条例第41号)

第5条

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。

議案第 24 号

富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例一部改正の件

富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の一部を改正する条例

富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例（平成15年富山県条例第54号）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 号中「の条例」の次に「（富山県議会委員会条例（昭和31年富山県条例第37号）を除く。）」を、「第67号）」の次に「第 120 条の会議規則及び同法第 130 条第 3 項の規則を除き、同法」を、「含む。）」の次に「、議会の規程」を加える。

第 2 条第 6 号に後段として次のように加える。

この場合において、経由機関（条例等の規定に基づき県の機関等以外の者を經由して行われる申請等における当該県の機関等以外の者をいう。以下この号において同じ。）があるときは、当該申請等については、当該申請等をする者から経由機関に対して行われるもの及び経由機関から他の経由機関又は当該申請等を受ける県の機関等に対して行われるものごとに、それぞれ別の申請等とみなして、この条例の規定を適用する。

第 2 条第 7 号に後段として次のように加える。

この場合において、経由機関（条例等の規定に基づき県の機関等以外の者を經由して行う処分通知等における当該県の機関等以外の者をいう。以下この号において同じ。）があるときは、当該処分通知等については、当該処分通知等を行う県の機関等が経由機関に対して行うもの及び経由機関が他の経由機関又は当該処分通知等を受ける者に対して行うものごとに、それぞれ別の処分通知等とみなして、この条例の規定を適用する。

第3条第1項中「県の機関等は、」を削り、「規定により」を「規定において」に、「としている」を「その他のその方法が規定されている」に改め、「いう」の次に「。以下この条及び次条において同じ」を加え、「使用して行わせる」を「使用する方法により行う」に改め、同条第2項中「前項の規定」を「前項の電子情報処理組織を使用する方法」に、「を書面等により行うものとして規定した申請等に関する」を「に関する他の」に、「規定する書面等」を「規定する方法」に改め、「みなして、」の次に「当該条例等その他の」を加え、同条第3項中「規定」を「電子情報処理組織を使用する方法」に、「同項の」を「当該申請等を受ける」に改め、同条第4項中「第1項の場合において、県の機関等は、」を「申請等のうち」に、「より」を「おいて」に、「としているもの」を「が規定されているものを第1項の電子情報処理組織を使用する方法により行う場合には、当該署名等」に、「当該署名等に代えさせる」を「代える」に改め、同条に次の1項を加える。

5 申請等をする者について対面により本人確認をするべき事情がある場合、申請等に係る書面等のうちにその原本を確認する必要があるものがある場合その他の当該申請等のうちに第1項の電子情報処理組織を使用する方法により行うことが困難又は著しく不相当と認められる部分がある場合として規則で定める場合には、規則で定めるところにより、当該申請等のうち当該部分以外の部分につき、前各項の規定を適用する。この場合において、第2項中「行われた申請等」とあるのは、「行われた申請等（第5項の規定により前項の規定を適用する部分に限る。以下この項から第4項までにおいて同じ。）」とする。

第3条の次に次の1条を加える。

（申請等に係る添付書面等の省略）

第3条の2 申請等をする者に係る住民票の写し、登記事項証明書その他の規則で定める書面等であって当該申請等に関する他の条例等の規定において当該申請等に際し添付することが規定されているものについては、当該条例等の規定にかかわらず、県の機関等が、当該申請等をする者が行う電子情報処理組織を使用した個人番号カード（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第2条第7項に規定する個人番号カードをいう。）の利用その他の措置であって当該書面等の区分に応じ規則で定めるものにより、直接に、又は電子情報処理組織を使用して、当該書面等により確認すべき事項に係る情報を入手し、又は参照することができる場合には、添付することを

要しない。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後の富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例（以下「新条例」という。）第3条の規定は、この条例の施行の日以後に行われる申請等（新条例第2条第6号に規定する申請等をいう。）について適用し、同日前に行われた電子情報処理組織による申請等（この条例による改正前の富山県行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例第2条第6号に規定する申請等をいう。）については、なお従前の例による。

議案第 25 号

富山県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例一部改正の
件

富山県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例の一部を改正する条例

富山県知事の権限に属する事務の処理の特例に関する条例（平成11年富山県条例第50号）の一部を次のように改正する。

別表第 1 第19項中「漁港漁場整備法」を「漁港及び漁場の整備等に関する法律」に改め、同表第36項を次のように改める。

36 建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律（平成27年法律第53号）及び建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則（平成28年国土交通省令第 5 号）に基づく事務のうち、施行規則で定めるもの

別表第 2 第 8 項中「漁港漁場整備法」を「漁港及び漁場の整備等に関する法律」に改める。

別表第 4 第11項中「及び」を「、」に改め、「改正前の医療法」の次に「及び法の施行に関し知事が定める規則」を加え、同表第30項中「漁港漁場整備法」を「漁港及び漁場の整備等に関する法律」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 26 号

富山県住民基本台帳法施行条例一部改正の件

富山県住民基本台帳法施行条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県住民基本台帳法施行条例の一部を改正する条例

第 1 条 富山県住民基本台帳法施行条例（平成14年富山県条例第38号）の一部を次のように改正する。

第 2 条の見出し中「本人確認情報」の次に「及び附票本人確認情報」を加え、同条中「第30条の15第 1 項第 2 号」の次に「及び法第30条の44の 6 第 1 項第 2 号」を加える。

第 3 条の見出し中「本人確認情報」の次に「及び附票本人確認情報」を加え、同条中「第30条の15第 2 項第 2 号」の次に「及び法第30条の44の 6 第 2 項第 2 号」を加え、「同号」を「法第30条の15第 2 項第 2 号及び法第30条の44の 6 第 2 項第 2 号」に改める。

第 4 条の見出し中「本人確認情報」の次に「及び附票本人確認情報」を加え、同条中「提供」の次に「及び法第30条の44の 6 第 2 項（第 2 号に係る部分に限る。）の規定による同条第 1 項に規定する都道府県知事保存附票本人確認情報の知事以外の執行機関への提供」を、「当該都道府県知事保存本人確認情報」の次に「又は当該都道府県知事保存附票本人確認情報」を加える。

第 5 条中「第30条の40第 1 項」の次に「（法第30条の44の12において準用する場合を含む。）」を加える。

第10条の見出し中「本人確認情報」の次に「及び附票本人確認情報」を加え、同条中「第30条の32第 2 項」の次に「（法第30条の44の12において準用する場合を含む。）」を、「本人確認情報」の次に「及び附票本人確認情報」を加える。
第 2 条 富山県住民基本台帳法施行条例の一部を次のように改正する。

第 5 条及び第10条中「第30条の44の12」を「第30条の44の13」に改める。

附 則

この条例は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上

並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律（令和元年法律第16号）附則第1条第10号に掲げる規定の施行の日又はこの条例の公布の日のいずれか遅い日から施行する。ただし、第2条の規定は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律（令和5年法律第48号）の施行の日から施行する。

議案第 27 号

富山県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例一部改正の件

富山県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例

富山県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例（平成27年富山県条例第62号）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「第19条第10号」を「第19条第11号」に改める。

第 2 条第 1 項中「法別表第 2 の第 2 欄に掲げる事務」を「法第19条第 8 号に規定する特定個人番号利用事務（以下「特定個人番号利用事務」という。）」に改め、同条第 3 項中「法別表第 2 の第 2 欄に掲げる事務」を「特定個人番号利用事務」に、「同表の第 4 欄に掲げる特定個人情報」を「法第19条第 8 号に規定する利用特定個人情報」に、「当該特定個人情報」を「当該利用特定個人情報」に改める。

第 3 条の見出し中「第 9 条第 3 項」を「第 9 条第 4 項」に改める。

第 4 条中「第19条第10号」を「第19条第11号」に改める。

別表第 2 第 1 項の表中「法別表第 2 の第 2 欄に掲げる事務（法第19条第 7 号の規定により同表の第 4 欄に規定する）」を「特定個人番号利用事務（）」に改める。

附 則

この条例は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律（令和 5 年法律第48号）の施行の日から施行する。

議案第 28 号

富山県職員定数条例一部改正の件

富山県職員定数条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県職員定数条例の一部を改正する条例

富山県職員定数条例（昭和27年富山県条例第3号）の一部を次のように改正する。
第2条の表中「1,103人」を「1,117人」に、「2,696人」を「2,682人」に、
「557人」を「545人」に、「7,978人」を「7,966人」に改める。

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。

議案第 29 号

富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例一部改正の件

富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例の一部を改正する条例

(富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例の一部改正)

第 1 条 富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例（昭和48年富山県条例第 1 号）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 2 項第 9 号を次のように改める。

(9) 看護職員等処遇改善手当

第11条の見出しを「（看護職員等処遇改善手当）」に改め、同条第 1 項中「看護職員等処遇改善手当」を「看護職員等処遇改善手当」に、「又は」を「若しくは」に改め、「である職員」の次に「又は人事委員会がこれらに準ずると認める職員」を加える。

第37条第 1 項第 1 号中「業務」の次に「（第 4 号に掲げる業務を除く。）」を加え、同項に次の 1 号を加える。

(4) 災害応急作業等に従事する職員 異常な自然現象又は大規模な事故により重大な災害が発生し、若しくは発生するおそれのある箇所又はその周辺において行う災害応急作業等の業務であつて、人事委員会規則で定めるもの

第37条第 2 項中「及び第 2 号」を「、第 2 号及び第 4 号」に改める。

第 2 条 富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例の一部を次のように改正する。

第 5 条第 1 項第 1 号及び第 3 号中「女性相談センター」を「女性相談支援センター」に改める。

第12条第 2 項中「3,550 円」を「7,300 円」に改める。

第37条第 1 項第 1 号中「第 4 号」を「第 3 号及び第 5 号」に改め、同項中第 4

号を第5号とし、第3号を第4号とし、第2号の次に次の1号を加える。

(3) 農林水産総合技術センターに勤務する職員 試験研究のため、潜水器具を着用して行う潜水業務

第37条第2項中「第4号」を「第5号」に改め、「同項第3号」の次に「にあつては勤務1時間につき1,500円を超えない範囲内において人事委員会規則で定める額、同項第4号」を加え、同条第3項中「第1項第3号」を「第1項第4号」に改める。

第38条第1項各号列記以外の部分中「、計量検定所又は土木センター」を「又は計量検定所」に改める。

附 則

(施行期日等)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 第1条の規定による改正後の富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例（以下この項及び次項において「新条例」という。）第37条第1項及び第2項の規定は令和6年1月1日から、新条例第2条第2項第9号及び第11条の規定は同年2月1日から適用する。

(手当の内払)

- 3 職員が、この条例による改正前の富山県一般職の職員等の特殊勤務手当等に関する条例第37条の規定に基づいて、令和6年1月1日以後の分として支給を受けた特殊現場作業手当は、新条例第37条の規定による特殊現場作業手当の内払とみなす。

議案第 30 号

富山県職員等退職手当支給条例一部改正の件

富山県職員等退職手当支給条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県職員等退職手当支給条例の一部を改正する条例

富山県職員等退職手当支給条例（昭和37年富山県条例第52号）の一部を次のように改正する。

附則第11項中「第35条」を「第35条の2」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 31 号

富山県「北日本放送」社会福祉事業基金条例一部改正の件

富山県「北日本放送」社会福祉事業基金条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県「北日本放送」社会福祉事業基金条例の一部を改正する条例

富山県「北日本放送」社会福祉事業基金条例（昭和39年富山県条例第15号）の一部を次のように改正する。

第 2 条の見出し中「種類」を「種類等」に改め、同条中「1 万株」を「140 万株」に改め、「増資」の次に「又は分割」を、「取得した株式」の次に「並びに基金の運用から生じ、編入した収益金」を加え、同条に次の 4 項を加える。

- 2 知事は、必要があると認めるときは、予算の定めるところにより基金に追加して積立てをすることができる。
- 3 前項の規定により積立てが行われたときは、基金に属する現金の額は、積立額相当額増加するものとする。
- 4 知事は、前条に規定する基金の設置の目的を達成するために必要な事業の財源に充てる場合に限り、基金に属する現金の処分をすることができる。
- 5 前項の規定により処分が行われたときは、基金に属する現金の額は、当該処分に係る現金の額に相当する分減少するものとする。

第 3 条の見出し中「運用収益」を「運用益金」に改め、同条中「収益は」の次に「、一般会計歳入歳出予算に計上して」を加え、「充てる」を「充て、又はこの基金に編入する」に改める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 32 号

富山県手数料条例一部改正の件

富山県手数料条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県手数料条例の一部を改正する条例

富山県手数料条例（平成12年富山県条例第10号）の一部を次のように改正する。

別表第 1 の10の項中「6,600 円」を「7,200 円」に、「4,600 円」を「5,300 円」に、「3,700 円」を「4,200 円」に改め、同表の11の項中「4,700 円」を「5,300 円」に改め、同表の16の項中「5,700 円」を「6,600 円」に、「3,800 円」を「4,400 円」に改め、同表の 123 の項を次のように改める。

123 保健衛生事務	し尿浄化槽放流水の標準検査手数料	7,530円
	し尿浄化槽放流水の特別検査手数料 （生物化学的酸素要求量測定検査手数料）	4,720円
	し尿浄化槽放流水の特別検査手数料 （化学的酸素要求量測定検査手数料）	2,230円
	し尿浄化槽放流水の特別検査手数料 （その他の理化学検査手数料）	890円
	飲料水等理化学検査手数料	1 検体又は 1 項目につき 135,600 円の範囲内において、検査の内容又は種類に応じ規則で定める額

飲料水等の細菌又は原虫検査手数料	1 検体につき47,710円のは範囲内において、試験の種類に応じ規則で定める額
温泉試験手数料	1 検体につき61,750円のは範囲内において、試験又は測定の種類に応じ規則で定める額

別表第1の315の項中「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律」に改め、同表の347の6の項を同表の347の7の項とし、同表の347の5の項の次に次のように加える。

347の6 建築基準法施行令第137条の12第6項の規定に基づく接道義務の規定の適用を受けない建築物又は同条第7項の規定に基づく道路内建築制限の規定の適用を受けない建築物の大規模修繕等の特例の認定の申請に対する審査	接道義務又は道路内建築制限の適用を受けない建築物の大規模修繕等の特例認定申請手数料	27,000円
---	---	---------

別表第1の389の10の項、389の12の項及び389の13の項中「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律」に改め、同表の389の14の項中「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律施行規則」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則」に改め、同表の389の15の項及び389の16の項中「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律」に改め、同表の389の17の項中「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律第41条第1項」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律第41条第1項」に、「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律第35条第1項」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律第35条第1項」に、「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律施行規則」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則」に改め、同表の431の2の項中「12,700円」を「14,000円」に改め、同表の457の項を次のように改める。

457 削除		
--------	--	--

別表第1の458の項中「認定証の」を「認定の」に、「警備業認定証有効期間更新手数料」を「警備業認定有効期間更新手数料」に改め、同表の459の項を次のように改める。

459 削除		
--------	--	--

別表第1の470の項から474の項までを削り、同表の備考の6中(3)から(5)までを削り、(6)を(3)とし、同表の備考の11から13までの規定中「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を「建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律」に改める。

別表第2の1の項中「474の項まで」を「469の項まで」に改める。

別表第3の1の項中「6,600円」を「7,200円」に、「4,600円」を「5,300円」に、「3,700円」を「4,200円」に改め、同表の2の項中「5,700円」を「6,600円」に、「3,800円」を「4,400円」に改める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日から施行する。

(1) 次号に掲げる規定以外の規定 令和6年4月1日

(2) 別表第1の10の項、11の項及び16の項の改正規定並びに別表第3の1の項及び2の項の改正規定 令和6年5月1日

(経過措置)

2 この条例の施行の際現になされている申請、申込み等に係る手数料の額については、この条例による改正後の別表第1及び別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

議案第 33 号

富山県税条例一部改正の件

富山県税条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県税条例の一部を改正する条例

富山県税条例（昭和29年富山県条例第16号）の一部を次のように改正する。

附則第11条中「令和 7 年 3 月 31 日」を「令和12年 3 月 31 日」に改める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 34 号

富山県安全なまちづくり条例一部改正の件

富山県安全なまちづくり条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県安全なまちづくり条例の一部を改正する条例

富山県安全なまちづくり条例（平成17年富山県条例第 1 号）の一部を次のように改正する。

第19条第 1 項中「建築主事」の次に「又は建築副主事（次項において「建築主事等」という。）」を加え、同条第 2 項中「又は第 2 項」を「、第 2 項又は第 7 項」に、「建築主事」を「建築主事等」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 35 号

富山県青少年健全育成条例一部改正の件

富山県青少年健全育成条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県青少年健全育成条例の一部を改正する条例

富山県青少年健全育成条例（昭和52年富山県条例第 4 号）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 号中「（婚姻した女子を除く。）」を削る。

第17条第 5 号中「覚せい剤又は覚せい剤原料」を「覚醒剤又は覚醒剤原料」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 36 号

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

(富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部改正)

第1条 富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例(平成24年富山県条例第74号)の一部を次のように改正する。

目次中「第131条の4」を「第131条の5」に改める。

第7条ただし書中「同一敷地内にある他」を「当該指定居宅介護事業所以外」に改める。

第26条中第4号を第5号とし、第3号を第4号とし、第2号を第3号とし、第1号の次に次の1号を加える。

(2) 指定居宅介護の提供に当たっては、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮すること。

第27条第2項中「当該居宅介護計画を」の次に「利用者及びその同居の家族並びに当該利用者又は障害児の保護者に対して指定計画相談支援(法第51条の17第2項に規定する指定計画相談支援をいう。以下同じ。)又は指定障害児相談支援(児童福祉法(昭和22年法律第164号)第24条の26第2項に規定する指定障害児

相談支援をいう。)を行う者(以下これらを総称して「指定特定相談支援事業者等」という。)に」を加え、同条第3項中「居宅介護計画」を「第1項の居宅介護計画の」に改める。

第31条に次の1項を加える。

4 サービス提供責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第46条ただし書中「同一敷地内にある他」を「当該基準該当居宅介護事業所以外」に改める。

第51条第7項中「(昭和22年法律第164号)」を削り、同条第8項中「第6条の2の2第3項」を「第7条第2項」に改める。

第59条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

2 指定療養介護事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮しなければならない。

第60条第10項中「第7項まで」を「第8項まで」に、「第8項」を「第9項」に改め、同項を同条第11項とし、同条第9項を同条第10項とし、同条第8項を同条第9項とし、同条第7項中「利用者」の次に「及び指定特定相談支援事業者等」を加え、同項を同条第8項とし、同条第6項中「第4項」を「第5項」に改め、同項を同条第7項とし、同条第5項中「利用者」の次に「及び当該利用者」を、「開催し」の次に「、当該利用者の生活に対する意向等を改めて確認するとともに」を加え、同項を同条第6項とし、同条第4項を同条第5項とし、同条第3項を同条第4項とし、同条第2項中「行い」を「行うとともに、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ」に改め、同項の次に次の1項を加える。

3 アセスメントに当たっては、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に意思決定の支援を行うため、当該利用者の意思及び選好並びに判断能力等について丁寧に把握しなければならない。

第61条に次の1項を加える。

2 サービス管理責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第80条第1項第2号及び第4項中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

第87条の2第1項中「障害者就業・生活支援センター」の次に「（障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）第27条第2項に規定する障害者就業・生活支援センターをいう。以下同じ。））」を加える。

第95条の4第1号及び第2号中「第131条の3」を「第131条の4」に改める。

第106条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

2 指定短期入所事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮しなければならない。

第120条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

2 指定重度障害者等包括支援事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮しなければならない。

第121条第2項中「当該重度障害者等包括支援計画を」の次に「利用者及びその同居の家族並びに指定特定相談支援事業者等に」を加える。

第123条中「第30条」の次に「、第31条第4項」を加える。

第125条第1項第1号及び第4項中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

第131条中「同条第8項」を「同条第9項」に改める。

第131条の4を第131条の5とし、第131条の3を第131条の4とし、第131条の2の次に次の1条を加える。

（共生型自立訓練（機能訓練）の事業を行う指定通所リハビリテーション事業者の基準）

第131条の3 共生型自立訓練（機能訓練）の事業を行う指定通所リハビリテーション事業者（指定居宅サービス基準条例第137条第1項に規定する指定通所リハビリテーション事業者をいう。以下同じ。）が当該事業に関して満たすべき基準は、次のとおりとする。

(1) 指定通所リハビリテーション事業所（指定居宅サービス基準条例第137条第1項に規定する指定通所リハビリテーション事業所をいう。以下同じ。）

の専用の部屋等の面積（当該指定通所リハビリテーション事業所が介護老人保健施設（介護保険法（平成9年法律第123号）第8条第28項に規定する介護老人保健施設をいう。）又は介護医療院（同条第29項に規定する介護医療院をいう。）である場合にあっては、当該専用の部屋等の面積に利用者用に確保されている食堂（リハビリテーションに供用されるものに限る。）の面積を加えるものとする。第132条第2号において同じ。）を、指定通所リハビリテーション（指定居宅サービス基準条例第136条に規定する指定通所リハビリテーションをいう。以下同じ。）の利用者の数と共生型自立訓練（機能訓練）の利用者の数の合計数で除して得た面積が3平方メートル以上であること。

- (2) 指定通所リハビリテーション事業所の従業者の員数が、当該指定通所リハビリテーション事業所が提供する指定通所リハビリテーションの利用者の数を指定通所リハビリテーションの利用者の数及び共生型自立訓練（機能訓練）の利用者の数の合計数であるとした場合における当該指定通所リハビリテーション事業所として必要とされる数以上であること。
- (3) 共生型自立訓練（機能訓練）の利用者に対して適切なサービスを提供するため、指定自立訓練（機能訓練）事業所その他の関係施設から必要な技術的支援を受けていること。

第132条各号列記以外の部分中「基準該当障害福祉サービス（）」の次に「第132条の3に規定する病院等基準該当自立訓練（機能訓練）及び」を加え、同条第1号中「指定通所介護事業者等」の次に「又は指定通所リハビリテーション事業者」を、「指定通所介護等」の次に「又は指定通所リハビリテーション」を加え、同条第2号中「機能訓練室」の次に「又は指定通所リハビリテーション事業所の専用の部屋等」を、「指定通所介護等」の次に「又は指定通所リハビリテーション」を加え、同条第3号を次のように改める。

- (3) 指定通所介護事業所等又は指定通所リハビリテーション事業所の従業者の員数が、当該指定通所介護事業所等又は当該指定通所リハビリテーション事業所が提供する指定通所介護等又は指定通所リハビリテーションの利用者の数を指定通所介護等又は指定通所リハビリテーションの利用者及び基準該当自立訓練（機能訓練）を受ける利用者の数の合計数であるとした場合における当該指定通所介護事業所等又は指定通所リハビリテーション事業所として

必要とされる数以上であること。

第132条の2の次に次の1条を加える。

(病院又は診療所における基準該当障害福祉サービス(自立訓練)に関する基準)

第132条の3 地域において自立訓練(機能訓練)が提供されていないこと等により自立訓練(機能訓練)を受けることが困難な障害者に対して病院又は診療所(以下「病院等基準該当自立訓練(機能訓練)事業者」という。)が行う自立訓練(機能訓練)に係る基準該当障害福祉サービス(以下この条において「病院等基準該当自立訓練(機能訓練)」という。)に関して病院等基準該当自立訓練(機能訓練)事業者が満たすべき基準は、次のとおりとする。

(1) 病院等基準該当自立訓練(機能訓練)を行う事業所(次号において「病院等基準該当自立訓練(機能訓練)事業所」という。)の専用の部屋等の面積を、病院等基準該当自立訓練(機能訓練)を受ける利用者の数で除して得た面積が3平方メートル以上であること。

(2) 病院等基準該当自立訓練(機能訓練)事業所ごとに、管理者及び次のア又はイに掲げる場合の区分に応じて当該ア又はイに掲げる基準を満たす人員を配置していること。

ア 利用者の数が10人以下の場合 専ら当該病院等基準該当自立訓練(機能訓練)の提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が1以上確保されていること。

イ 利用者の数が10人を超える場合 専ら当該病院等基準該当自立訓練(機能訓練)の提供に当たる理学療法士、作業療法士若しくは言語聴覚士又は看護職員若しくは介護職員が、利用者の数を10で除した数以上確保されていること。

(3) 病院等基準該当自立訓練(機能訓練)を受ける利用者に対して適切なサービスを提供するため、指定自立訓練(機能訓練)事業所その他の関係施設から必要な技術的支援を受けていること。

第141条中「同条第8項」を「同条第9項」に改める。

第150条第2項中「(障害者の雇用の促進等に関する法律(昭和35年法律第123号)第27条第2項に規定する障害者就業・生活支援センターをいう。以下同じ。)」を削る。

第 154 条中「同条第 8 項」を「同条第 9 項」に改める。

第 172 条中「第 129 条」の次に「、第 162 条第 6 項」を加え、「第 163 条第 1 項」を「第 162 条第 6 項中「賃金及び第 3 項に規定する工賃」とあるのは「第 171 条第 1 項の工賃」と、第 163 条第 1 項」に改める。

第 176 条中「第 129 条」の次に「、第 162 条第 6 項」を加え、「第 163 条第 1 項」を「第 162 条第 6 項中「賃金及び第 3 項に規定する工賃」とあるのは「第 175 条第 1 項の工賃」と、第 163 条第 1 項」に改める。

第 176 条の 6 に次の 1 項を加える。

- 2 サービス管理責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第 176 条の 7 を次のように改める。

(実施主体)

第 176 条の 7 指定就労定着支援事業者は、生活介護等に係る指定障害福祉サービス事業者であって、過去 3 年以内に当該事業者の事業所の 3 人以上の利用者が新たに通常の事業所に雇用されたもの又は障害者就業・生活支援センターでなければならない。

第 176 条の 14 第 1 項第 2 号ア及びイを次のように改める。

ア サービス管理責任者が常勤である場合 次の(ア)又は(イ)に掲げる利用者の数の区分に応じ、それぞれ(ア)又は(イ)に掲げる数

(ア) 利用者の数が 60 以下 1 以上

(イ) 利用者の数が 61 以上 1 に、利用者の数が 60 を超えて 60 又はその端数を増すごとに 1 を加えて得た数以上

イ ア 以外の場合 次の(ア)又は(イ)に掲げる利用者の数の区分に応じ、それぞれ(ア)又は(イ)に掲げる数

(ア) 利用者の数が 30 以下 1 以上

(イ) 利用者の数が 31 以上 1 に、利用者の数が 30 を超えて 30 又はその端数を増すごとに 1 を加えて得た数以上

第 176 条の 14 中第 4 項を第 6 項とし、第 3 項を第 5 項とし、第 2 項の次に次の 2 項を加える。

- 3 指定自立生活援助事業者が指定地域移行支援事業者（障害者の日常生活及び

社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定地域相談支援の事業の人員及び運営に関する基準（平成24年厚生労働省令第27号。以下この条において「指定地域相談支援基準」という。）第2条第3項に規定する指定地域移行支援事業者をいう。）の指定を併せて受け、かつ、指定自立生活援助の事業と指定地域移行支援（指定地域相談支援基準第1条第11号に規定する指定地域移行支援をいう。）の事業を同一の事業所において一体的に運営している場合にあっては、指定地域相談支援基準第3条の規定により当該事業所に配置された相談支援専門員（同条第2項に規定する相談支援専門員をいう。以下同じ。）を第1項第2号の規定により置くべきサービス管理責任者とみなすことができる。

- 4 指定自立生活援助事業者が指定地域定着支援事業者（指定地域相談支援基準第39条第3項に規定する指定地域定着支援事業者をいう。）の指定を併せて受け、かつ、指定自立生活援助の事業と指定地域定着支援（指定地域相談支援基準第1条第12号に規定する指定地域定着支援をいう。）の事業を同一の事業所において一体的に運営している場合にあっては、指定地域相談支援基準第40条において準用する指定地域相談支援基準第3条の規定により当該事業所に配置された相談支援専門員を第1項第2号の規定により置くべきサービス管理責任者とみなすことができる。

第176条の17を次のように改める。

第176条の17 削除

第176条の18の見出し中「訪問」を「訪問等」に改め、同条中「おおむね週に1回以上、」を「定期的に」に改め、「訪問することにより」の次に「、又はテレビ電話装置等を活用して」を加える。

第176条の20中「準用する次条第1項」との次に「、第59条第1項中「次条第1項」とあるのは「第176条の20において準用する次条第1項」とを加え、「同条第8項」を「同条第9項」に改める。

第177条中「又は食事」を「若しくは食事」に改め、「効果的に」の次に「行い、又はこれに併せて、居宅における自立した日常生活への移行を希望する入居者につき当該日常生活への移行及び移行後の定着に関する相談、住居の確保に係る援助その他居宅における自立した日常生活への移行及び移行後の定着に必要な援助を適切かつ効果的に」を加える。

第181条第3項中「援助を」の次に「行い、又はこれに併せて居宅における自

立した日常生活への移行後の定着に必要な援助を」を加える。

第 184 条中第 4 項を第 5 項とし、第 3 項を第 4 項とし、第 2 項を第 3 項とし、第 1 項の次に次の 1 項を加える。

2 指定共同生活援助事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮しなければならない。

第 185 条に次の 1 項を加える。

2 サービス管理責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第 185 条の次に次の 1 条を加える。

(地域との連携等)

第 185 条の 2 指定共同生活援助事業者は、指定共同生活援助の提供に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図らなければならない。

2 指定共同生活援助事業者は、指定共同生活援助の提供に当たっては、利用者及びその家族、地域住民の代表者、共同生活援助について知見を有する者並びに市町村の担当者等により構成される協議会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。以下この条及び第 193 条の 10 において「地域連携推進会議」という。）を開催し、おおむね 1 年に 1 回以上、地域連携推進会議において、事業の運営に係る状況を報告するとともに、必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

3 指定共同生活援助事業者は、地域連携推進会議の開催のほか、おおむね 1 年に 1 回以上、当該地域連携推進会議の構成員が指定共同生活援助事業所を見学する機会を設けなければならない。

4 指定共同生活援助事業者は、第 2 項の報告、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表しなければならない。

5 前 3 項の規定は、指定共同生活援助事業者がその提供する指定共同生活援助の質に係る外部の者による評価及び当該評価の実施状況の公表又はこれに準ずる措置として知事が定めるものを講じている場合には、適用しない。

第 192 条に次の 2 項を加える。

3 指定共同生活援助事業者は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に

関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。

4 指定共同生活援助事業者は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

第193条中「、第76条」を削る。

第193条の2中「入浴、排せつ、」を「相談、入浴、排せつ若しくは」に改め、「日常生活上の援助」の次に「又はこれに併せて行われる居宅における自立した日常生活への移行及び移行後の定着に必要な援助」を加える。

第193条の3中「又は食事」を「若しくは食事」に改め、「日常生活上の援助」の次に「又はこれに併せて行われる居宅における自立した日常生活への移行及び移行後の定着に必要な援助」を加える。

第193条の10を次のように改める。

（地域との連携等）

第193条の10 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、日中サービス支援型指定共同生活援助の提供に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図らなければならない。

2 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、日中サービス支援型指定共同生活援助の提供に当たっては、地域連携推進会議を開催し、おおむね1年に1回以上、地域連携推進会議において、事業の運営に係る状況を報告するとともに、必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

3 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、地域連携推進会議の開催のほか、おおむね1年に1回以上、当該地域連携推進会議の構成員が日中サービス支援型指定共同生活援助事業所を見学する機会を設けなければならない。

4 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、第2項の報告、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表しなければならない。

5 前3項の規定は、日中サービス支援型指定共同生活援助事業者がその提供する日中サービス支援型指定共同生活援助の質に係る外部の者による評価及び当

該評価の実施状況の公表又はこれに準ずる措置として知事が定めるもの（次項に規定するものを除く。）を講じている場合には、適用しない。

6 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、法第89条の3第1項に規定する協議会その他知事がこれに準ずるものとして特に認めるもの（以下「協議会等」という。）に対して定期的に日中サービス支援型指定共同生活援助の事業の実施状況及び第2項の報告、要望、助言等の内容又は前項の評価の結果等を報告し、協議会等による評価を受けるとともに、協議会等から必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

7 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、前項の協議会等における報告、評価、要望、助言等についての記録を整備しなければならない。

第193条の11中「、第76条」を削る。

第193条の12中「日常生活上の援助」の次に「又はこれに併せて行われる居宅における自立した日常生活への移行及び移行後の定着に必要な援助」を加える。

第193条の13中「又は食事」を「若しくは食事」に改め、「日常生活上の援助」の次に「又はこれに併せて行われる居宅における自立した日常生活への移行及び移行後の定着に必要な援助」を加える。

第193条の22中「、第76条」を削り、「第187条まで」を「第185条の2まで」に改める。

第194条第1項中「、指定医療型児童発達支援事業所（指定通所支援基準条例第63条第1項に規定する指定医療型児童発達支援事業所をいう。）」を削り、同条第2項中「、指定医療型児童発達支援事業所」を削る。

第197条第1項第3号及び同条第2項中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

第198条ただし書中「他の職務に」の次に「従事させ、又は当該特定基準該当障害福祉サービス事業所以外の事業所、施設等の職務に」を加える。

第200条第1項中「同条第8項」を「同条第9項」に改める。

第201条第1項中「第131条の4」を「第131条の5」に改める。

附則第2条第1項各号列記以外の部分中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

附則第9条中「同条第4項」を「同条第5項」に改める。

附則第15条第1項及び第2項各号列記以外の部分中「令和6年3月31日」を

「令和 9 年 3 月 31 日」に改める。

第 2 条 富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

目次中

「 第 6 節 基準該当障害福祉サービスに関する基準（第 142 条—第 143 条）」
を

「 第 6 節 基準該当障害福祉サービスに関する基準（第 142 条—第 143 条）」

第 8 章の 2 就労選択支援

第 1 節 基本方針（第 143 条の 2）

第 2 節 人員に関する基準（第 143 条の 3 ・第 143 条の 4）

第 3 節 設備に関する基準（第 143 条の 5）

第 4 節 運営に関する基準（第 143 条の 6 —第 143 条の 9）」

に改める。

第 2 条第 2 項第 2 号中「第 5 条第 23 項」を「第 5 条第 24 項」に改める。

第 3 条第 1 項中「及び第 4 章並びに第 7 章から」を「、第 4 章、第 7 章、第 8 章及び第 9 章から」に改める。

第 8 章の次に次の 1 章を加える。

第 8 章の 2 就労選択支援

第 1 節 基本方針

第 143 条の 2 就労選択支援に係る指定障害福祉サービス（以下「指定就労選択支援」という。）の事業は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、施行規則第 6 条の 7 の 2 に規定する者につき、短期間の生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、就労に関する適性、知識及び能力の評価並びに施行規則第 6 条の 7 の 3 に規定する事項の整理を行い、又はこれに併せて、当該評価及び当該整理の結果に基づき、施行規則第 6 条の 7 の 4 に規定する便宜を適切かつ効果的に供与するものでなければならない。

第 2 節 人員に関する基準

（従業者の員数）

第 143 条の 3 指定就労選択支援の事業を行う者（以下「指定就労選択支援事業者」という。）が当該事業を行う事業所（以下「指定就労選択支援事業所」と

いう。)に置くべき就労選択支援員(指定就労選択支援の提供に当たる者として厚生労働大臣が定めるものをいう。以下同じ。)の数は、指定就労選択支援事業所ごとに、常勤換算方法で、利用者の数を15で除した数以上とする。

2 前項の利用者の数は、前年度の平均値とする。ただし、新規に指定を受ける場合は、推定数による。

3 第1項に規定する指定就労選択支援事業所の就労選択支援員は、専ら当該指定就労選択支援事業所の職務に従事する者でなければならない。ただし、利用者の支援に支障がない場合はこの限りでない。

(準用)

第143条の4 第52条の規定は、指定就労選択支援の事業について準用する。

第3節 設備に関する基準

(準用)

第143条の5 第83条の規定は、指定就労選択支援の事業について準用する。

第4節 運営に関する基準

(実施主体)

第143条の6 指定就労選択支援事業者は、就労移行支援又は就労継続支援に係る指定障害福祉サービス事業者であって、過去3年以内に当該事業者の事業所の3人以上の利用者が新たに通常の事業所に雇用されたものその他のこれらと同等の障害者に対する就労支援の経験及び実績を有すると知事が認める事業者でなければならない。

(評価及び整理の実施)

第143条の7 指定就労選択支援事業者は、短期間の生産活動その他の活動の機会を通じて、就労に関する適性、知識及び能力の評価並びに施行規則第6条の7の3に規定する事項の整理(以下この節において「アセスメント」という。)を行うものとする。

2 障害者就業・生活支援センターその他の機関がアセスメントと同様の評価及び整理を実施した場合には、指定就労選択支援事業者は、当該同様の評価及び整理をもって、アセスメントの実施に代えることができる。この場合において、指定就労選択支援事業者は、次項の規定による会議の開催、アセスメントの結果の作成又は指定障害福祉サービス事業者その他の関係機関との連絡調整に当たり、当該障害者就業・生活支援センターその他の機関に対し、当該会議への

参加その他の必要な協力を求めることができる。

3 指定就労選択支援事業者は、アセスメントの結果の作成に当たり、利用者及び市町村、指定特定相談支援事業者等、公共職業安定所その他の関係機関の担当者等を招集して会議（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を開催し、当該利用者の就労に関する意向を改めて確認するとともに、当該担当者等に意見を求めるものとする。

4 指定就労選択支援事業者は、アセスメントの結果を作成した際には、当該結果に係る情報を利用者及び指定特定相談支援事業者等に提供しなければならない。

（関係機関との連絡調整等の実施）

第143条の8 指定就労選択支援事業者は、アセスメントの結果を踏まえ、必要に応じて公共職業安定所、障害者就業・生活支援センターその他の関係機関との連絡調整を行わなければならない。

2 指定就労選択支援事業者は、法第89条の3第1項に規定する協議会への定期的な参加、公共職業安定所への訪問等により、地域における就労支援に係る社会資源、雇用に関する事例等に関する情報の収集に努めるとともに、利用者に対して進路選択に資する情報を提供するよう努めなければならない。

（準用）

第143条の9 第10条から第21条まで、第24条、第29条、第34条の2、第36条の2から第42条まで、第59条、第62条、第68条、第70条から第72条まで、第76条、第77条（第2項第1号を除く。）、第86条、第87条、第88条から第94条まで、第128条及び第139条の規定は、指定就労選択支援の事業について準用する。この場合において、第10条第1項中「第32条」とあるのは「第167条の9において準用する第91条」と、第21条第2項中「次条第1項」とあるのは「第167条の9において準用する第128条第1項」と、第24条第2項中「第22条第2項」とあるのは「第167条の9において準用する第128条第2項」と、第59条第1項中「次条第1項に規定する療養介護計画に基づき、利用者の心身の状況等に応じて」とあるのは「利用者の心身の状況等に応じて」と、第77条第2項第2号中「第60条第1項」とあるのは「第167条の9において準用する第20条第1項」と、同項第3号中「第67条」とあるのは「第167条の9において準用する第90条」と、同項第4号から第6号まで中「次条」とあるのは「第167条の9」

と、第89条中「第94条第1項」とあるのは「第167条の9において準用する第94条第1項」と、第94条第1項中「前条」とあるのは「第167条の9において準用する前条」と、第139条の2第1項中「支給決定障害者（指定宿泊型自立訓練を受ける者及び厚生労働大臣が定める者に限る。）」とあるのは「支給決定障害者（厚生労働大臣が定める者に限る。以下この項において同じ。）」と、同条第2項中「支給決定障害者（指定宿泊型自立訓練を受ける者及び厚生労働大臣が定める者を除く。）」とあるのは「支給決定障害者（厚生労働大臣が定める者を除く。）」と読み替えるものとする。

第153条の次に次の1条を加える。

（就労選択支援に関する情報提供）

第153条の2 指定就労移行支援事業者は、利用者に対し、指定計画相談支援を行う者と連携し、定期的に就労選択支援に関する情報提供を行うものとする。

第167条中「及び第153条」を「、第153条及び第153条の2」に改める。

第172条中「及び」を「、第153条の2及び」に改める。

第176条中「第129条」の次に「、第153条の2」を加える。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第2条の規定は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等の一部を改正する法律（令和4年法律第104号）附則第1条第4号に掲げる規定の施行の日から施行する。

（経過措置）

- 2 この条例の施行の日から令和7年3月31日までの間、第1条の規定による改正後の富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（以下「新条例」という。）第185条の2（新条例第193条の22において準用する場合を含む。以下同じ。）及び第193条の10の規定の適用については、新条例第185条の2第2項及び第3項並びに第193条の10第2項及び第3項中「設けなければ」とあるのは「設けるよう努めなければ」と、新条例第185条の2第4項及び第193条の10第4項中「公表しなければ」とあるのは「公表するよう努めなければ」とする。

議案第 37 号

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第75号）の一部を次のように改正する。

第 3 条に次の 2 項を加える。

- 4 指定障害者支援施設は、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ、利用者の地域生活への移行に関する意向を把握し、当該意向を定期的に確認するとともに、法第77条第 3 項各号に掲げる事業を行う者又は一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者と連携を図りつつ、利用者の希望に沿って地域生活への移行に向けた措置を講じなければならない。
- 5 指定障害者支援施設は、利用者の当該指定障害者支援施設以外における指定障害福祉サービス等の利用状況等を把握するとともに、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ、利用者の当該指定障害者支援施設以外における指定障害福祉サービス等の利用に関する意向を定期的に確認し、一般相談支援事業又は特定相談支援事業を行う者と連携を図りつつ、必要な援助を行わなければならない。

第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

第26条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

2 指定障害者支援施設は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮しなければならない。

第27条第10項中「第7項まで」を「第8項まで」に、「第8項」を「第9項」に改め、同項を同条第11項とし、同条中第9項を第10項とし、第8項を第9項とし、同条第7項中「利用者」の次に「及び当該利用者に対して指定計画相談支援（法第51条の17第2項に規定する指定計画相談支援をいう。）を行う者」を加え、同項を同条第8項とし、同条第6項中「第4項」を「第5項」に改め、同項を同条第7項とし、同条第5項中「利用者」の次に「及び当該利用者」を、「担当者等」の次に「（地域移行等意向確認担当者を含む。）」を、「開催し」の次に「、当該利用者の生活に対する意向等を改めて確認するとともに」を加え、同項を同条第6項とし、同条中第4項を第5項とし、第3項を第4項とし、同条第2項中「行い」を「行うとともに、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ」に改め、同項に後段として次のように加える。

この場合において、サービス管理責任者は、第28条の3第1項の地域移行等意向確認担当者（以下「地域移行等意向確認担当者」という。）が把握した利用者の地域生活への移行に関する意向等を踏まえるものとする。

第27条第2項の次に次の1項を加える。

3 アセスメントに当たっては、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に意思決定の支援を行うため、当該利用者の意思及び選好並びに判断能力等について丁寧に把握しなければならない。

第28条に次の1項を加える。

2 サービス管理責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第28条の次に次の2条を加える。

（地域との連携等）

第28条の2 指定障害者支援施設は、施設障害福祉サービスの提供に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図らなければならない。

2 指定障害者支援施設は、施設障害福祉サービスの提供に当たっては、利用者及びその家族、地域住民の代表者、施設障害福祉サービスについて知見を有する者並びに市町村の担当者等により構成される協議会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）（以下この条において「地域連携推進会議」という。）を開催し、おおむね1年に1回以上、地域連携推進会議において、事業の運営に係る状況を報告するとともに、必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

3 指定障害者支援施設は、前項に規定する地域連携推進会議の開催のほか、おおむね1年に1回以上、地域連携推進会議の構成員が指定障害者支援施設を見学する機会を設けなければならない。

4 指定障害者支援施設は、第2項の報告、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表しなければならない。

5 前3項の規定は、指定障害者支援施設がその提供する施設障害福祉サービスの質に係る外部の者による評価及び当該評価の実施状況の公表又はこれに準ずる措置として知事が定めるものを講じている場合には、適用しない。

（地域移行等意向確認担当者の選任等）

第28条の3 指定障害者支援施設は、利用者の地域生活への移行に関する意向の把握、利用者の当該指定障害者支援施設以外における指定障害福祉サービス等の利用状況等の把握及び利用者の当該指定障害者支援施設以外における指定障害福祉サービス等の利用に関する意向の定期的な確認（以下この条において「地域移行等意向確認等」という。）を適切に行うため、地域移行等意向確認等に関する指針を定めるとともに、地域移行等意向確認担当者を選任しなければならない。

2 地域移行等意向確認担当者は、前項の指針に基づき、地域移行等意向確認等を実施し、アセスメントの際に地域移行等意向確認等において把握し、又は確認した内容をサービス管理責任者に報告するとともに、当該内容を第27条第6項に規定する施設障害福祉サービス計画の作成に係る会議に報告しなければならない。

3 地域移行等意向確認担当者は、地域移行等意向確認等に当たっては、法第77条第3項各号に掲げる事業を行う者又は一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者と連携し、地域における障害福祉サービスの体験的な利用に係る支援その他の地域生活への移行に向けた支援を行うよう努めなければならない。

第51条に次の2項を加える。

- 3 指定障害者支援施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるよう努めなければならない。
- 4 指定障害者支援施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

第58条を次のように改める。

第58条 削除

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この条例の施行の日から令和7年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（次項において「新条例」という。）第28条の2の規定の適用については、同条第2項及び第3項中「設けなければ」とあるのは「設けるよう努めなければ」と、同条第4項中「公表しなければ」とあるのは「公表するよう努めなければ」とする。
- 3 この条例の施行の日から令和8年3月31日までの間、新条例第28条の3の規定の適用については、同条第1項中「選任しなければ」とあるのは「選任するよう努めなければ」と、同条第2項中「報告しなければ」とあるのは「報告するよう努めなければ」とする。

議案第 38 号

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
に基づく障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める
条例一部改正の件

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障
害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように
改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
に基づく障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める
条例の一部を改正する条例

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障
害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように
改正する。

(富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく
障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正)

第 1 条 富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基
づく障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年
富山県条例第76号）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 2 項第 3 号中「、医療型児童発達支援（同条第 3 項に規定する医療型
児童発達支援をいう。）の事業」を削り、「同条第 4 項」を「同条第 3 項」に、
「同条第 5 項」を「同条第 4 項」に、「同条第 6 項」を「同条第 5 項」に改める。

第16条中第 3 項を第 4 項とし、第 2 項を第 3 項とし、第 1 項の次に次の 1 項を
加える。

2 療養介護事業者は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことがで
きるよう、利用者の意思決定の支援に配慮するよう努めなければならない。

第17条第10項中「第 7 項まで」を「第 8 項まで」に、「第 8 項」を「第 9 項」
に改め、同項を同条第11項とし、同条中第 9 項を第10項とし、第 8 項を第 9 項と

し、同条第7項中「利用者」の次に「及び当該利用者又は障害児の保護者に対して指定計画相談支援（法第51条の17第2項に規定する指定計画相談支援をいう。以下同じ。）又は指定障害児相談支援（児童福祉法第24条の26第2項に規定する指定障害児相談支援をいう。）を行う者（以下これらを総称して「指定特定相談支援事業者等」という。）」を加え、同項を同条第8項とし、同条第6項中「第4項」を「第5項」に改め、同項を同条第7項とし、同条第5項中「利用者」の次に「及び当該利用者」を、「開催し」の次に「、当該利用者の生活に対する意向等を改めて確認するとともに」を加え、同項を同条第6項とし、同条中第4項を第5項とし、第3項を第4項とし、同条第2項中「行い」を「行うとともに、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ」に改め、同項の次に次の1項を加える。

3 サービス管理責任者は、アセスメントに当たっては、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に意思決定の支援を行うため、当該利用者の意思及び選好並びに判断能力等について丁寧に把握しなければならない。

第18条に次の1項を加える。

2 サービス管理責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第39条第1項第3号及び第4項並びに第52条第1項第2号及び第4項中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

第54条中「第63条第1項」を「第61条の2」に改める。

第55条及び第60条中「同条第8項」を「同条第9項」に改める。

第61条の次に次の1条を加える。

（規模）

第61条の2 就労移行支援の事業を行う者（以下「就労移行支援事業者」という。）が当該事業を行う事業所（以下「就労移行支援事業所」という。）は、10人以上の人員を利用させることができる規模を有するものでなければならない。

第63条第1項各号列記以外の部分を次のように改める。

就労移行支援事業所に置くべき職員及びその員数は、次のとおりとする。

第69条中「第38条まで」を「第36条まで、第38条」に、「同条第8項」を「同

条第9項」に改め、「第37条ただし書及び」を削る。

第88条中「、指定医療型児童発達支援（指定通所支援基準条例第62条に規定する指定医療型児童発達支援をいう。）の事業」を削る。

附則第2条第1項各号列記以外の部分中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語聴覚士」に改める。

第2条 富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

目次中「第5章 自立訓練（生活訓練）（第56条—第60条）」を「第5章 自立訓練（生活訓練）（第56条—第60条）」に改める。

第5章の2 就労選択支援（第60条の2—第60条の8）」

第3条中「次章から」の次に「第5章まで及び第6章から」を加える。

第5章の次に次の1章を加える。

第5章の2 就労選択支援

（基本方針）

第60条の2 就労選択支援の事業は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、施行規則第6条の7の2に規定する者につき、短期間の生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、就労に関する適性、知識及び能力の評価並びに施行規則第6条の7の3に規定する事項の整理を行い、又はこれに併せて、当該評価及び当該整理の結果に基づき、施行規則第6条の7の4に規定する便宜を適切かつ効果的に供与するものでなければならない。

（規模）

第60条の3 就労選択支援の事業を行う者（以下「就労選択支援事業者」という。）が当該事業を行う事業所（以下「就労選択支援事業所」という。）は、10人以上の人員を利用させることができる規模を有するものでなければならない。

（職員の配置の基準）

第60条の4 就労選択支援事業所に置くべき職員及びその員数は、次のとおりとする。

(1) 管理者 1

(2) 就労選択支援員（就労選択支援の提供に当たる者として厚生労働大臣が定めるものをいう。以下同じ。） 就労選択支援事業所ごとに、常勤換算方法

で、利用者の数を15で除した数以上

- 2 前項第2号の利用者の数は、前年度の平均値とする。ただし、新規に事業を開始する場合は、推定数による。
- 3 第1項第1号の管理者は、専らその職務に従事する者でなければならない。ただし、就労選択支援事業所の管理上支障がない場合は、当該就労選択支援事業所の他の業務に従事し、又は当該就労選択支援事業所以外の事業所、施設等の職務に従事することができるものとする。
- 4 第1項第2号の就労選択支援員は、専ら当該就労選択支援事業所の職務に従事する者でなければならない。ただし、利用者の支援に支障がない場合はこの限りでない。

(実施主体)

第60条の5 就労選択支援事業者は、就労移行支援又は就労継続支援に係る指定障害福祉サービス事業者であって、過去3年以内に当該事業者の事業所の3人以上の利用者が新たに通常の事業所に雇用されたものその他のこれらと同等の障害者に対する就労支援の経験及び実績を有する事業者でなければならない。

(評価及び整理の実施)

第60条の6 就労選択支援事業者は、短期間の生産活動その他の活動の機会を通じて、就労に関する適性、知識及び能力の評価並びに施行規則第6条の7の3に規定する事項の整理（以下この章において「アセスメント」という。）を行うものとする。

- 2 障害者就業・生活支援センターその他の機関がアセスメントと同様の評価及び整理を実施した場合には、就労選択支援事業者は、当該同様の評価及び整理をもって、アセスメントの実施に代えることができる。この場合において、就労選択支援事業者は、次項の規定による会議の開催、アセスメントの結果の作成又は指定障害福祉サービス事業者その他の関係機関との連絡調整に当たり、当該障害者就業・生活支援センターその他の機関に対し、当該会議への参加その他の必要な協力を求めることができる。
- 3 就労選択支援事業者は、アセスメントの結果の作成に当たり、利用者及び市町村、指定特定相談支援事業者等、公共職業安定所その他の関係機関の担当者等を招集して会議（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を開催し、当該利用者の就労に関する意向を改めて確認するとともに、当該担

当事等に意見を求めるものとする。

- 4 就労選択支援事業者は、アセスメントの結果を作成した際には、当該結果に係る情報を利用者及び指定特定相談支援事業者等に提供しなければならない。

(関係機関との連絡調整等の実施)

第60条の7 就労選択支援事業者は、アセスメントの結果を踏まえ、必要に応じて公共職業安定所、障害者就業・生活支援センターその他の関係機関との連絡調整を行わなければならない。

- 2 就労選択支援事業者は、法第89条の3第1項に規定する協議会への定期的な参加、公共職業安定所への訪問等により、地域における就労支援に係る社会資源、雇用に関する事例等に関する情報の収集に努めるとともに、利用者に対して進路選択に資する情報を提供するよう努めなければならない。

(準用)

第60条の8 第8条、第9条(第2項第1号を除く。)、第13条から第16条まで、第19条、第24条から第26条まで、第28条から第32条の2まで、第34条から第36条まで、第38条、第41条、第43条、第44条及び第45条から第49条までの規定は、就労選択支援の事業について準用する。この場合において、第9条第2項第2号中「第28条第2項」とあるのは「第60条の8において準用する第28条第2項」と、同項第3号中「第30条第2項」とあるのは「第60条の8において準用する第30条第2項」と、同項第4号中「第32条第2項」とあるのは「第60条の8において準用する第32条第2項」と、第16条第1項中「次条第1項に規定する療養介護計画に基づき、利用者の心身の状況等に応じて」とあるのは「利用者の心身の状況等に応じて」と読み替えるものとする。

第68条の次に次の1条を加える。

(就労選択支援に関する情報提供)

第68条の2 就労移行支援事業者は、利用者に対し、指定計画相談支援を行う者と連携し、定期的に就労選択支援に関する情報提供を行うものとする。

第84条中「及び第53条」を「、第53条及び第68条の2」に改める。

第87条中「第53条」の次に「、第68条の2」を加える。

附則第4条第2項中「第5条第25項」を「第5条第28項」に改める。

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第2条の規定は、障害者

の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等の一部を改正する法律
(令和4年法律第104号)附則第1条第4号に掲げる規定の施行の日から施行する。

議案第 39 号

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
に基づく障害者支援施設の設備及び運営に関する基準を定める条例一
部改正の件

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障
害者支援施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正す
る。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
に基づく障害者支援施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の
一部を改正する条例

富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障
害者支援施設の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第79
号）の一部を次のように改正する。

第 3 条に次の 2 項を加える。

- 4 障害者支援施設は、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ、
利用者の地域生活への移行に関する意向を把握し、当該意向を定期的に確認する
とともに、法第77条第 3 項各号に掲げる事業を行う者又は一般相談支援事業若し
くは特定相談支援事業を行う者と連携を図りつつ、利用者の希望に沿って地域生
活への移行に向けた措置を講じなければならない。
- 5 障害者支援施設は、利用者の当該障害者支援施設以外における指定障害福祉サ
ービス等（法第29条第 1 項に規定する指定障害福祉サービス等をいう。以下同じ。）
の利用状況等を把握するとともに、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援
に配慮しつつ、利用者の当該障害者支援施設以外における指定障害福祉サービ
ス等の利用に関する意向を定期的に確認し、一般相談支援事業又は特定相談支
援事業を行う者と連携を図りつつ、必要な援助を行わなければならない。

第11条第 1 項第 2 号及び第 3 号中「又は作業療法士」を「、作業療法士又は言語
聴覚士」に改める。

第18条中第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、第1項の次に次の1項を加える。

2 障害者支援施設は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の意思決定の支援に配慮するよう努めなければならない。

第19条第10項中「第7項まで」を「第8項まで」に、「第8項」を「第9項」に改め、同項を同条第11項とし、同条中第9項を第10項とし、第8項を第9項とし、同条第7項中「利用者」の次に「及び当該利用者に対して指定計画相談支援（法第51条の17第2項に規定する指定計画相談支援をいう。）を行う者」を加え、同項を同条第8項とし、同条第6項中「第4項」を「第5項」に改め、同項を同条第7項とし、同条第5項中「利用者」の次に「及び当該利用者」を、「担当者等」の次に「（地域移行等意向確認担当者を含む。）」を、「開催し」の次に「、当該利用者の生活に対する意向等を改めて確認するとともに」を加え、同項を同条第6項とし、同条中第4項を第5項とし、第3項を第4項とし、同条第2項中「行い」を「行うとともに、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ」に改め、同項に後段として次のように加える。

この場合において、サービス管理責任者は、第20条の3第1項の地域移行等意向確認担当者（以下「地域移行等意向確認担当者」という。）が把握した利用者の地域生活への移行に関する意向等を踏まえるものとする。

第19条第2項の次に次の1項を加える。

3 アセスメントに当たっては、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に意思決定の支援を行うため、当該利用者の意思及び選好並びに判断能力等について丁寧に把握しなければならない。

第20条に次の1項を加える。

2 サービス管理責任者は、業務を行うに当たっては、利用者の自己決定の尊重を原則とした上で、利用者が自ら意思を決定することに困難を抱える場合には、適切に利用者への意思決定の支援が行われるよう努めなければならない。

第20条の次に次の2条を加える。

（地域との連携等）

第20条の2 障害者支援施設は、施設障害福祉サービスの提供に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流を図らなければならない。

2 障害者支援施設は、施設障害福祉サービスの提供に当たっては、利用者及びその家族、地域住民の代表者、施設障害福祉サービスについて知見を有する者並びに市町村の担当者等により構成される協議会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）（以下この条において「地域連携推進会議」という。）を開催し、おおむね1年に1回以上、地域連携推進会議において、事業の運営に係る状況を報告するとともに、必要な要望、助言等を聴く機会を設けなければならない。

3 障害者支援施設は、前項に規定する地域連携推進会議の開催のほか、おおむね1年に1回以上、地域連携推進会議の構成員が障害者支援施設を見学する機会を設けなければならない。

4 障害者支援施設は、第2項の報告、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表しなければならない。

5 前3項の規定は、障害者支援施設がその提供する施設障害福祉サービスの質に係る外部の者による評価及び当該評価の実施状況の公表又はこれに準ずる措置として知事が定めるものを講じている場合には、適用しない。

（地域移行等意向確認担当者の選任等）

第20条の3 障害者支援施設は、利用者の地域生活への移行に関する意向の把握、利用者の当該障害者支援施設以外における指定障害福祉サービス等の利用状況等の把握及び利用者の当該障害者支援施設以外における指定障害福祉サービス等の利用に関する意向の定期的な確認（以下この条において「地域移行等意向確認等」という。）を適切に行うため、地域移行等意向確認等に関する指針を定めるとともに、地域移行等意向確認担当者を選任しなければならない。

2 地域移行等意向確認担当者は、前項の指針に基づき、地域移行等意向確認等を実施し、アセスメントの際に地域移行等意向確認等において把握し、又は確認した内容をサービス管理責任者に報告するとともに、当該内容を第19条第6項に規定する施設障害福祉サービス計画の作成に係る会議に報告しなければならない。

3 地域移行等意向確認担当者は、地域移行等意向確認等に当たっては、法第77条第3項各号に掲げる事業を行う者又は一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う者と連携し、地域における障害福祉サービスの体験的な利用に係る支援その他の地域生活への移行に向けた支援を行うよう努めなければならない。

第40条に次の2項を加える。

- 3 障害者支援施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。
- 4 障害者支援施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

第44条を次のように改める。

第44条 削除

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この条例の施行の日から令和7年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害者支援施設の設備及び運営に関する基準を定める条例（次項において「新条例」という。）第20条の2の規定の適用については、同条第2項及び第3項中「設けなければ」とあるのは「設けるよう努めなければ」と、同条第4項中「公表しなければ」とあるのは「公表するよう努めなければ」とする。
- 3 この条例の施行の日から令和8年3月31日までの間、新条例第20条の3の規定の適用については、同条第1項中「選任しなければ」とあるのは「選任するよう努めなければ」と、同条第2項中「報告しなければ」とあるのは「報告するよう努めなければ」とする。

議案第 40 号

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター条例等一部改正
の件

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター条例等の一部を次のように
改正する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター条例等の一部を
改正する条例

(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター条例の一部改正)

第1条 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター条例（平成26年富山
県条例第60号）の一部を次のように改正する。

第4条第3号中「の指導、」を「における基本的な動作及び」に、「付与及び」
を「習得のための支援並びに」に改め、同条第4号中「、同条第3項に規定する
医療型児童発達支援」を削り、「同条第4項」を「同条第3項」に、「同条第6
項」を「同条第5項」に改める。

(富山県福祉型障害児入所施設条例の一部改正)

第2条 富山県福祉型障害児入所施設条例（昭和39年富山県条例第28号）の一部を
次のように改正する。

第2条中「、日常生活の指導」を「並びに日常生活における基本的動作」に、
「付与」を「習得のための支援」に改める。

(富山県看護学生修学資金貸与条例の一部改正)

第3条 富山県看護学生修学資金貸与条例（昭和39年富山県条例第57号）の一部を
次のように改正する。

別表第1の5の項中「第6条の2の2第3項」を「第7条第2項」に改める。

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。

議案第 41 号

富山県社会福祉法に基づく軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例一部改正の件

富山県社会福祉法に基づく軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県社会福祉法に基づく軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

富山県社会福祉法に基づく軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第63号）の一部を次のように改正する。

第10条第2項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同項第4号中「苦情」を「規定による苦情」に改め、同項第5号中「第34条第2項の」を「第34条第3項の規定による」に改め、「の同条第3項」を削る。

第12条第4項ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第13条第3項第2号中「磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物」を「電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第37条第1項において同じ。）に係る記録媒体をいう。）」に改める。

第28条中第2項を第7項とし、第1項の次に次の5項を加える。

- 2 軽費老人ホームは、前項の規定に基づき協力医療機関を定めるに当たっては、次に掲げる要件を満たす協力医療機関を定めるように努めなければならない。
 - (1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。
 - (2) 当該軽費老人ホームからの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。
- 3 軽費老人ホームは、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が

急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。

4 軽費老人ホームは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。

5 軽費老人ホームは、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合には、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

6 軽費老人ホームは、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該軽費老人ホームに速やかに入所させることができるように努めなければならない。

第29条第1項中「重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同条に次の1項を加える。

3 軽費老人ホームは、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第37条第1項中「、交付」及び「（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）」を削る。

附則第6条第5項ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第13条第3項第2号の改正規定及び第37条第1項の改正規定（「、交付」を削る部分を除く。）は、公布の日から施行する。

（重要事項の掲示に係る経過措置）

2 この条例の施行の日から令和7年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県社会福祉法に基づく軽費老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める

条例（以下「新条例」をいう。）第29条第3項（新条例附則第10条において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

議案第 42 号

富山県老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例一部改正の件

富山県老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

富山県老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第64号）の一部を次のように改正する。

第10条第2項第3号から第5号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第13条第5項ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第26条の見出しを「（協力医療機関等）」に改め、同条第1項を次のように改める。

養護老人ホームは、入所者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関（第3号の要件を満たす協力医療機関にあっては、病院に限る。）を定めておかなければならない。ただし、複数の医療機関を協力医療機関として定めることにより当該各号の要件を満たすこととしても差し支えない。

- (1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。
- (2) 当該養護老人ホームからの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。
- (3) 入所者の病状が急変した場合等において、当該養護老人ホームの医師又は協力医療機関その他の医療機関の医師が診療を行い、入院を要すると認められた入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保していること。

第26条中第2項を第6項とし、第1項の次に次の4項を加える。

- 2 養護老人ホームは、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。
- 3 養護老人ホームは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。
- 4 養護老人ホームは、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合には、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。
- 5 養護老人ホームは、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該養護老人ホームに速やかに入所させることができるように努めなければならない。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。
（協力医療機関との連携に関する経過措置）
- 2 この条例の施行の日から令和9年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例第26条第1項の規定の適用については、同項中「定めておかなければ」とあるのは、「定めておくよう努めなければ」とする。

議案第 43 号

富山県老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例一部改正の件

富山県老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

富山県老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第65号）の一部を次のように改正する。

目次中「第32条の3」を「第32条の4」に改める。

第10条第2項第3号から第5号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第12条に次の2項を加える。

- 8 特別養護老人ホーム（過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法（令和3年法律第19号）第2条第2項の規定により公示された過疎地域に所在し、かつ、入所定員が30人の特別養護老人ホームに限る。以下この項及び次項において同じ。）に富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第66号。以下「指定居宅サービス等基準条例」という。）第148条第1項に規定する指定短期入所生活介護事業所又は富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第67号）第130条第1項に規定する指定介護予防短期入所生活介護事業所（以下「指定短期入所生活介護事業所等」という。）が併設される場合においては、当該指定短期入所生活介護事業所等の医師については、当該特別養護老人ホームの医師により当該指定短期入所生活介護事業所等の利用者の健康管理が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

9 特別養護老人ホームに指定居宅サービス等基準条例第100条第1項に規定する指定通所介護事業所、指定短期入所生活介護事業所等、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準（平成18年厚生労働省令第34号。以下「指定地域密着型サービス基準」という。）第20条第1項に規定する指定地域密着型通所介護事業所、指定地域密着型サービス基準第42条第1項に規定する併設型指定認知症対応型通所介護の事業を行う事業所又は指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成18年厚生労働省令第36号。以下「指定地域密着型介護予防サービス基準」という。）第5条第1項に規定する併設型指定介護予防認知症対応型通所介護の事業を行う事業所が併設される場合においては、当該併設される事業所の生活相談員、栄養士、機能訓練指導員又は調理員その他の従業者については、当該特別養護老人ホームの生活相談員、栄養士、機能訓練指導員又は調理員、事務員その他の職員により当該事業所の利用者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

第23条の2中「医師」の次に「及び協力医療機関の協力を得て、当該医師及び当該協力医療機関」を加え、同条に次の1項を加える。

2 特別養護老人ホームは、前項の医師及び協力医療機関の協力を得て、1年に1回以上、緊急時等における対応方法の見直しを行い、必要に応じて緊急時等における対応方法の変更を行わなければならない。

第24条第2項中「第32条の3まで」を「第32条の4まで」に改める。

第28条の見出しを「（協力医療機関等）」に改め、同条第1項を次のように改める。

特別養護老人ホームは、入所者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関（第3号の要件を満たす協力医療機関にあっては、病院に限る。）を定めておかななければならない。ただし、複数の医療機関を協力医療機関として定めることにより当該各号の要件を満たすこととしても差し支えない。

- (1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。
- (2) 当該特別養護老人ホームからの診療の求めがあった場合において診療を行う

体制を、常時確保していること。

- (3) 入所者の病状が急変した場合等において、当該特別養護老人ホームの医師又は協力医療機関その他の医療機関の医師が診療を行い、入院を要すると認められた入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保していること。

第28条中第2項を第6項とし、第1項の次に次の4項を加える。

- 2 特別養護老人ホームは、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。
- 3 特別養護老人ホームは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。
- 4 特別養護老人ホームは、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。
- 5 特別養護老人ホームは、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該特別養護老人ホームに速やかに入所させることができるように努めなければならない。

第2章中第32条の3の次に次の1条を加える。

（入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置）

- 第32条の4 特別養護老人ホームは、当該特別養護老人ホームにおける業務の効率化、介護サービスの質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該特別養護老人ホームにおける入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的を開催しなければならない。
- 第41条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

- 5 ユニット型特別養護老人ホームの施設長は、ユニット型施設の管理等に係る研

修を受講するよう努めなければならない。

第43条中「第32条の3まで」を「第32条の4まで」に改める。

第46条第11項を次のように改める。

- 11 地域密着型特別養護老人ホームに指定短期入所生活介護事業所等が併設される場合においては、当該指定短期入所生活介護事業所等の医師については、当該地域密着型特別養護老人ホームの医師により当該指定短期入所生活介護事業所等の利用者の健康管理が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

第46条第12項中「指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準（平成18年厚生労働省令第34号。以下「指定地域密着型サービス基準」という。）」を「指定地域密着型サービス基準」に、「指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成18年厚生労働省令第36号。以下「指定地域密着型介護予防サービス基準」という。）」を「指定地域密着型介護予防サービス基準」に改める。

第49条及び第53条中「第32条の3まで」を「第32条の4まで」に改める。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。

（協力医療機関との連携に関する経過措置）

- 2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和9年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県老人福祉法に基づく特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準を定める条例（以下「新条例」という。）第28条第1項（新条例第43条、第49条及び第53条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、同項中「定めておかなければ」とあるのは、「定めておくよう努めなければ」とする。

（利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る経過措置）

- 3 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第32条の4（新条例第43条、第49条及び第53条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、新条例第32条の4中「開催しなければ」とあるのは、「開催するよう努めなければ」

とする。

議案第 44 号

富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例等一部改正の件

富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例等の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例等の一部を改正する条例

(富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部改正)

第1条 富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例(平成24年富山県条例第66号)の一部を次のように改正する。

第7条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第9条第2項第2号中「磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物」を「電磁的記録媒体(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第277条第1項において同じ。)に係る記録媒体をいう。)」に改める。

第24条中第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

- (3) 指定訪問介護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為(以下「身体的拘束等」という。)を行ってはならない。
- (4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第34条第1項中「重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同条に次の1項を加える。

3 指定訪問介護事業者は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第42条第2項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号の次に次の1号を加える。

(3) 第24条第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第44条ただし書及び第50条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第54条中第5号を第7号とし、第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定訪問入浴介護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第58条第2項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第2号とし、同項に第1号として次の1号を加える。

(1) 第54条第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第61条ただし書及び第101条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第105条中第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定通所介護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又

は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

- (4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第112条第2項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号の次に次の1号を加える。

- (2) 第105条第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第115条中「第112条第2項第2号」を「第112条第2項第3号」に、「同項第3号」を「同項第4号」に、「同項第4号」を「同項第5号」に改める。

第133条ただし書及び第149条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第155条第4項中「身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）」を「身体的拘束等」に改め、同条中第6項を第7項とし、第5項の次に次の1項を加える。

- 6 指定短期入所生活介護事業者は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。

(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。

(2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。

(3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施すること。

第166条の次に次の1条を加える。

（利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置）

第166条の2 指定短期入所生活介護事業者は、当該指定短期入所生活介護事業所における業務の効率化、介護サービスの質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該指定短期入所生活介護事業所における利用者

の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的で開催しなければならない。

第167条第2項第2号から第6号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第174条中第8項を第9項とし、第7項の次に次の1項を加える。

8 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。

(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。

(2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。

(3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施すること。

第179条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

5 ユニット型指定短期入所生活介護事業所の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

第184条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第190条第1項第2号を削り、同項第3号中「（前号に該当するものを除く。）」を削り、同号を同項第2号とし、同項第4号中「前2号」を「前号」に改め、「及び入院患者」を削り、同号を同項第3号とし、同項第5号を同項第4号とする。

第191条第1項第2号を削り、同項第3号中「（指定介護療養型医療施設であるものを除く。）」を削り、同号を同項第2号とし、同項中第4号を第3号とし、第5号を第4号とし、同条第2項中「前項第3号及び第4号」を「前項第2号及び第3号」に、「前項に」を「同項に」に改める。

第192条中「、診療所」を「又は診療所」に改め、「又は病院の老人性認知症疾患療養病棟（健康保険法等の一部を改正する法律附則第130条の2第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた介護保険法施行令（平成10年政令第412号）第4条第2項に規定する病床により構成される病棟をいう。以下同じ。）」を削る。

第 194 条中第 6 項を第 7 項とし、第 5 項の次に次の 1 項を加える。

6 指定短期入所療養介護事業者は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。

- (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を 3 月に 1 回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。
- (2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。
- (3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施すること。

第 202 条第 2 号中「若しくは診療所又は老人性認知症疾患療養病棟を有する病院」を「又は診療所」に、「療養病床又は老人性認知症疾患療養病棟」を「療養病床」に改める。

第 203 条第 2 項第 2 号から第 6 号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第 204 条中「及び第 166 条」を「、第 166 条及び第 166 条の 2」に改める。

第 207 条第 1 項各号列記以外の部分中「ユニット型指定短期入所療養介護の」を「介護老人保健施設であるユニット型指定短期入所療養介護の」に、「次のとおり」を「法に規定する介護老人保健施設として必要とされる施設及び設備（ユニット型介護老人保健施設に関するものに限る。）を有すること」に改め、同項各号を削り、同条第 2 項中「第 192 条第 1 項に規定する設備」を「第 192 条第 1 項から第 4 項までに規定する設備」に、「前項」を「前各項」に改め、同項を同条第 5 項とし、同条第 1 項の次に次の 3 項を加える。

2 療養病床を有する病院であるユニット型指定短期入所療養介護事業所の設備に関する基準は、次に掲げる設備を有することとする。

- (1) 療養病床を有する病院であるユニット型指定短期入所療養介護事業所は、ユニット及び浴室を有しなければならない。
- (2) 療養病床を有する病院であるユニット型指定短期入所療養介護事業所のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室については、次の基準を満たさなければならない。

ア ユニットは、次の基準を満たすこと。

(ア) 病室は、次の基準を満たすこと。

- a 1の病室の定員は、1人とすること。ただし、利用者への指定短期入所療養介護の提供上必要と認められる場合は、2人とすることができること。
 - b 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けること。ただし、1のユニットの利用者の定員は、原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないものとする。
 - c 1の病室の床面積等は、10.65平方メートル以上とすること。ただし、aただし書の場合にあっては、21.3平方メートル以上とすること。
 - d ブザー又はこれに代わる設備を設けること。
- (イ) 共同生活室は、次の基準を満たすこと。
- a 共同生活室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの利用者が交流し、共同で日常生活を営むための場所としてふさわしい形状を有すること。
 - b 1の共同生活室の床面積は、2平方メートルに当該共同生活室が属するユニットの利用者の定員を乗じて得た面積以上を標準とすること。
 - c 必要な設備及び備品を備えること。
- (ウ) 洗面設備は、次の基準を満たすこと。
- a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。
 - b 身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。
- (エ) 便所は、次の基準を満たすこと。
- a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。
 - b ブザー又はこれに代わる設備を設けるとともに、身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。
- イ 廊下幅は、1.8メートル以上とすること。ただし、中廊下の幅は、2.7メートル以上とすること。
- ウ 機能訓練室は、内法による測定で40平方メートル以上の床面積を有し、必要な器械及び器具を備えること。
- エ 浴室は、身体の不自由な者が入浴するのに適したものとすること。
- (3) 前号イからエまでに掲げる設備は、専ら当該ユニット型指定短期入所療養介護事業所の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する

指定短期入所療養介護の提供に支障がない場合は、この限りでない。

- (4) 第2号ア(イ)の共同生活室は、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第21条第3号に規定する食堂とみなす。
- (5) 前各号に規定するもののほか、療養病床を有する病院であるユニット型指定短期入所療養介護事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けることとする。

3 療養病床を有する診療所であるユニット型指定短期入所療養介護事業所の設備に関する基準は、次に掲げる設備を有することとする。

- (1) 療養病床を有する診療所であるユニット型指定短期入所療養介護事業所は、ユニット及び浴室を有しなければならない。
- (2) 療養病床を有する診療所であるユニット型指定短期入所療養介護事業所のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室については、次の基準を満たさなければならない。

ア ユニットは、次の基準を満たすこと。

(ア) 病室は、次の基準を満たすこと。

- a 1の病室の定員は、1人とすること。ただし、利用者への指定短期入所療養介護の提供上必要と認められる場合は、2人とすることができること。
- b 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けること。ただし、1のユニットの利用者の定員は、原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないものとする。
- c 1の病室の床面積等は、10.65平方メートル以上とすること。ただし、aただし書の場合にあっては、21.3平方メートル以上とすること。
- d ブザー又はこれに代わる設備を設けること。

(イ) 共同生活室は、次の基準を満たすこと。

- a 共同生活室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの利用者が交流し、共同で日常生活を営むための場所としてふさわしい形状を有すること。
- b 1の共同生活室の床面積は、2平方メートルに当該共同生活室が属するユニットの利用者の定員を乗じて得た面積以上を標準とすること。

- c 必要な設備及び備品を備えること。
 - (ウ) 洗面設備は、次の基準を満たすこと。
 - a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。
 - b 身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。
 - (エ) 便所は、次の基準を満たすこと。
 - a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。
 - b ブザー又はこれに代わる設備を設けるとともに、身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。
 - イ 廊下幅は、1.8メートル以上とすること。ただし、中廊下の幅は、2.7メートル以上とすること。
 - ウ 機能訓練室は、機能訓練を行うために十分な広さを有し、必要な器械及び器具を備えること。
 - エ 浴室は、身体の不自由な者が入浴するのに適したものとすること。
- (3) 前号イからエまでに掲げる設備は、専ら当該ユニット型指定短期入所療養介護事業所の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する指定短期入所療養介護の提供に支障がない場合は、この限りでない。
- (4) 第2号ア(イ)の共同生活室は、医療法施行規則第21条の4において準用する同令第21条第3号に規定する食堂とみなす。
- (5) 前各号に規定するもののほか、療養病床を有する診療所であるユニット型指定短期入所療養介護事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けることとする。
- 4 介護医療院であるユニット型指定短期入所療養介護事業所の設備に関する基準は、法に規定する介護医療院として必要とされる施設及び設備（ユニット型介護医療院に関するものに限る。）を有することとする。
- 第209条中第8項を第9項とし、第7項の次に次の1項を加える。
- 8 ユニット型指定短期入所療養介護事業者は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。
- (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとすること。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。
 - (2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。

(3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施すること。

第 214 条中第 5 項を第 6 項とし、第 4 項の次に次の 1 項を加える。

5 ユニット型指定短期入所療養介護事業所の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

第 215 条中第 2 号を削り、第 3 号を第 2 号とする。

第 218 条に次の 1 項を加える。

9 次に掲げる要件のいずれにも適合する場合における第 1 項第 2 号ア及び第 2 項第 2 号アの規定の適用については、これらの規定中「1」とあるのは、「0.9」とする。

(1) 第 237 条において準用する第 166 条の 2 に規定する委員会において、利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図るための取組に関する次に掲げる事項について必要な検討を行い、及び当該事項の実施を定期的に確認していること。

ア 利用者の安全及びケアの質の確保

イ 特定施設従業者の負担軽減及び勤務状況への配慮

ウ 緊急時の体制整備

エ 業務の効率化、介護サービスの質の向上等に資する機器（次号において「介護機器」という。）の定期的な点検

オ 特定施設従業者に対する研修

(2) 介護機器を複数種類活用していること。

(3) 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図るため、特定施設従業者間の適切な役割分担を行っていること。

(4) 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図る取組による介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減が行われていると認められること。

第 219 条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第 228 条の次に次の 1 条を加える。

（口腔^{くわう}衛生の管理）

第 228 条の 2 指定特定施設入居者生活介護事業者は、利用者の口腔^{くわう}の健康の保持を図り、自立した日常生活を営むことができるよう、口腔^{くわう}衛生の管理体制を

整備し、各利用者の状態に応じた口腔衛生^{くわう}の管理を計画的に行わなければならない。

第 234 条第 1 項中「をいう」の次に「。以下この条において同じ」を加え、同条中第 2 項を第 7 項とし、第 1 項の次に次の 5 項を加える。

- 2 指定特定施設入居者生活介護事業者は、前項の規定に基づき協力医療機関を定めるに当たっては、次に掲げる要件を満たす協力医療機関を定めるように努めなければならない。
 - (1) 利用者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。
 - (2) 当該指定特定施設入居者生活介護事業者からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。
- 3 指定特定施設入居者生活介護事業者は、1 年に 1 回以上、協力医療機関との間で、利用者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。
- 4 指定特定施設入居者生活介護事業者は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第 114 号）第 6 条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第 7 項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第 8 項に規定する指定感染症又は同条第 9 項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。
- 5 指定特定施設入居者生活介護事業者は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。
- 6 指定特定施設入居者生活介護事業者は、利用者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該利用者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該指定特定施設に速やかに入居させることができるように努めなければならない。

第 236 条第 2 項第 2 号から第 7 号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第 237 条中「及び第 159 条」を「、第 159 条及び第 166 条の 2」に改める。

第 241 条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第 247 条第 2 項第 2 号から第 9 号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第 250 条第 1 項中「介護保険法施行令」の次に「（平成10年政令第 412 号）」を加える。

第 251 条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第 255 条中第 6 号を第 9 号とし、第 5 号を第 8 号とし、第 4 号を第 5 号とし、同号の次に次の 2 号を加える。

(6) 指定福祉用具貸与の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(7) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第 255 条中第 3 号を第 4 号とし、第 2 号を第 3 号とし、第 1 号の次に次の 1 号を加える。

(2) 法第 8 条第12項に規定する厚生労働大臣が定める福祉用具及び同条第13項に規定する特定福祉用具のいずれにも該当する福祉用具（以下「対象福祉用具」という。）に係る指定福祉用具貸与の提供に当たっては、利用者が指定福祉用具貸与又は指定特定福祉用具販売のいずれかを選択できることについて十分な説明を行った上で、利用者の当該選択に当たって必要な情報を提供するとともに、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、居宅サービス計画の原案に位置付けた指定居宅サービス等（法第 8 条第24項に規定する指定居宅サービス等をいう。）の担当者その他の関係者の意見及び利用者の身体の状態等を踏まえ、提案を行うものとする。

第 256 条第 1 項中「内容等」を「内容、福祉用具貸与計画の実施状況の把握（以下この条において「モニタリング」という。）を行う時期等」に改め、同条第 6 項を同条第 8 項とし、同条第 5 項中「福祉用具貸与計画の作成後、当該福祉用具貸与計画の実施状況の把握を行い」を「モニタリングの結果を踏まえ」に改め、同項を同条第 7 項とし、同条第 4 項の次に次の 2 項を加える。

5 福祉用具専門相談員は、福祉用具貸与計画の作成後、モニタリングを行うものとする。ただし、対象福祉用具に係る指定福祉用具貸与の提供に当たっては、

福祉用具貸与計画に基づくサービス提供の開始時から6月以内に少なくとも1回モニタリングを行い、その継続の必要性について検討を行うものとする。

- 6 福祉用具専門相談員は、モニタリングの結果を記録し、当該記録をサービスの提供に係る居宅サービス計画を作成した指定居宅介護支援事業者に報告しなければならない。

第261条第1項中「重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同条第3項を同条第4項とし、同条第2項の次に次の1項を加える。

- 3 指定福祉用具貸与事業者は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第262条第2項第6号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第7号とし、同項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号の次に次の1号を加える。

- (2) 第255条第7号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第268条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第273条中第4号を第8号とし、第3号を第4号とし、同号の次に次の3号を加える。

- (5) 対象福祉用具に係る指定特定福祉用具販売の提供に当たっては、利用者等からの要請等に応じて、販売した福祉用具の使用状況を確認するよう努めるとともに、必要な場合は、使用方法の指導、修理等を行うよう努めるものとする。

- (6) 指定特定福祉用具販売の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

- (7) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第 273 条中第 2 号を第 3 号とし、第 1 号の次に次の 1 号を加える。

(2) 対象福祉用具に係る指定特定福祉用具販売の提供に当たっては、利用者が指定福祉用具貸与又は指定特定福祉用具販売のいずれかを選択できることについて十分な説明を行った上で、利用者の当該選択に当たって必要な情報を提供するとともに、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、居宅サービス計画の原案に位置付けた指定居宅サービス等（法第 8 条第 24 項に規定する指定居宅サービス等をいう。）の担当者その他の関係者の意見及び利用者の身体の状態等を踏まえ、提案を行うものとする。

第 274 条に次の 1 項を加える。

5 福祉用具専門相談員は、対象福祉用具に係る指定特定福祉用具販売の提供に当たっては、特定福祉用具販売計画の作成後、当該特定福祉用具販売計画に記載した目標の達成状況の確認を行うものとする。

第 275 条第 2 項第 2 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同項第 5 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 6 号とし、同項第 4 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 5 号とし、同項第 3 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 4 号とし、同項第 2 号の次に次の 1 号を加える。

(3) 第 273 条第 7 号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状態並びに緊急やむを得ない理由の記録

第 277 条第 1 項中「（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）」を削る。

第 2 条 富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

第 66 条第 1 項ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第 72 条中第 5 号を第 7 号とし、第 4 号を第 6 号とし、第 3 号を第 5 号とし、第 2 号の次に次の 2 号を加える。

(3) 指定訪問看護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者

の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第78条第2項第7号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第8号とし、同項第6号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第7号とし、同項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号の次に次の1号を加える。

- (3) 第72条第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第81条第3項中「第80条第1項に規定する人員」を「第80条第1項から第3項までに規定する人員」に、「、第1項」を「、前3項」に改め、同項を同条第4項とし、同条第2項の次に次の1項を加える。

- 3 指定訪問リハビリテーション事業所が法第72条第1項の規定により法第41条第1項本文の指定があったものとみなされた介護老人保健施設又は介護医療院である場合については、富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第69号。以下「介護老人保健施設基準条例」という。）第4条又は富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成30年富山県条例第1号。以下「介護医療院基準条例」という。）第4条に規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第85条中第5号を第7号とし、第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

- (3) 指定訪問リハビリテーションの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

- (4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第86条第5項中「第4項まで」を「第5項まで」に改め、同項を同条第6項とし、同条第4項を同条第5項とし、同条第3項の次に次の1項を加える。

- 4 医師及び理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士は、リハビリテーションを

受けていた医療機関から退院した利用者に係る訪問リハビリテーション計画の作成に当たっては、当該医療機関が作成したリハビリテーション実施計画書等により、当該利用者に係るリハビリテーションの情報を把握しなければならない。

第88条第2項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号の次に次の1号を加える。

(2) 第85条第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第95条第1項中第7号を第9号とし、第4号から第6号までを2号ずつ繰り下げ、第3号の次に次の2号を加える。

(4) 指定居宅療養管理指導の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(5) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第95条第2項中第7号を第9号とし、第3号から第6号までを2号ずつ繰り下げ、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定居宅療養管理指導の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第95条第3項中第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定居宅療養管理指導の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者

の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第97条第2項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第2号とし、同項に第1号として次の1号を加える。

- (1) 第95条第1項第5号、第2項第4号及び第3項第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第137条第4項中「第3項まで」を「第4項まで」に、「前3項」を「前各項」に改め、同項を同条第5項とし、同条第3項の次に次の1項を加える。

- 4 指定通所リハビリテーション事業所が法第72条第1項の規定により法第41条第1項本文の指定があったものとみなされた介護老人保健施設又は介護医療院である場合については、介護老人保健施設基準条例第4条又は介護医療院基準条例第4条に規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第140条中第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

- (3) 指定通所リハビリテーションの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。
- (4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第141条第6項中「第4項まで」を「第5項まで」に改め、同項を同条第7項とし、同条中第5項を第6項とし、第4項を第5項とし、第3項の次に次の1項を加える。

- 4 医師等の従業者は、リハビリテーションを受けていた医療機関から退院した利用者に係る通所リハビリテーション計画の作成に当たっては、当該医療機関が作成したリハビリテーション実施計画書等により、当該利用者に係るリハビリテーションの情報を把握しなければならない。

第145条第2項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同

項第 6 号とし、同項第 4 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 5 号とし、同項第 3 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 4 号とし、同項第 2 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 3 号とし、同項第 1 号の次に次の 1 号を加える。

(2) 第 140 条第 4 号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第 191 条第 1 項第 1 号中「富山県介護保健法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第69号）」を「介護老人保健施設基準条例」に改め、同項第 4 号中「富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成30年富山県条例第 1 号）」を「介護医療院基準条例」に改める。

（富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の一部改正）

第 3 条 富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例（令和 3 年富山県条例第24号）の一部を次のように改正する。

附則第 2 項及び第 3 項を次のように改める。

（虐待の防止に係る経過措置）

2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和 9 年 3 月31日までの間、この条例による改正後の富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（以下「新条例」という。）第 3 条第 3 項（新条例第90条に規定する指定居宅療養管理指導事業者に適用される場合に限る。）及び第40条の 2（新条例第98条において準用する場合に限る。）の規定の適用については、これらの規定中「講じなければ」とあるのは「講ずよう努めなければ」とし、新条例第96条の規定の適用については、同条中「次に」とあるのは「虐待の防止のための措置に関する事項に関する規程を定めておくよう努めるとともに、次に」と、「重要事項」とあるのは「重要事項（虐待の防止のための措置に関する事項を除く。））」とする。

（業務継続計画の策定等に係る経過措置）

3 施行日から令和 9 年 3 月31日までの間、新条例第32条の 2（新条例第98条において準用する場合に限る。）の規定の適用については、新条例第32条の 2 第

1 項中「講じなければ」とあるのは「講ずるよう努めなければ」と、同条第 2 項中「実施しなければ」とあるのは「実施するよう努めなければ」と、同条第 3 項中「行うものとする」とあるのは「行うよう努めるものとする」とする。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 1 条中第 9 条第 2 項第 2 号及び第 277 条第 1 項の改正規定は公布の日から、第 2 条の規定は令和 6 年 6 月 1 日から施行する。

(重要事項の揭示に係る経過措置)

- 2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和 7 年 3 月 31 日までの間、この条例による改正後の富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（以下「新条例」という。）第 34 条第 3 項（新条例第 42 条の 4、第 47 条、第 59 条、第 63 条、第 79 条、第 89 条、第 98 条、第 113 条、第 115 条、第 135 条、第 146 条、第 168 条（新条例第 181 条において準用する場合を含む。）、第 181 条の 3、第 188 条、第 204 条（新条例第 216 条において準用する場合を含む。）、第 237 条及び第 248 条において準用する場合を含む。）、第 261 条第 3 項（新条例第 265 条及び第 276 条において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

(身体的拘束等の適正化に係る経過措置)

- 3 施行日から令和 7 年 3 月 31 日までの間、新条例第 155 条第 6 項（新条例第 181 条の 3 及び第 188 条において準用する場合を含む。）、第 174 条第 8 項、第 194 条第 6 項及び第 209 条第 8 項の規定の適用については、これらの規定中「講じなければ」とあるのは、「講じるよう努めなければ」とする。

(利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る経過措置)

- 4 施行日から令和 9 年 3 月 31 日までの間、新条例第 166 条の 2（新条例第 181 条、第 181 条の 3、第 188 条、第 204 条（新条例第 216 条において準用する場合を含む。）及び第 237 条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、新条例第 166 条の 2 中「開催しなければ」とあるのは、「開催するよう努めなければ」とする。

(口腔衛生^{くわう}の管理に係る経過措置)

- 5 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第228条の2の規定の適用については、同条中「行わなければ」とあるのは、「行うよう努めなければ」とする。

議案第 45 号

富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例等一部改正の件

富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例等の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例等の一部を改正する条例

(富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部改正)

第1条 富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例(平成24年富山県条例第67号)の一部を次のように改正する。

第50条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第51条の2第2項第2号中「磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物」を「電磁的記録媒体(電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第267条第1項において同じ。))に係る記録媒体をいう。)」に改める。

第55条の4第1項中「重要事項」の次に「(以下この条において単に「重要事項」という。)」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」

に、「同項」を「前項」に改め、同条に次の1項を加える。

3 指定介護予防訪問入浴介護事業者は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第56条第2項第1号から第4号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改め、同項に次の1号を加える。

(5) 第59条第4号の規定による身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第59条中第5号を第7号とし、第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定介護予防訪問入浴介護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第61条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第87条第1号中「第2条」を「第2条第1項」に改め、「担当職員」の次に「及び同条第2項に規定する介護支援専門員」を、「指定介護予防サービス等という」の次に「。第251条第4号及び第265条第3号において同じ」を加える。

第131条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第137条第1項中「身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）」を「身体的拘束等」に改め、同条に次の1項を加える。

3 指定介護予防短期入所生活介護事業者は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。

(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。

(2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。

(3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施すること。

第140条第2項中「第2条」を「第2条第1項」に、「担当職員」を「担当職

員及び同条第2項に規定する介護支援専門員」に、「前項各号」を「同項各号」に改める。

第141条の次に次の1条を加える。

(利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置)

第141条の2 指定介護予防短期入所生活介護事業者は、当該指定介護予防短期入所生活介護事業所における業務の効率化、介護サービスの質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該指定介護予防短期入所生活介護事業所における利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的を開催しなければならない。

第142条第2項第2号から第6号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第158条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

5 ユニット型指定介護予防短期入所生活介護事業所の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

第168条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第174条第1項第2号を削り、同項第3号中「(前号に該当するものを除く。)」を削り、同号を同項第2号とし、同項第4号中「前2号」を「前号」に改め、「及び入院患者」を削り、同号を同項第3号とし、同項第5号を同項第4号とする。

第175条第1項第2号を削り、同項第3号中「(指定介護療養型医療施設であるものを除く。)」を削り、同号を同項第2号とし、同項中第4号を第3号とし、第5号を第4号とし、同条第2項中「前項第3号及び第4号」を「前項第2号及び第3号」に、「前項に」を「同項に」に改める。

第176条中「、診療所」を「又は診療所」に改め、「又は病院の老人性認知症疾患療養病棟(健康保険法等の一部を改正する法律附則第130条の2第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた介護保険法施行令(平成10年政令第412号)第4条第2項に規定する病床により構成される病棟をいう。以下同じ。)」を削る。

第178条に次の1項を加える。

3 指定介護予防短期入所療養介護事業者は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。

(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。

(2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備すること。

(3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施すること。

第180条第2号中「若しくは診療所又は老人性認知症疾患療養病棟を有する病院」を「又は診療所」に、「療養病床又は老人性認知症疾患療養病棟」を「療養病床」に改める。

第181条第2項第2号から第6号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第182条中「及び第141条」を「、第141条及び第141条の2」に改める。

第192条第1項各号列記以外の部分中「ユニット型指定介護予防短期入所療養介護」を「介護老人保健施設であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護」に、「次のとおり」を「法に規定する介護老人保健施設として必要とされる施設及び設備（ユニット型介護老人保健施設に関するものに限る。）を有すること」に改め、同項各号を削り、同条第2項中「第207条第1項に規定する設備」を「第207条第1項から第4項までに規定する設備」に、「前項」を「前各項」に改め、同項を同条第5項とし、同条第1項の次に次の3項を加える。

2 療養病床を有する病院であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所の設備に関する基準は、次に掲げる設備を有することとする。

(1) 療養病床を有する病院であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所は、ユニット及び浴室を有しなければならない。

(2) 療養病床を有する病院であるユニット型介護予防指定短期入所療養介護事業所のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室については、次の基準を満たさなければならない。

ア ユニットは、次の基準を満たすこと。

(ア) 病室は、次の基準を満たすこと。

a 1の病室の定員は、1人とすること。ただし、利用者への指定介護

予防短期入所療養介護の提供上必要と認められる場合は、2人とすることができること。

b 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けること。ただし、1のユニットの利用者の定員は、原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないものとする。

c 1の病室の床面積等は、10.65平方メートル以上とすること。ただし、aただし書の場合にあっては、21.3平方メートル以上とすること。

d ブザー又はこれに代わる設備を設けること。

(イ) 共同生活室は、次の基準を満たすこと。

a 共同生活室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの利用者が交流し、共同で日常生活を営むための場所としてふさわしい形状を有すること。

b 1の共同生活室の床面積は、2平方メートルに当該共同生活室が属するユニットの利用者の定員を乗じて得た面積以上を標準とすること。

c 必要な設備及び備品を備えること。

(ウ) 洗面設備は、次の基準を満たすこと。

a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。

b 身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。

(エ) 便所は、次の基準を満たすこと。

a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。

b ブザー又はこれに代わる設備を設けるとともに、身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。

イ 廊下幅は、1.8メートル以上とすること。ただし、中廊下の幅は、2.7メートル以上とすること。

ウ 機能訓練室は、内法による測定で40平方メートル以上の床面積を有し、必要な器械及び器具を備えること。

エ 浴室は、身体の不自由な者が入浴するのに適したものとすること。

(3) 前号イからエまでに掲げる設備は、専ら当該ユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する指定介護予防短期入所療養介護の提供に支障がない場合は、この限

りでない。

- (4) 第2号ア(イ)の共同生活室は、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第21条第3号に規定する食堂とみなす。
 - (5) 前各号に規定するもののほか、療養病床を有する病院であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けることとする。
- 3 療養病床を有する診療所であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所の設備に関する基準は、次に掲げる設備を有することとする。
- (1) 療養病床を有する診療所であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所は、ユニット及び浴室を有しなければならない。
 - (2) 療養病床を有する診療所であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室については、次の基準を満たさなければならない。
 - ア ユニットは、次の基準を満たすこと。
 - (ア) 病室は、次の基準を満たすこと。
 - a 1の病室の定員は、1人とすること。ただし、利用者への指定介護予防短期入所療養介護の提供上必要と認められる場合は、2人とすることができること。
 - b 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けること。ただし、1のユニットの利用者の定員は、原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないものとする。
 - c 1の病室の床面積等は、10.65平方メートル以上とすること。ただし、aただし書の場合にあっては、21.3平方メートル以上とすること。
 - d ブザー又はこれに代わる設備を設けること。
 - (イ) 共同生活室は、次の基準を満たすこと。
 - a 共同生活室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの利用者が交流し、共同で日常生活を営むための場所としてふさわしい形状を有すること。
 - b 1の共同生活室の床面積は、2平方メートルに当該共同生活室が属するユニットの利用者の定員を乗じて得た面積以上を標準とすること。

- c 必要な設備及び備品を備えること。
 - (ウ) 洗面設備は、次の基準を満たすこと。
 - a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。
 - b 身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。
 - (エ) 便所は、次の基準を満たすこと。
 - a 病室ごとに設けること又は共同生活室ごとに適当数設けること。
 - b ブザー又はこれに代わる設備を設けるとともに、身体の不自由な者が使用するのに適したものとすること。
 - イ 廊下幅は、1.8メートル以上とすること。ただし、中廊下の幅は、2.7メートル以上とすること。
 - ウ 機能訓練室は、機能訓練を行うために十分な広さを有し、必要な器械及び器具を備えること。
 - エ 浴室は、身体の不自由な者が入浴するのに適したものとすること。
- (3) 前号イからエまでに掲げる設備は、専ら当該ユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所の用に供するものでなければならない。ただし、利用者に対する指定介護予防短期入所療養介護の提供に支障がない場合は、この限りでない。
- (4) 第2号ア(イ)の共同生活室は、医療法施行規則第21条の4において準用する同令第21条第3号に規定する食堂とみなす。
- (5) 前各号に規定するもののほか、療養病床を有する診療所であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所は、消火設備その他の非常災害に際して必要な設備を設けることとする。
- 4 介護医療院であるユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所の設備に関する基準は、法に規定する介護医療院として必要とされる施設及び設備（ユニット型介護医療院に関するものに限る。）を有することとする。
- 第195条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。
- 5 ユニット型指定介護予防短期入所療養介護事業所の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。
- 第196条中第2号を削り、第3号を第2号とする。
- 第204条に次の1項を加える。
- 9 次に掲げる要件のいずれにも適合する場合における第1項第2号ア及び第2

項第2号アの規定の適用については、これらの規定中「1」とあるのは、「0.9」とする。

(1) 第218条において準用する第141条の2に規定する委員会において、利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図るための取組に関する次に掲げる事項について必要な検討を行い、及び当該事項の実施を定期的に確認していること。

ア 利用者の安全及びケアの質の確保

イ 介護予防特定施設従業者の負担軽減及び勤務状況への配慮

ウ 緊急時の体制整備

エ 業務の効率化、介護サービスの質の向上等に資する機器（次号において「介護機器」という。）の定期的な点検

オ 介護予防特定施設従業者に対する研修

(2) 介護機器を複数種類活用していること。

(3) 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図るため、介護予防特定施設従業者間の適切な役割分担を行っていること。

(4) 利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図る取組により介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減が行われていると認められること。

第205条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第211条の次に次の1条を加える。

（口腔衛生の管理）

第211条の2 指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者は、利用者の口腔の健康の保持を図り、自立した日常生活を営むことができるよう、口腔衛生の管理体制を整備し、各利用者の状態に応じた口腔衛生の管理を計画的に行わなければならない。

第215条第1項中「をいう」の次に「。以下この条において同じ」を加え、同条中第2項を第7項とし、第1項の次に次の5項を加える。

2 指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者は、前項の規定に基づき協力医療機関を定めるに当たっては、次に掲げる要件を満たす協力医療機関を定めるように努めなければならない。

(1) 利用者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行

う体制を、常時確保していること。

(2) 当該指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。

3 指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者は、1年に1回以上、協力医療機関との間で、利用者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。

4 指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。

5 指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

6 指定介護予防特定施設入居者生活介護事業者は、利用者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該利用者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該指定介護予防特定施設に速やかに入居させることができるように努めなければならない。

第217条第2項第2号から第7号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第218条中「第55条の11まで（第55条の9第2項を除く。）」を「第55条の8まで、第55条の10から第55条の11まで」に、「及び第140条の2」を「、第140条の2及び第141条の2」に改める。

第229条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第234条第2項第2号から第9号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第235条中「第55条の11まで（第55条の9第2項を除く。）」を「第55条の8まで、第55条の10から第55条の11まで」に、「第212条まで」を「第211条まで、第212条」に改める。

第 239 条第 1 項中「介護保険法施行令」の次に「（平成10年政令第 412 号）」を加える。

第 240 条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第 247 条第 1 項中「認められる重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第 2 項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同条中第 3 項を第 4 項とし、第 2 項の次に次の 1 項を加える。

3 指定介護予防福祉用具貸与事業者は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第 248 条第 2 項第 1 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同項第 6 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 7 号とし、同項第 5 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 6 号とし、同項第 4 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 5 号とし、同項第 3 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 4 号とし、同項第 2 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 3 号とし、同項第 1 号の次に次の 1 号を加える。

(2) 第 251 条第 9 号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第 251 条中第 7 号を第10号とし、第 6 号を第 7 号とし、同号の次に次の 2 号を加える。

(8) 指定介護予防福祉用具貸与の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(9) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第 251 条中第 5 号を第 6 号とし、第 4 号を第 5 号とし、第 3 号の次に次の 1 号を加える。

(4) 法第 8 条の 2 第10項に規定する厚生労働大臣が定める福祉用具及び同条第 11項に規定する特定福祉用具のいずれにも該当する福祉用具（以下「対象福祉用具」という。）に係る指定介護予防福祉用具貸与の提供に当たっては、利用者が指定介護予防福祉用具貸与又は指定特定介護予防福祉用具販売のい

ずれかを選択できることについて十分な説明を行った上で、利用者の当該選択に当たって必要な情報を提供するとともに、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護予防サービス計画の原案に位置付けた指定介護予防サービス等の担当者その他の関係者の意見及び利用者の身体の状態等を踏まえ、提案を行うものとする。

第 252 条第 1 項中「期間等」を「期間、介護予防福祉用具貸与計画の実施状況の把握（以下この条において「モニタリング」という。）を行う時期等」に改め、同条第 5 項中「当該介護予防福祉用具貸与計画の実施状況の把握（以下この条において「モニタリング」という。）」を「モニタリング」に改め、同項に次のただし書を加える。

ただし、対象福祉用具に係る指定介護予防福祉用具貸与の提供に当たっては、介護予防福祉用具貸与計画に基づくサービス提供の開始時から 6 月以内に少なくとも 1 回モニタリングを行い、その継続の必要性について検討を行うものとする。

第 257 条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第 262 条第 2 項第 1 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同項第 5 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 6 号とし、同項第 4 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 5 号とし、同項第 3 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 4 号とし、同項第 2 号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第 3 号とし、同項第 1 号の次に次の 1 号を加える。

(2) 第 265 条第 8 号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状態並びに緊急やむを得ない理由の記録

第 265 条中第 5 号を第 9 号とし、第 4 号を第 5 号とし、同号の次に次の 3 号を加える。

(6) 対象福祉用具に係る指定特定介護予防福祉用具販売の提供に当たっては、利用者等からの要請等に応じて、販売した福祉用具の使用状況を確認するよう努めるとともに、必要な場合は、使用方法の指導、修理等を行うよう努めるものとする。

(7) 指定特定介護予防福祉用具販売の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(8) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第265条中第3号を第4号とし、第2号の次に次の1号を加える。

(3) 対象福祉用具に係る指定特定介護予防福祉用具販売の提供に当たっては、利用者が指定介護予防福祉用具貸与又は指定特定介護予防福祉用具販売のいずれかを選択できることについて十分な説明を行った上で、利用者の当該選択に当たって必要な情報を提供するとともに、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護予防サービス計画の原案に位置付けた指定介護予防サービス等の担当者その他の関係者の意見及び利用者の身体の状態等を踏まえ、提案を行うものとする。

第266条に次の1項を加える。

5 福祉用具専門相談員は、対象福祉用具に係る指定特定介護予防福祉用具販売の提供に当たっては、特定介護予防福祉用具販売計画の作成後、当該特定介護予防福祉用具販売計画に記載した目標の達成状況の確認を行うものとする。

第267条第1項中「(電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。)」を削る。

第2条 富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

第66条第1項ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第74条第2項第7号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第8号とし、同項第6号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第7号とし、同項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号の次に次の1号を加える。

(3) 第77条第9号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第77条第15号中「及び第10号から第14号まで」を「、第9号及び第12号から第14号まで」に改め、同号を同条第17号とし、同条第14号中「第12号まで」を「第14

号まで」に改め、同号を同条第16号とし、同条中第13号を第15号とし、第8号から第12号までを2号ずつ繰り下げ、第7号の次に次の2号を加える。

(8) 指定介護予防訪問看護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(9) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第78条第4項中「前条第15号」を「前条第17号」に改める。

第80条第3項中「第81条第1項に規定する人員」を「第81条第1項から第3項までに規定する人員」に、「、第1項」を「、前3項」に改め、同項を同条第4項とし、同条第2項の次に次の1項を加える。

3 指定介護予防訪問リハビリテーション事業者が法第115条の11において準用する法第72条第1項の規定により法第53条第1項本文の指定があったものとみなされた介護老人保健施設又は介護医療院である場合については、富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第69号。第118条第4項及び第175条第1項第1号において「介護老人保健施設基準条例」という。）第4条又は富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成30年富山県条例第1号。第118条第4項及び第175条第1項第4号において「介護医療院基準条例」という。）第4条に規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第84条第2項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号の次に次の1号を加える。

(2) 第87条第11号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第87条第14号中「第12号まで」を「第15号まで」に改め、同号を同条第17号とし、同条中第13号を第16号とし、第9号から第12号までを3号ずつ繰り下げ、第

8号を第9号とし、同号の次に次の2号を加える。

(10) 指定介護予防訪問リハビリテーションの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(11) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第87条中第7号を第8号とし、第6号中「第5号まで」を「第6号まで」に改め、同号を同条第7号とし、同条中第5号を第6号とし、第4号の次に次の1号を加える。

(5) 医師及び理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士は、リハビリテーションを受けていた医療機関から退院した利用者に係る介護予防訪問リハビリテーション計画の作成に当たっては、当該医療機関が作成したりハビリテーション実施計画書等により、当該利用者に係るリハビリテーションの情報を把握しなければならない。

第93条第2項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第2号とし、同項に第1号として次の1号を加える。

(1) 第96条第1項第5号、第2項第4号及び第3項第4号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第96条第1項中第7号を第9号とし、第4号から第6号までを2号ずつ繰り下げ、第3号中「前号」を「第2号」に改め、同号を同項第5号とし、同項第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定介護予防居宅療養管理指導の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第96条第2項中第7号を第9号とし、第3号から第6号までを2号ずつ繰り下

げ、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定介護予防居宅療養管理指導の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第96条第3項中第4号を第6号とし、第3号を第5号とし、第2号の次に次の2号を加える。

(3) 指定介護予防居宅療養管理指導の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(4) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第118条第4項中「第3項まで」を「第4項まで」に、「前3項」を「前各項」に改め、同項を同条第5項とし、同条第3項の次に次の1項を加える。

4 指定介護予防通所リハビリテーション事業者が法第115条の11において準用する法第72条第1項の規定により法第53条第1項本文の指定があったものとみなされた介護老人保健施設又は介護医療院である場合については、介護老人保健施設基準条例第4条又は介護医療院基準条例第4条に規定する人員に関する基準を満たすことをもって、前項に規定する基準を満たしているものとみなすことができる。

第123条第2項第5号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第6号とし、同項第4号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第5号とし、同項第3号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第4号とし、同項第2号中「に規定する」を「の規定による」に改め、同号を同項第3号とし、同項第1号の次に次の1号を加える。

(2) 第126条第11号の規定による身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

第126条第13号中「第11号まで」を「第14号まで」に改め、同号を同条第16号とし、同条中第12号を第15号とし、第9号から第11号までを3号ずつ繰り下げ、第8号を第9号とし、同号の次に次の2号を加える。

(10) 指定介護予防通所リハビリテーションの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等を行ってはならない。

(11) 前号の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

第126条中第7号を第8号とし、同条第6号中「第5号まで」を「第6号まで」に改め、同号を同条第7号とし、同条中第5号を第6号とし、第4号の次に次の1号を加える。

(5) 医師等の従業者は、リハビリテーションを受けていた医療機関から退院した利用者に係る介護予防通所リハビリテーション計画の作成に当たっては、当該医療機関が作成したリハビリテーション実施計画書等により、当該利用者のリハビリテーションの情報を把握しなければならない。

第175条第1項第1号中「富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第69号）」を「介護老人保健施設基準条例」に改め、同項第4号中「富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成30年富山県条例第1号）」を「介護医療院基準条例」に改める。

（富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例の一部改正）

第3条 富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例（令和3年富山県条例第25号）の一部を次のように改正する。

附則第2項中「令和6年3月31日」を「令和9年3月31日」に、「及び第55条の10の2（新条例第63条、第75条、第85条、第94条、第124条、第143条（新条例第160条において準用する場合を含む。）、第165条の3、第172条、第182条（新条例第197条において準用する場合を含む。）、第218条、第235条、第249条、第254条及び第263条において準用する場合を含む）」を「（新条例第89条第1項に規定する指定介護予防居宅療養管理指導事業者に適用される場合に限る。）及び第55条の10の2（新条例第94条において準用する場合に限る）」に、

「第55条（新条例第63条において準用する場合を含む。）、第73条、第83条、第92条、第121条、第139条（新条例第165条の3及び第172条において準用する場合を含む。）、第157条、第179条、第194条、第213条、第232条及び第243条（新条例第254条及び第263条において準用する場合を含む。）」を「第92条」に、「これらの規定中「次に」を「同条中「次に」に改める。

附則第4項中「令和6年3月31日」を「令和9年3月31日」に、「第63条、第75条、第85条、第94条、第124条、第143条（新条例第160条において準用する場合を含む。）、第165条の3、第172条、第182条（新条例第197条において準用する場合を含む。）、第218条、第235条、第249条、第254条及び第263条において準用する場合を含む」を「第94条において準用する場合に限る」に改める。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第1条中第51条の2第2項第2号及び第267条第1項の改正規定は公布の日から、第2条の規定は令和6年6月1日から施行する。

（重要事項の掲示に係る経過措置）

- 2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和7年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例（以下「新条例」という。）第55条の4第3項（新条例第63条、第75条、第85条、第94条、第124条、第143条（新条例第160条において準用する場合を含む。）、第165条の3、第172条、第182条（新条例第197条において準用する場合を含む。）、第218条及び第235条において準用する場合を含む。）及び第247条第3項（新条例第254条及び第263条において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

（身体的拘束等の適正化に係る経過措置）

- 3 施行日から令和7年3月31日までの間、新条例第137条第3項（新条例第160条、第165条の3及び第172条において準用する場合を含む。）及び第178条第3項（新条例第197条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、これらの規定中「講じなければ」とあるのは、「講じるよう努めなければ」とす

る。

(利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る経過措置)

- 4 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第141条の2(新条例第160条、第165条の3、第172条、第182条(新条例第197条において準用する場合を含む。)及び第218条において準用する場合を含む。)の規定の適用については、新条例第141条の2中「開催しなければ」とあるのは、「開催するよう努めなければ」とする。

(口腔衛生^{くわう}の管理に係る経過措置)

- 5 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第211条の2の規定の適用については、同条中「行わなければ」とあるのは、「行うよう努めなければ」とする。

議案第 46 号

富山県介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件

富山県介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

富山県介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第68号）の一部を次のように改正する。

第 5 条第10項中「平成18年厚生労働省令第34号」の次に「。以下「指定地域密着型サービス基準」という。」を加え、同条に次の 3 項を加える。

11 指定介護老人福祉施設（過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法（令和 3 年法律第19号）第 2 条第 2 項の規定により公示された過疎地域に所在し、かつ、入所定員が30人の指定介護老人福祉施設に限る。以下この条において同じ。）に富山県介護保険法に基づく指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第66号。次項において「指定居宅サービス等基準条例」という。）第 148 条第 1 項に規定する指定短期入所生活介護事業所又は富山県介護保険法に基づく指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第67号）第 130 条第 1 項に規定する指定介護予防短期入所生活介護事業所（以下この項及び次項において「指定短期入所生活介護事業所等」という。）が併設される場合においては、当該指定短期入所生活介護事業所等の医師については、当該指定介護老人福祉施設の医師により当該指定短期入所生活介護事業所等の健康管理が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

12 指定介護老人福祉施設に指定居宅サービス等基準条例第 100 条第 1 項に規定する指定通所介護事業所、指定短期入所生活介護事業所等、指定地域密着型サービ

ス基準第20条第1項に規定する指定地域密着型通所介護事業所、指定地域密着型サービス基準第42条第1項に規定する併設型指定認知症対応型通所介護の事業を行う事業所又は指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準（平成18年厚生労働省令第36号）第5条第1項に規定する併設型指定介護予防認知症対応型通所介護の事業を行う事業所が併設される場合においては、当該併設される事業所の生活相談員、栄養士又は機能訓練指導員については、当該指定介護老人福祉施設の生活相談員、栄養士若しくは管理栄養士又は機能訓練指導員により当該事業所の利用者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

- 13 指定介護老人福祉施設に指定地域密着型サービス基準第63条第1項に規定する指定小規模多機能型居宅介護事業所又は指定地域密着型サービス基準第171条第1項に規定する指定看護小規模多機能型居宅介護事業所が併設される場合においては、当該指定介護老人福祉施設の介護支援専門員については、当該併設される事業所の介護支援専門員により当該指定介護老人福祉施設の入所者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

第7条第2項第2号中「磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物」を「電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第56条第1項において同じ。）に係る記録媒体をいう。）」に改める。

第25条の2中「医師」の次に「及び協力医療機関の協力を得て、当該医師及び当該協力医療機関」を加え、同条に次の1項を加える。

- 2 指定介護老人福祉施設は、前項の医師及び協力医療機関の協力を得て、1年に1回以上、緊急時等における対応方法の見直しを行い、必要に応じて緊急時等における対応方法の変更を行わなければならない。

第26条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第34条の見出しを「（協力医療機関等）」に改め、同条第1項を次のように改める。

指定介護老人福祉施設は、入所者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、

次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関（第3号の要件を満たす協力医療機関にあっては、病院に限る。）を定めておかなければならない。ただし、複数の医療機関を協力医療機関として定めることにより当該各号の要件を満たすこととしても差し支えない。

- (1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。
- (2) 当該指定介護老人福祉施設からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。
- (3) 入所者の病状が急変した場合等において、当該指定介護老人福祉施設の医師又は協力医療機関その他の医療機関の医師が診療を行い、入院を要すると認められた入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保していること。

第34条中第2項を第6項とし、第1項の次に次の4項を加える。

- 2 指定介護老人福祉施設は、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。
- 3 指定介護老人福祉施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。
- 4 指定介護老人福祉施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。
- 5 指定介護老人福祉施設は、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該指定介護老人福祉施設に速やかに入所させることができるように努めなければならない。

第35条第1項中「前条第1項の協力病院」を「協力医療機関」に改め、「重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同

条に次の1項を加える。

- 3 指定介護老人福祉施設は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第41条の2の次に次の1条を加える。

(入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置)

第41条の3 指定介護老人福祉施設は、当該指定介護老人福祉施設における業務の効率化、介護サービスの質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該指定介護老人福祉施設における入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的を開催しなければならない。

第43条第2項第2号から第6号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第53条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

- 5 ユニット型指定介護老人福祉施設の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

第56条第1項中「（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）」を削る。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第7条第2項第2号及び第56条第1項の改正規定は、公布の日から施行する。

(協力医療機関との連携に関する経過措置)

- 2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和9年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（以下「新条例」という。）第34条第1項（新条例第55条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、同項中「定めておかなければ」とあるのは、「定めておくよう努めなければ」とする。

(重要事項の掲示に係る経過措置)

- 3 施行日から令和7年3月31日までの間、新条例第35条第3項（新条例第55条において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

(利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る経過措置)

- 4 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第41条の3（新条例第55条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、新条例第41条の3中「開催しなければ」とあるのは、「開催するよう努めなければ」とする。

議案第 47 号

富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例一部改正の件

富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第69号）の一部を次のように改正する。

第 4 条第 6 項第 3 号を次のように改める。

(3) 病院 栄養士又は管理栄養士（病床数 100 以上の病院の場合に限る。）

第 7 条第 2 項第 2 号中「磁気ディスク、シー・ディー・ロムその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物」を「電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第55条第 1 項において同じ。）に係る記録媒体をいう。）」に改める。

第19条第 1 項中「第34条第 1 項の協力病院」を「協力医療機関」に改める。

第26条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第33条第 2 項第 1 号及び第 2 号中「又は」を「及び」に改める。

第34条の見出しを「（協力医療機関等）」に改め、同条第 1 項を次のように改める。

介護老人保健施設は、入所者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関（第 3 号の要件を満たす協力医療機関にあっては、病院に限る。）を定めておかなければならない。ただし、複数の医療機関を協力医療機関として定めることにより当該各号の要件を満たすこととして

も差し支えない。

- (1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。
- (2) 当該介護老人保健施設からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。
- (3) 入所者の病状が急変した場合等において、当該介護老人保健施設の医師又は協力医療機関その他の医療機関の医師が診療を行い、入院を要すると認められた入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保していること。

第34条中第2項を第6項とし、第1項の次に次の4項を加える。

- 2 介護老人保健施設は、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。
- 3 介護老人保健施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。
- 4 介護老人保健施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。
- 5 介護老人保健施設は、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該介護老人保健施設に速やかに入所させることができるように努めなければならない。

第35条第1項中「前条第1項の協力病院」を「協力医療機関」に改め、「重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同条に次の1項を加える。

- 3 介護老人保健施設は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第40条の2の次に次の1条を加える。

(入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置)

第40条の3 介護老人保健施設は、当該介護老人保健施設における業務の効率化、介護サービスの質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該介護老人保健施設における入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的開催しなければならない。

第42条第2項第2号から第7号までの規定中「に規定する」を「の規定による」に改める。

第52条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

5 ユニット型介護老人保健施設の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

第55条第1項中「（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）」を削る。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第7条第2項第2号及び第55条第1項の改正規定は、公布の日から施行する。

(協力医療機関との連携に関する経過措置)

2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和9年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県介護保険法に基づく介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（以下「新条例」という。）第34条第1項（新条例第54条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、新条例第34条第1項中「定めておかなければ」とあるのは、「定めておくよう努めなければ」とする。

(重要事項の掲示に係る経過措置)

3 施行日から令和7年3月31日までの間、新条例第35条第3項（新条例第54条において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

(利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る経過措置)

4 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第40条の3（新条例第54条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、新条例第40条の3中「開催しなければ」とあるのは、「開催するよう努めなければ」とする。

議案第 48 号

富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例一部改正の件

富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（平成30年富山県条例第1号）の一部を次のように改正する。

第7条第2項第2号中「磁気ディスク、シー・ディー・ROMその他これらに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物」を「電磁的記録媒体（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。第56条第1項において同じ。）に係る記録媒体をいう。）」に改める。

第19条第1項中「第34条第1項の協力病院」を「協力医療機関」に改める。

第26条ただし書中「同一敷地内にある」を削る。

第33条第2項第1号及び第2号中「又は」を「及び」に改める。

第34条の見出しを「（協力医療機関等）」に改め、同条第1項を次のように改める。

介護医療院は、入所者の病状の急変等に備えるため、あらかじめ、次の各号に掲げる要件を満たす協力医療機関（第3号の要件を満たす協力医療機関にあっては、病院に限る。）を定めておかなければならない。ただし、複数の医療機関を協力医療機関として定めることにより当該各号の要件を満たすこととしても差し支えない。

(1) 入所者の病状が急変した場合等において医師又は看護職員が相談対応を行う体制を、常時確保していること。

(2) 当該介護医療院からの診療の求めがあった場合において診療を行う体制を、常時確保していること。

(3) 入所者の病状が急変した場合等において、当該介護医療院の医師又は協力医療機関その他の医療機関の医師が診療を行い、入院を要すると認められた入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保していること。

第34条中第2項を第6項とし、第1項の次に次の4項を加える。

2 介護医療院は、1年に1回以上、協力医療機関との間で、入所者の病状が急変した場合等の対応を確認するとともに、協力医療機関の名称等を、知事に届け出なければならない。

3 介護医療院は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。

4 介護医療院は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

5 介護医療院は、入所者が協力医療機関その他の医療機関に入院した後に、当該入所者の病状が軽快し、退院が可能となった場合においては、再び当該介護医療院に速やかに入所させることができるように努めなければならない。

第35条第1項中「前条第1項の協力病院」を「協力医療機関」に改め、「重要事項」の次に「（以下この条において単に「重要事項」という。）」を加え、同条第2項中「前項に規定する事項」を「重要事項」に、「同項」を「前項」に改め、同条に次の1項を加える。

3 介護医療院は、原則として、重要事項をウェブサイトに掲載しなければならない。

第40条の2の次に次の1条を加える。

（入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置）

第40条の3 介護医療院は、当該介護医療院における業務の効率化、介護サービス

の質の向上その他の生産性の向上に資する取組の促進を図るため、当該介護医療院における入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的で開催しなければならない。

第53条中第5項を第6項とし、第4項の次に次の1項を加える。

- 5 ユニット型介護医療院の管理者は、ユニット型施設の管理等に係る研修を受講するよう努めなければならない。

第56条第1項中「（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）」を削る。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第7条第2項第2号及び第56条第1項の改正規定は、公布の日から施行する。

（協力医療機関との連携に関する経過措置）

- 2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）から令和9年3月31日までの間、この条例による改正後の富山県介護保険法に基づく介護医療院の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準を定める条例（以下「新条例」という。）第34条第1項（新条例第55条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、同項中「定めておかなければ」とあるのは、「定めておくよう努めなければ」とする。

（重要事項の掲示に係る経過措置）

- 3 施行日から令和7年3月31日までの間、新条例第35条第3項（新条例第55条において準用する場合を含む。）の規定は、適用しない。

（利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置に係る経過措置）

- 4 施行日から令和9年3月31日までの間、新条例第40条の3（新条例第55条において準用する場合を含む。）の規定の適用については、新条例第40条の3中「開催しなければならない」とあるのは、「開催するよう努めなければ」とする。

議案第 49 号

富山県国民健康保険条例一部改正の件

富山県国民健康保険条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県国民健康保険条例の一部を改正する条例

富山県国民健康保険条例（平成29年富山県条例第46号）の一部を次のように改正する。

附則第 4 項を削る。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 50 号

富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準
を定める条例一部改正の件

富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準
を定める条例の一部を改正する条例

富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第71号）の一部を次のように改正する。

目次中「福祉型児童発達支援センター」を「児童発達支援センター」に、「第11章 医療型児童発達支援センター（第87条―第90条）」を「第11章 削除」に、「第14章 児童家庭支援センター（第110条―第112条）」を「第14章 児童家庭支援センター（第110条―第112条）」に、「第113条）」を第14章の2 里親支援センター（第113条―第118条）」に改める。

第3条中「指導」の次に「又は支援」を加える。

第7条の3第1項及び第16条第1項中「及び児童家庭支援センター」を「、児童家庭支援センター及び里親支援センター」に改める。

第17条各号列記以外の部分並びに第30条第1項各号列記以外の部分及び同項第4号並びに同条第2項中「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改める。

第33条中「について」の次に「、年齢、発達の状況その他の当該乳幼児の事情に応じ意見聴取その他の措置をとることにより、乳幼児の意見又は意向」を加える。

第35条中「児童家庭支援センター」の次に「、里親支援センター」を加える。

第38条第1項各号列記以外の部分及び同項第4号並びに同条第2項中「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改める。

第41条中「について」の次に「、年齢、発達の状況その他の当該母子の事情に応じ意見聴取その他の措置をとることにより、母子それぞれの意見又は意向」を加え

る。

第44条中「婦人相談所」を「里親支援センター、女性相談支援センター」に改める。

第49条中「厚生労働大臣」を「内閣総理大臣」に改める。

第59条第1項各号列記以外の部分及び同項第4号並びに同条第2項中「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改める。

第63条中「について」の次に「、年齢、発達の状況その他の当該児童の事情に応じ意見聴取その他の措置をとることにより、児童の意見又は意向」を加える。

第66条中「児童家庭支援センター」の次に「、里親支援センター」を加える。

第67条第3号ア及び第4号中「訓練室」を「支援室」に改め、同条第5号中「肢体不自由」の次に「（法第6条の2の2第2項に規定する肢体不自由をいう。以下同じ。）」を加え、同号ア中「訓練室及び屋外訓練場」を「支援室及び屋外遊戯場」に改める。

第68条第1項中「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改め、同条第14項中「心理指導を」を「心理支援を」に、「心理指導担当職員」を「心理担当職員」に改め、同条第15項中「心理指導担当職員」を「心理担当職員」に改める。

第76条第1号中「訓練室」を「支援室」に改め、同条第3号中「屋外訓練場」を「屋外遊戯場」に、「指導する」を「支援する」に改める。

第77条第6項中「心理指導」を「心理支援」に改める。

「第10章 福祉型児童発達支援センター」を「第10章 児童発達支援センター」に改める。

第81条を次のように改める。

（設備の基準）

第81条 児童発達支援センターの設備の基準は、発達支援室、遊戯室、屋外遊戯場（児童発達支援センターの付近にある屋外遊戯場に代わるべき場所を含む。）、医務室、相談室、調理室、便所、静養室並びに児童発達支援の提供に必要な設備及び備品等を設けることとする。

2 児童発達支援センターにおいて、肢体不自由のある児童に対して治療を行う場合には、前項に規定する設備（医務室を除く。）の基準に加えて、医療法に規定する診療所として必要な設備を設けることとする。

3 第1項の発達支援室及び遊戯室は、次に掲げる基準に適合するものでなければ

ならない。

(1) 発達支援室の1室の定員は、これをおおむね10人とし、その面積は、児童1人につき2.47平方メートル以上とすること。

(2) 遊戯室の面積は、児童1人につき1.65平方メートル以上とすること。

第82条第1項各号列記以外の部分中「福祉型児童発達支援センター（主として難聴児を通わせる福祉型児童発達支援センター及び主として重症心身障害児を通わせる福祉型児童発達支援センターを除く。次項において同じ。）」を「児童発達支援センター」に、「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改め、同項第3号、第4号及び第5号中「福祉型児童発達支援センター」を「児童発達支援センター」に改め、同条第4項から第9項までを削り、同条第10項中「福祉型児童発達支援センター」を「児童発達支援センター」に、「通所している」を「入所している」に改め、同項を同条第5項とし、同条第3項中「主として知的障害のある児童を通わせる福祉型児童発達支援センター」を「児童発達支援センター」に改め、同項を同条第4項とし、同条第2項中「福祉型児童発達支援センター」を「児童発達支援センター」に改め、同項を同条第3項とし、同条第1項の次に次の1項を加える。

2 児童発達支援センターにおいて、肢体不自由のある児童に対して治療を行う場合には、前項に規定する職員（嘱託医を除く。）に加えて、医療法に規定する診療所として必要な職員を置かなければならない。

第83条及び第84条中「福祉型児童発達支援センター」を「児童発達支援センター」に改める。

第85条及び第86条を次のように改める。

第85条 削除

（心理学的及び精神医学的診査）

第86条 児童発達支援センターにおいて障害児に対して行う心理学的及び精神医学的診査は、児童の福祉に有害な実験にわたってはならない。

第11章を次のように改める。

第11章 削除

第87条から第90条まで 削除

第93条第1項各号列記以外の部分及び同項第4号並びに同条第2項中「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改める。

第95条中「について」の次に「、年齢、発達の状況その他の当該児童の事情に応

じ意見聴取その他の措置をとることにより、児童の意見又は意向」を加える。

第98条中「児童家庭支援センター」の次に「、里親支援センター」を加える。

第101条第1項各号列記以外の部分中「厚生労働省組織規則（平成13年厚生労働省令第1号）第622条」を「こども家庭庁組織規則（令和5年内閣府令第38号）第16条」に改め、同条第2項中「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改める。

第105条中「について」の次に「、年齢、発達の状況その他の当該児童の事情に応じ意見聴取その他の措置をとることにより、児童の意見又は意向」を加える。

第108条中「児童家庭支援センター」の次に「、里親支援センター」を加える。

第112条第2項中「婦人相談員」を「女性相談支援員」に改める。

第15章中第113条を第119条とする。

第14章の次に次の1章を加える。

第14章の2 里親支援センター

（設備の基準）

第113条 里親支援センターには事務室、相談室等の里親及び里親に養育される児童並びに里親になろうとする者（次条第3項第3号において「里親等」という。）が訪問できる設備その他事業を実施するために必要な設備を設けなければならない。

（職員）

第114条 里親支援センターには、里親制度等普及促進担当者、里親等支援員及び里親研修等担当者を置かなければならない。

2 里親制度等普及促進担当者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 法第13条第3項各号のいずれかに該当する者

(2) 里親として5年以上の委託児童（法第27条第1項第3号の規定により里親に委託された児童をいう。以下この条及び次条第2号において同じ。）の養育の経験を有する者又は小規模住居型児童養育事業の養育者等（児童福祉法施行規則第1条の10に規定する養育者等をいう。以下この条及び次条第2号において同じ。）若しくは児童養護施設、乳児院、児童心理治療施設若しくは児童自立支援施設の職員として、児童の養育に5年以上従事した者であって、里親制度その他の児童の養育に必要な制度への理解及びソーシャルワークの視点を有する者

(3) 里親制度その他の児童の養育に必要な制度の普及促進及び新たに里親になることを希望する者の開拓に関して、知事が前2号に該当する者と同等以上の能力を有すると認める者

3 里親等支援員は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 法第13条第3項各号のいずれかに該当する者

(2) 里親として5年以上の委託児童の養育の経験を有する者又は小規模住居型児童養育事業の養育者等若しくは児童養護施設、乳児院、児童心理治療施設若しくは児童自立支援施設の職員として、児童の養育に5年以上従事した者であって、里親制度その他の児童の養育に必要な制度への理解及びソーシャルワークの視点を有する者

(3) 里親等への支援の実施に関して、知事が前2号に該当する者と同等以上の能力を有すると認める者

4 里親研修等担当者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 法第13条第3項各号のいずれかに該当する者

(2) 里親として5年以上の委託児童の養育の経験を有する者又は小規模住居型児童養育事業の養育者等若しくは児童養護施設、乳児院、児童心理治療施設若しくは児童自立支援施設の職員として、児童の養育に5年以上従事した者であって、里親制度その他の児童の養育に必要な制度への理解及びソーシャルワークの視点を有する者

(3) 里親及び里親になろうとする者への研修の実施に関して、知事が前2号に該当する者と同等以上の能力を有すると認める者

(里親支援センターの長の資格等)

第115条 里親支援センターの長は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、法第11条第4項に規定する里親支援事業の業務の十分な経験を有する者であって、里親支援センターを適切に運営する能力を有するものでなければならない。

(1) 法第13条第3項各号のいずれかに該当する者

(2) 里親として5年以上の委託児童の養育の経験を有する者又は小規模住居型児童養育事業の養育者等若しくは児童養護施設、乳児院、児童心理治療施設若しくは児童自立支援施設の職員として、児童の養育に5年以上従事した者であって、里親制度その他の児童の養育に必要な制度への理解及びソーシャルワークの視点を有する者

(3) 知事が前2号に該当する者と同等以上の能力を有すると認める者
(里親支援)

第116条 里親支援センターにおける支援は、里親制度その他の児童の養育に必要な制度の普及促進、新たに里親になることを希望する者の開拓、里親、小規模住居型児童養育事業に従事する者及び里親になろうとする者への研修の実施、法第27条第1項第3号の規定による児童の委託の推進、里親、小規模住居型児童養育事業に従事する者、里親又は小規模住居型児童養育事業に従事する者に養育される児童及び里親になろうとする者への支援その他の必要な支援を包括的に行うことにより、里親に養育される児童が心身ともに健やかに育成されるよう、その最善の利益を実現することを目的として行わなければならない。

(業務の質の評価等)

第117条 里親支援センターは、自らその行う法第44条の3第1項に規定する業務の質の評価を行うとともに、定期的に外部の者による評価を受けて、それらの結果を公表し、常にその改善を図らなければならない。

(関係機関との連携)

第118条 里親支援センターの長は、県、市町村、児童相談所及び里親に養育される児童の通学する学校並びに必要な応じ児童福祉施設、児童委員等関係機関と密接に連携して、里親等への支援に当たらなければならない。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第17条、第30条第1項及び第2項、第38条第1項及び第2項、第49条、第59条第1項及び第2項並びに第68条第1項の改正規定、第82条第1項の改正規定（「厚生労働大臣」を「こども家庭庁長官」に改める部分に限る。）、同条第10項の改正規定（「通所している」を「入所している」に改める部分に限る。）並びに第93条第1項及び第2項並びに第101条第1項及び第2項の改正規定は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 児童福祉法等の一部を改正する法律（令和4年法律第66号。以下「一部改正法」という。）附則第11条の規定により一部改正法第2条の規定による改正後の児童福祉法（以下「新児童福祉法」という。）第43条に規定する児童発達支援センターを設置しているものとみなされているものについては、この条例による改正後の

富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例（以下「新条例」という。）第81条の規定にかかわらず、当分の間、なお従前の例によることができる。

- 3 一部改正法附則第11条の規定により新児童福祉法第43条に規定する児童発達支援センターを設置しているものとみなされているものについては、新条例第82条の規定にかかわらず、令和9年3月31日までの間、なお従前の例によることができる。
- 4 この条例の施行の際現に設置しているこの条例による改正前の富山県児童福祉法に基づく児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例（次項において「旧条例」という。）第81条第1号に規定する主として重症心身障害児を通わせる福祉型児童発達支援センター及び同条第2号に規定する主として難聴児を通わせる福祉型児童発達支援センターについては、新条例第81条の規定にかかわらず、当分の間、なお従前の例によることができる。
- 5 この条例の施行の際現に設置している旧条例第82条第1号に規定する主として難聴児を通わせる福祉型児童発達支援センター及び同条第2号に規定する主として重症心身障害児を通わせる福祉型児童発達支援センターについては、新条例第82条の規定にかかわらず、令和9年3月31日までの間、なお従前の例によることができる。

議案第 51 号

富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件

富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第72号）の一部を次のように改正する。

「第 3 章 医療型児童発達支援

第 1 節 基本方針（第62条）

目次中 第 2 節 人員に関する基準（第63条・第64条） を「第 3 章 削除」

第 3 節 設備に関する基準（第65条）

第 4 節 運営に関する基準（第66条—第71条）」

に改める。

第 2 条第 2 項第 1 号中「第 6 条の 2 の 2 第 9 項」を「第 6 条の 2 の 2 第 8 項」に改め、同項第 2 号及び第10号中「指定障害児通所支援事業者等」を「指定障害児通所支援事業者」に改め、同項第13号中「、第62条に規定する指定医療型児童発達支援の事業」を削る。

第 3 条（見出しを含む。）中「指定障害児通所支援事業者等」を「指定障害児通所支援事業者」に改める。

第 4 条第 2 項各号列記以外の部分中「第 6 条の 2 の 2 第 3 項」を「第 6 条の 2 の 2 第 2 項」に、「医療型児童発達支援」を「児童発達支援」に改める。

第 5 条中「指導及び訓練」を「支援をし、又はこれに併せて治療（上肢、下肢又は体幹の機能の障害のある児童に対して行われるものに限る。以下同じ。）」に改める。

第 7 条第 4 項を削り、同条第 3 項中「前項」を「第 2 項」に改め、同項を同条第

4 項とし、同条第 2 項の次に次の 1 項を加える。

3 前 2 項に掲げる従業者のほか、指定児童発達支援事業所において、治療を行う場合には、医療法（昭和23年法律第 205 号）に規定する診療所として必要とされる数の従業者を置かなければならない。

第 7 条第 5 項を削り、同条第 6 項中「第 3 項」を「前項」に改め、同項を同条第 5 項とし、同条第 7 項中「、第 4 項第 1 号」を削り、同項を同条第 6 項とし、同条第 8 項中「第 1 項から第 5 項まで（第 1 項第 1 号を除く。）」を「第 1 項（第 1 号を除く。）、第 2 項及び第 4 項」に改め、同項を同条第 7 項とし、同項の次に次の 1 項を加える。

8 第 3 項に規定する従業者は、専ら当該指定児童発達支援事業所の職務に従事する者でなければならない。ただし、障害児の支援に支障がない場合は、障害児の保護に直接従事する従業者を除き、併せて設置する他の社会福祉施設の職務に従事させることができる。

第 7 条第 9 項中「前項」を「前 2 項」に改める。

第 8 条ただし書中「同一敷地内にある他」を「当該指定児童発達支援事業所以外」に改める。

第10条中「指導訓練室」を「発達支援室」に、同条第 2 項中「訓練に」を「支援に」に改める。

第11条第 1 項中「指導訓練室」を「発達支援室」に改め、「。以下この項において同じ」を削り、「便所」の次に「、静養室」を加え、同項ただし書を削り、同条第 3 項を削り、同条第 2 項各号列記以外の部分中「前項」を「第 1 項」に改め、同項ただし書を削り、同項第 1 号中「指導訓練室」を「発達支援室」に改め、同項を同条第 3 項とし、同条第 1 項の次に次の 1 項を加える。

2 指定児童発達支援事業所において、治療を行う場合には、前項に規定する設備（医務室を除く。）に加えて、医療法に規定する診療所として必要な設備を設けなければならない。

第11条第 4 項中「前項」を「第 2 項」に改め、同項ただし書中「場合は」の次に「、第 2 項に掲げる設備を除き」を加える。

第12条ただし書中「指定児童発達支援事業所」の次に「（児童発達支援センターであるものを除く。）」を加える。

第24条第 2 項中「当該指定児童発達支援に係る指定通所支援費用基準額」を「次

の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める額」に改め、同項に次の各号を加える。

(1) 次号に掲げる場合以外の場合 当該指定児童発達支援に係る指定通所支援費用基準額

(2) 治療を行う場合 前号に掲げる額のほか、当該指定児童発達支援のうち肢体不自由児通所医療（食事療養（健康保険法（大正11年法律第70号）第63条第2項第1号に規定する食事療養をいう。）を除く。以下同じ。）に係るものにつき健康保険の療養に要する費用の額の算定方法の例により算定した費用の額
第25条中「指定障害児通所支援事業者等」を「指定障害児通所支援事業者」に改める。

第26条第1項中「の支給」を「又は肢体不自由児通所医療費の支給」に、「の額」を「及び肢体不自由児通所医療費の額」に改める。

第27条の見出しを削り、同条の前に見出しとして「（指定児童発達支援の取扱方針）」を付し、同条第1項中「次条第1項」を「第28条第1項」に改め、同条第5項中「前項の評価及び改善の内容を」を「自己評価及び保護者評価並びに前項に規定する改善の内容を、保護者に示すとともに、」に改め、同項を同条第7項とし、同条第4項各号列記以外の部分中「自ら評価」を「指定児童発達支援事業所の従業員による評価を受けた上で、自ら評価（以下この条において「自己評価」という。）」に、「保護者による評価」を「通所給付決定保護者（以下この条において「保護者」という。）による評価（以下この条において「保護者評価」という。）」に改め、同項を同条第6項とし、同条第3項を同条第5項とし、同条第2項を同条第3項とし、同項の次に次の1項を加える。

4 指定児童発達支援事業者は、障害児の適性、障害の特性その他の事情を踏まえた指定児童発達支援（治療に係る部分を除く。以下この条及び次条において同じ。）の確保並びに次項に規定する指定児童発達支援の質の評価及びその改善の適切な実施の観点から、指定児童発達支援の提供に当たっては、心身の健康等に関する領域を含む総合的な支援を行わなければならない。

第27条第1項の次に次の1項を加える。

2 指定児童発達支援事業者は、障害児が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害児及び通所給付決定保護者の意思をできる限り尊重するための配慮をしなければならない。

第27条の次に次の2条を加える。

第27条の2 指定児童発達支援事業者は、指定児童発達支援事業所ごとに指定児童発達支援プログラム（前条第4項に規定する領域との関連性を明確にした指定児童発達支援の実施に関する計画をいう。）を策定し、インターネットの利用その他の方法により公表しなければならない。

（障害児の地域社会への参加及び包摂の推進）

第27条の3 指定児童発達支援事業者は、障害児が指定児童発達支援を利用することにより、地域の保育、教育等の支援を受けることができるようにすることで、障害の有無にかかわらず、全ての児童が共に成長できるよう、障害児の地域社会への参加及び包摂（以下「インクルージョン」という。）の推進に努めなければならない。

第28条第2項中「行い、」を「行うとともに、障害児の年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう」に改め、同条第4項中「課題、」の次に「第27条第4項に規定する領域との関連性及びインクルージョンの観点を踏まえた」を加え、同条第5項中「当たっては」の次に「、障害児の意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮される体制を確保した上で」を加え、同条第7項中「通所給付決定保護者」の次に「及び当該通所給付決定保護者に対して指定障害児相談支援（法第24条の26第2項に規定する指定障害児相談支援をいう。）を提供する者」を加える。

第29条に次の1項を加える。

2 児童発達支援管理責任者は、業務を行うに当たっては、障害児が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害児及び通所給付決定保護者の意思をできる限り尊重するよう努めなければならない。

第31条（見出しを含む。）中「指導、訓練等」を「支援」に改める。

第36条中「特例障害児通所給付費」の次に「又は肢体不自由児通所医療費」を加える。

第40条中「指導訓練室」を「発達支援室」に改める。

第41条の2第3項中「保護者」を「通所給付決定保護者」に改める。

第43条中「指定児童発達支援事業者は」を「指定児童発達支援事業者（治療を行うものを除く。）は」に改める。

第50条第1項中「第5条第18項」を「第5条第19項」に改める。

第57条第1項及び第2項中「指導訓練」を「発達支援」に改め、同条第2項中「訓練に」を「支援に」に改める。

第3章を次のように改める。

第3章 削除

第62条から第71条まで 削除

第72条中「必要な訓練」を「必要な支援」に、「指導及び訓練」を「支援」に改める。

第75条中「指導訓練室」を「発達支援室」に改め、同条第2項中「訓練に」を「支援に」に改める。

第80条中「指導訓練」を「発達支援」に改め、同条第2項中「訓練に」を「支援に」に改める。

第81条の3第2項中「心理指導担当職員」を「心理担当職員」に、「の指導、知識技能の付与」を「及び知識技能の習得」に、「必要な訓練」を「必要な支援」に改め、「以下」の次に「この項において単に」を加え、「訓練等」を「支援」に改め、「) を行い、及び」を「) を行い、並びに」に、「職業訓練又は」を「職業訓練若しくは」に改める。

第81条の9中「第4項及び第5項」を「第6項及び第7項」に改め、「。）」の次に「、第27条の2」を加え、「第48条、第50条、第51条、第52条第1項」を「第48条から第51条まで、第52条及び」に改め、「及び第70条の2」を削り、「居宅訪問型児童発達支援計画」との次に「、第28条第4項中「第27条第4項に規定する領域との関連性及びインクルージョンの観点を踏まえた」とあるのは「第27条第4項に規定する領域との関連性を踏まえた」と、第49条第1項中「行わなければならない」とあるのは「行うよう努めなければならない」とを加える。

第89条中「及び第5項」を削り、「。）」の次に「、第27条の3」を加え、「第48条、第50条、第51条」を「第48条から第51条まで」に改め、「、第70条の2」及び「及び第28条」を削り、「保育所等訪問支援計画」と、の次に「第27条第6項中「を受けて」とあるのは「及び当該事業所の訪問支援員が当該障害児に対して保育所等訪問支援を行うに当たって訪問する施設による評価（以下この条において「施設評価」という。）を受けて」と、同項第5号中「障害児及びその保護者」とあるのは「障害児及びその保護者並びに当該訪問先の施設」と、同条第7項中「自己評価及び保護者評価」とあるのは「自己評価、保護者評価及び訪問先施設評価」と

、「保護者に示す」とあるのは「保護者及び訪問先施設に示す」と、第28条中「児童発達支援計画」とあるのは「保育所等訪問支援計画」と、同条第4項中「第27条第4項に規定する領域との関連性及びインクルージョンの観点を踏まえた」とあるのは「インクルージョンの観点を踏まえた」と、同条第5項中「担当者等」とあるのは「担当者及び当該障害児に係る訪問先施設の担当者等」と、」を加え、「従業者の勤務の体制」と、」の次に「第49条第1項中「行わなければならない」とあるのは「行うよう努めなければならない」と、」を加える。

第90条第1項中「第3項及び第6項」を「第4項及び第5項」に改め、「、第63条」を削り、「及び第4項」を「及び第3項」に、「同項第1号中「指定児童発達支援」を「同条第6項中「指定児童発達支援」に、「同条第5項中「指定児童発達支援事業所」とあるのは「多機能型事業所」と、同条第7項中「指定児童発達支援」とあるのは「指定通所支援」」を「同条第7項中「指定児童発達支援事業所」とあるのは「多機能型事業所」と、「指定児童発達支援の」とあるのは「指定通所支援の」」に、「指定児童発達支援事業所」とあるのは「多機能型事業所」と、「指定児童発達支援の」とあるのは「指定通所支援の」と、第63条第1項中「事業所（以下「指定医療型児童発達支援事業所」という。）」とあり、並びに同条第2項及び第3項中「指定医療型児童発達支援事業所」とあるのは「多機能型事業所」」を「「当該指定児童発達支援事業所」とあるのは「当該多機能型事業所」」に改める。

第92条第1項及び第2項中「、第66条」を削り、同項中「、指定医療型児童発達支援又は」を「又は」に改め、「、指定医療型児童発達支援の事業」を削り、同条第3項及び第4項中「、第66条」を削る。

第93条第1項中「指定障害児通所支援事業者等」を「指定障害児通所支援事業者」に改め、「、第71条」を削り、同条第2項中「指定障害児通所支援事業者等」を「指定障害児通所支援事業者」に改める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第50条第1項の改正規定は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等の一部を改正する法律（令和4年法律第104号）附則第1条第4号に掲げる規定の施行の日から施行する。

(経過措置)

- 2 児童福祉法等の一部を改正する法律（令和4年法律第66号。以下「一部改正法」という。）附則第4条第1項の規定により一部改正法第2条の規定による改正後の児童福祉法（次項において「新児童福祉法」という。）第21条の5の3第1項の指定を受けたものとみなされているものについては、この条例による改正後の富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（以下「新条例」という。）第7条の規定にかかわらず、令和9年3月31日までの間、なお従前の例によることができる。
- 3 一部改正法附則第4条第1項の規定により新児童福祉法第21条の5の3第1項の指定を受けたものとみなされているものについては、新条例第11条の規定にかかわらず、当分の間、なお従前の例によることができる。
- 4 この条例の施行の際現に指定を受けているこの条例による改正前の富山県児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（次項において「旧条例」という。）第7条第4項に規定する主として難聴児を通わせる指定児童発達支援事業所及び同条第5項に規定する主として重症心身障害児を通わせる指定児童発達支援事業所については、新条例第7条及び第12条の規定にかかわらず、令和9年3月31日までの間、なお従前の例によることができる。
- 5 この条例の施行の際現に指定を受けている旧条例第7条第4項に規定する主として難聴児を通わせる指定児童発達支援事業所及び同条第5項に規定する主として重症心身障害児を通わせる指定児童発達支援事業所については、新条例第11条の規定にかかわらず、当分の間、なお従前の例によることができる。
- 6 新条例第27条の2（新条例第55条の6、第59条、第78条、第78条の2、第81条及び第81条の9において準用する場合を含む。）の規定の適用については、令和7年3月31日までの間、第27条の2中「公表しなければ」とあるのは「公表するように努めなければ」とする。

議案第 52 号

富山県児童福祉法に基づく指定障害児入所施設等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例一部改正の件

富山県児童福祉法に基づく指定障害児入所施設等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を次のように改正する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県児童福祉法に基づく指定障害児入所施設等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

富山県児童福祉法に基づく指定障害児入所施設等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例（平成24年富山県条例第73号）の一部を次のように改正する。

第2条第2項第5号、第6号及び第11号中「第24条の24第2項」を「第24条の24第3項」に改める。

第3条第1項中「。）」の次に「及び障害児（15歳以上の障害児に限る。）が障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「障害者総合支援法」という。）第5条第1項に規定する障害福祉サービス（以下「障害福祉サービス」という。）その他のサービスを利用しつつ自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、自立した日常生活又は社会生活への移行について支援する上で必要な事項を定めた計画（以下「移行支援計画」という。）」を加え、同条第3項中「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「障害者総合支援法」という。）第5条第1項に規定する障害福祉サービス（以下「障害福祉サービス」という。）」を「障害福祉サービス」に改める。

第5条第1項第2号イ中「第6条の2の2第3項」を「第6条の2の2第2項」に改め、同条第2項中「心理指導を」を「心理支援を」に、「心理指導担当職員」を「心理担当職員」に改め、同条第3項中「心理指導担当職員」を「心理担当職員」に改める。

第6条第2項第2号及び第3号中「訓練室」を「支援室」に改め、同項第4号中「訓練室、屋外訓練場」を「支援室、屋外遊戯場」に改める。

第21条第1項中「入所支援計画」の次に「及び移行支援計画」を加え、同条中第3項を第5項とし、第2項を第4項とし、第1項の次に次の2項を加える。

2 指定福祉型障害児入所施設は、障害児ができる限り良好な家庭的環境において指定入所支援を受けることができるよう努めなければならない。

3 指定福祉型障害児入所施設は、障害児が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害児及び入所給付決定保護者の意思をできる限り尊重するための配慮をしなければならない。

第22条第2項中「この条において」を削り、「行い、」を「行うとともに、障害児の年齢及び発達 の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう」に改め、同条第5項中「当たっては」の次に「、障害児の意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮される体制を確保した上で」を加える。

第22条の次に次の1条を加える。

(移行支援計画の作成等)

第22条の2 指定福祉型障害児入所施設の管理者は、児童発達支援管理責任者に移行支援計画の作成に関する業務を担当させるものとする。

2 児童発達支援管理責任者は、移行支援計画の作成に当たっては、適切な方法により、障害児について、アセスメントを行い、障害児が障害福祉サービスその他のサービスを利用しつつ自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、自立した日常生活又は社会生活への移行について支援する上で必要な支援内容の検討をしなければならない。

3 児童発達支援管理責任者は、アセスメント及び支援内容の検討結果に基づき、障害児が障害福祉サービスその他のサービスを利用しつつ自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、自立した日常生活又は社会生活への移行について支援する上で必要な取組、当該支援を提供する上での留意事項その他必要な事項を記載した移行支援計画の原案を作成しなければならない。

4 児童発達支援管理責任者は、移行支援計画の作成後、移行支援計画の実施状況の把握（障害児についての継続的なアセスメントを含む。）を行うとともに、障害児について解決すべき課題を把握し、少なくとも6月に1回以上、移行支援計画の見直しを行い、必要に応じて移行支援計画の変更を行うものとする。

5 前条第3項及び第5項から第7項までの規定は、第2項に規定する移行支援計

画の作成について準用する。

6 前条第3項、第5項から第7項まで及び第9項並びに第2項及び第3項の規定は、第4項に規定する移行支援計画の変更について準用する。

第23条各号列記以外の部分中「前条」を「前2条」に改め、同条に次の1項を加える。

2 児童発達支援管理責任者は、業務を行うに当たっては、障害児が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害児及び入所給付決定保護者の意思をできる限り尊重するよう努めなければならない。

第26条（見出しを含む。）中「指導、訓練等」を「支援」に改める。

第40条に次の2項を加える。

3 指定福祉型障害児入所施設は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第6条第17項に規定する第二種協定指定医療機関（次項において単に「第二種協定指定医療機関」という。）との間で、新興感染症（同条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症、同条第8項に規定する指定感染症又は同条第9項に規定する新感染症をいう。次項において同じ。）の発生時等の対応を取り決めるように努めなければならない。

4 指定福祉型障害児入所施設は、協力医療機関が第二種協定指定医療機関である場合においては、当該第二種協定指定医療機関との間で、新興感染症の発生時等の対応について協議を行わなければならない。

第47条第1項中「第5条第18項」を「第5条第19項」に改める。

第52条第2項第1号中「入所支援計画」の次に「及び移行支援計画」を加える。

第53条第1項第3号中「心理指導」を「心理支援」に改める。

第54条第1項第2号中「訓練室」を「支援室」に改め、同条第2項第2号中「屋外訓練場」を「屋外遊戯場」に、「指導する」を「支援する」に改める。

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。ただし、第47条第1項の改正規定は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等の一部を改正する法律（令和4年法律第104号）附則第1条第4号に掲げる規定の施行の日から施行する。

議案第 53 号

富山県女性相談センター条例一部改正の件

富山県女性相談センター条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県女性相談センター条例の一部を改正する条例

富山県女性相談センター条例（昭和39年富山県条例第30号）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

富山県女性相談支援センター条例

第 1 条中「売春防止法（昭和31年法律第 118 号）第34条第 1 項」を「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和 4 年法律第52号）第 9 条第 1 項」に、「婦人相談所」を「女性相談支援センター」に、「富山県女性相談センター」を「富山県女性相談支援センター」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 54 号

富山県医療法に基づく病院及び診療所の病床数の補正、人員、施設等
に関する条例一部改正の件

富山県医療法に基づく病院及び診療所の病床数の補正、人員、施設等に関する条
例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県医療法に基づく病院及び診療所の病床数の補正、人員、施設等
に関する条例の一部を改正する条例

富山県医療法に基づく病院及び診療所の病床数の補正、人員、施設等に関する条
例（平成24年富山県条例第80号）の一部を次のように改正する。

第 6 条 第 1 項 第 4 号 中 「 栄 養 士 」 の 次 に 「 又 は 管 理 栄 養 士 」 を 加 え る 。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 55 号

富山県医学生等修学資金貸与条例一部改正の件

富山県医学生等修学資金貸与条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県医学生等修学資金貸与条例の一部を改正する条例

富山県医学生等修学資金貸与条例（昭和42年富山県条例第10号）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項中「前条第 4 号」を「前条第 3 号に掲げる者にあつては50,000円以内、同条第 4 号」に改め、「70,000円」を「100,000円」に改め、同条第 2 項中「340,000円」を「前条第 1 号に掲げる者にあつては 340,000 円以内、同条第 3 号に掲げる者にあつては 350,000 円」に改める。

附 則

（施行期日）

- 1 この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 令和 6 年 3 月 31 日において現に医学生等修学資金の貸与を受けている者に係る医学生等修学資金の貸与額については、この条例による改正後の富山県医学生等修学資金貸与条例第 3 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

議案第 56 号

富山県病院事業の設置等に関する条例一部改正の件

富山県病院事業の設置等に関する条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例

富山県病院事業の設置等に関する条例（昭和41年富山県条例第59号）の一部を次のように改正する。

第 8 条中「第 243 条の 2 の 2 第 8 項」を「第 243 条の 2 の 8 第 8 項」に改める。

別表第 1 診断書交付手数料の項中「1,550 円」を「1,800 円」に、「3,060 円」を「3,600 円」に、「1,820 円」を「2,100 円」に改め、同表証明書交付手数料の項中「1,550 円」を「1,800 円」に、「2,300 円」を「2,600 円」に改め、同表の備考中「別表第 1 第 8 号」を「別表第 2 第 8 号」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 5 月 1 日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (1) 第 8 条の改正規定 令和 6 年 4 月 1 日
- (2) 別表第 1 の備考の改正規定 公布の日

議案第 57 号

富山県漁港管理条例一部改正の件

富山県漁港管理条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県漁港管理条例の一部を改正する条例

富山県漁港管理条例（昭和42年富山県条例第20号）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「漁港漁場整備法」を「漁港及び漁場の整備等に関する法律」に改める。

第12条の 2 第 1 項中「法第39条第 1 項」を「、法第39条第 1 項」に、「採取又は」を「採取若しくは」に改め、「受けた者」の次に「又は法第43条第 4 項に規定する認定計画実施者（法第44条第 1 項に規定する認定計画において法第42条第 2 項第 2 号及び第 3 号に掲げる事項（水面又は土地の占用に係るものに限る。）又は法第50条第 1 項各号に掲げる事項を定めた者に限る。）」を加え、同条第 2 項中「採取又は」を「採取若しくは」に改め、「受けた者」の次に「又は法第43条第 4 項に規定する認定計画実施者（法第44条第 1 項に規定する認定計画において法第42条第 2 項第 2 号及び第 3 号に掲げる事項（水面又は土地の占用に係るものに限る。）又は法第50条第 1 項各号に掲げる事項を定めた者に限る。）」を加える。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 58 号

富山県建築基準法施行条例一部改正の件

富山県建築基準法施行条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県建築基準法施行条例の一部を改正する条例

富山県建築基準法施行条例（平成14年富山県条例第 3 号）の一部を次のように改正する。

第 7 条第 4 号中「婦人保護施設」を「女性自立支援施設」に改める。

第11条第 1 項中「主要構造部」を「特定主要構造部」に改め、同条第 3 項中「第 108 条の 3 第 1 項」を「第 108 条の 4 第 1 項」に、「第 108 条の 3 第 4 項」を「第 108 条の 4 第 4 項」に改める。

第25条第 1 項第 3 号中「主要構造部」を「特定主要構造部」に改め、同条第 2 項第 4 号中「第61条」を「第61条第 1 項」に改め、同条第 3 項中「第 108 条の 3 第 1 項」を「第 108 条の 4 第 1 項」に、「第 108 条の 3 第 4 項」を「第 108 条の 4 第 4 項」に改める。

第29条中「第85条第 5 項若しくは第 6 項」を「第85条第 6 項若しくは第 7 項」に、「第87条の 3 第 5 項若しくは第 6 項」を「第87条の 3 第 6 項若しくは第 7 項」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第29条の改正規定は、公布の日から施行する。

議案第 59 号

富山県営住宅条例一部改正の件

富山県営住宅条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県営住宅条例の一部を改正する条例

富山県営住宅条例（昭和35年富山県条例第14号）の一部を次のように改正する。

別表片口県営住宅の項を削る。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 60 号

市町村立学校県費負担教職員定数条例一部改正の件

市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部を次のように改正する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部を改正する条例

市町村立学校県費負担教職員定数条例（昭和35年富山県条例第41号）の一部を次のように改正する。

第 2 条中「5,569 人」を「5,554 人」に、「53人」を「54人」に、「24人」を「21人」に、「267 人」を「261 人」に改める。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 61 号

富山県森林整備地域活動支援基金条例廃止の件

富山県森林整備地域活動支援基金条例を廃止する条例を次のように定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県森林整備地域活動支援基金条例を廃止する条例

富山県森林整備地域活動支援基金条例（平成14年富山県条例第 1 号）は、廃止する。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

議案第 62 号

富山県介護保険法に基づく指定介護療養型医療施設の人員、設備及び
運営に関する基準を定める条例廃止の件

富山県介護保険法に基づく指定介護療養型医療施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例を廃止する条例を次のように定める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

富山県介護保険法に基づく指定介護療養型医療施設の人員、設備及び
運営に関する基準を定める条例を廃止する条例

富山県介護保険法に基づく指定介護療養型医療施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年富山県条例第70号）は、廃止する。

附 則

この条例は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

議案第 63 号

工事請負契約締結に関する件

白岩川河川改修（水橋大橋）上部工工事請負契約を次のとおり締結するものとする。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 1 契約の目的 | 白岩川河川改修（水橋大橋）上部工工事 |
| 2 工事の場所 | 富山市水橋柳寺～水橋畠等地内 |
| 3 契約金額 | 678,700,000円 |
| 4 契約の方法 | 一般競争入札 |
| 5 契約の相手方 | 東京都北区滝野川六丁目3番1号
川田建設株式会社 |
| 6 完成期日 | 令和8年12月23日 |

議案第 64 号

工事請負契約変更に関する件

令和 2 年 9 月定例県議会において議決を経た主要地方道富山立山公園線道路総合
交付金（改築）富立大橋上部工工事請負契約について、次のとおり変更契約を締結
するものとする。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

契 約 金 額	変更前	2,101,000,000円
	変更後	2,298,853,700円

議案第 65 号

工事請負契約変更に関する件

令和 5 年 2 月定例県議会において議決を経た主要地方道高岡環状線道路改築橋梁上部工（5－1）工事請負契約について、次のとおり変更契約を締結するものとする。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

契 約 金 額	変更前	478,500,000円
	変更後	493,081,600円

議案第 66 号

公立大学法人富山県立大学第 2 期中期目標の一部変更の件

地方独立行政法人法（平成15年法律第 118 号）第25条第 1 項の規定により、公立大学法人富山県立大学中期目標の一部を次のように変更する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

前文の中期目標の期間及び教育研究上の基本組織中

学 部	学 科
工学部	機械システム工学科
	知能ロボット工学科
	電気電子工学科
	情報システム工学科
	環境・社会基盤工学科
	生物工学科
医薬品工学科	
看護学部	看護学科

を

学 部	学 科
工学部	機械システム工学科
	電気電子工学科
	環境・社会基盤工学科
	生物工学科
	医薬品工学科
情報工学部	データサイエンス学科
	情報システム工学科
	知能ロボット工学科

に改め、

看護学部	看護学科
------	------

附属図書館
地域連携センター
キャリアセンター
計算機センター
生物・医薬品工学研究センター
D X 教育研究センター

を

附属図書館
地域連携センター
キャリアセンター
情報基盤センター
生物・医薬品工学研究センター
D X 教育研究センター

に改める。

第1の前文中「工学部では、技術者として必要な素養と、社会と地域の持続的な発展や人々の幸せな暮らしに役立つ「工学」に心を向ける技術者マインド（工学心）を持った人材を育成し、看護学部では、幅広い教養と人々への共感的態度を備えた人間性豊かな人材を育成する。」を「工学部では、技術者として必要な素養と、社会と地域の持続的な発展や人々の幸せな暮らしに役立つ「工学」に心を向ける技術者マインド（工学心）を持った人材を育成し、情報工学部では、「情報」を軸とする工学の専門知識と、データサイエンスの専門知識を兼ね備えるとともに、社会の潜在的課題を見極め、解決策を見出す能力を持った人材を育成し、看護学部では、幅広い教養と人々への共感的態度を備えた人間性豊かな人材を育成する。」に改める。

第1の3の(5)中「数理・データサイエンス・A I を各専門分野で応用できる人材の育成体制を強化することとし、「情報」を軸とする新たな学部の設置準備を進める。」を「数理・データサイエンス・A I を各専門分野で応用できる人材の育成体制を強化するため、情報工学部を設置し、より専門的かつ高度な課題等に対応する

研究に取り組むための、大学院研究科の設置に向けた検討を進める。」に改める。

第1の4の(3)中「工学部・工学研究科」を「工学部・情報工学部・工学研究科」に改める。

第2の1の(1)中「工学部・工学研究科」を「工学部・情報工学部・工学研究科」に改める。

附 則

この中期目標の変更期日は、令和6年4月1日とする。

議案第 67 号

国営土地改良事業及び県営土地改良事業に要する費用に係る市町村の一部負担の追加に関する件

平成6年6月定例県議会で議決を経た国営土地改良事業及び県営土地改良事業に要する費用に係る市町村の一部負担に関する件の1 対象事業及び負担率 (2) 県営土地改良事業の表に次のように追加し、令和6年度以降の事業に係る負担金から適用する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

県営ほ場整備事業 (流域治水対策に係る部分に限る。)	事業費(事務費を除く。)の 100分の18
(中山間地域において流域治水対策に係る部分に限る。)	事業費(事務費を除く。)の 100分の13
県営土地改良総合整備事業 (流域治水対策に係る部分に限る。)	事業費(事務費を除く。)の 100分の18
(中山間地域において流域治水対策に係る部分に限る。)	事業費(事務費を除く。)の 100分の13
水利施設等保全高度化事業(洪水調節機能強化型)	事業費(事務費を除く。)の 100分の18
県営畑作等促進整備事業	事業費(事務費を除く。)の 100分の10

議案第 68 号

建設事業に要する経費に対する市町村の一部負担の変更に関する件

昭和47年2月定例県議会で議決を経た建設事業に要する経費に対する市町村の一部負担に関する件を次のように変更し、変更後の対象事業及び負担率は、令和6年度事業から適用する。

令和6年2月26日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

対象事業及び負担率の表の都市計画事業の項を次のように改める。

都市計画 事業	街路事業費	事業費（事務費を除く。）から国庫支出金を控除した額の10分の5
	都市計画街路総合交付金事業	事業費（事務費を除く。）から国庫支出金を控除した額の10分の5
	県単独都市計画街路事業	事業費（事務費を除く。）の10分の4
	県単独都市計画連続立体交差事業	事業費（事務費を除く。）の10分の5
	都市計画街路事業推進費	事業費（事務費を除く。）の10分の4
	流域下水道事業	事業費（事務費を除く。）から国庫支出金を控除した額の10分の5

報告第 1 号

地方自治法第 179 条による専決処分の件

地方自治法（昭和22年法律第67号）第 179 条第 1 項の規定に基づき、次の事件を別紙のとおり専決処分したので報告し、承認を求める。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

令和 5 年度富山県一般会計補正予算（第 7 号）

令和 5 年度富山県一般会計補正予算（第 8 号）

令和 5 年度富山県港湾施設特別会計補正予算（第 2 号）

令和 5 年度富山県工業用地等管理特別会計補正予算（第 1 号）

令和 5 年度富山県流域下水道事業会計補正予算（第 4 号）

令和 5 年度富山県電気事業会計補正予算（第 3 号）

令和 6 年能登半島地震による災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する条例制定の件

損害賠償に係る和解に関する件

専決処分第 4 号

令和 5 年度富山県一般会計補正予算（第 7 号）

令和 5 年度富山県の一般会計補正予算（第 7 号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第 1 条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 11,226,097 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 706,158,292 千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

（繰越明許費の補正）

第 2 条 繰越明許費の補正は、「第 2 表 繰越明許費補正」による。

（債務負担行為の補正）

第 3 条 債務負担行為の補正は、「第 3 表 債務負担行為補正」による。

（地方債の補正）

第 4 条 地方債の補正は、「第 4 表 地方債補正」による。

以上、地方自治法第 179 条第 1 項の規定により専決する。

令和 6 年 1 月 12 日

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
5 地方交付税		146,606,356	341,425	146,947,781
	1 地方交付税	146,606,356	341,425	146,947,781
7 分担金及び負担金		4,677,150	3,000	4,680,150
	2 負 担 金	3,672,787	3,000	3,675,787
9 国庫支出金		96,200,618	5,973,572	102,174,190
	1 国庫負担金	25,595,931	5,687,400	31,283,331
	2 国庫補助金	69,660,544	286,172	69,946,716
14 諸 収 入		122,335,128	69,600	122,404,728
	4 貸付金元利収入	111,001,628	25,000	111,026,628
	7 雑 入	8,183,354	44,600	8,227,954
15 県 債		63,655,153	4,838,500	68,493,653
	1 県 債	63,655,153	4,838,500	68,493,653
補正されなかった款項に係る額		261,457,790		261,457,790
歳 入 合 計		694,932,195	11,226,097	706,158,292
歳 出				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計

2 総務費		30,113,714	8,000	30,121,714
	1 総務管理費	13,560,755	8,000	13,568,755
3 民生費		56,333,395	124,525	56,457,920
	4 災害救助費	7,208	124,525	131,733
4 衛生費		46,118,100	42,500	46,160,600
	1 公衆衛生費	32,108,463	2,500	32,110,963
	4 医務費	5,799,265	40,000	5,839,265
5 労働費		2,790,567	25,000	2,815,567
	1 労政費	838,401	25,000	863,401
6 農林水産業費		45,702,505	24,640	45,727,145
	1 農業費	8,077,764	262	8,078,026
	4 林業費	10,292,251	24,378	10,316,629
8 土木費		78,254,133	805,220	79,059,353
	1 土木管理費	1,176,478	770	1,177,248
	2 道路橋りょう費	35,156,402	224,000	35,380,402
	3 河川海岸費	25,344,526	207,500	25,552,026
	4 港湾費	6,298,970	299,300	6,598,270
	5 都市計画費	8,992,349	69,200	9,061,549
	6 住宅費	1,285,408	4,450	1,289,858

9 警 察 費		25,674,748	82,800	25,757,548
	1 警 察 管 理 費	25,081,132	82,200	25,163,332
	2 警 察 活 動 費	593,616	600	594,216
10 教 育 費		104,985,445	245,812	105,231,257
	1 教 育 総 務 費	10,437,501	200	10,437,701
	4 高 等 学 校 費	27,394,677	165,852	27,560,529
	5 特 別 支 援 学 校 費	10,314,866	4,200	10,319,066
	6 大 学 費	4,021,204	75,560	4,096,764
11 災 害 復 旧 費		17,727,029	9,867,600	27,594,629
	1 農 林 水 産 業 施 設 災 害 復 旧 費	5,947,110	2,027,000	7,974,110
	2 公 共 土 木 施 設 災 害 復 旧 費	11,779,919	7,840,600	19,620,519
補正されなかった款項に係る額		287,232,559		287,232,559
歳 出 合 計		694,932,195	11,226,097	706,158,292

第2表 繰越明許費補正

1 追加

(単位 千円)

款	項	事業名	金額
2 総務費	1 総務管理費	国際交流企画事業費	8,000
6 農林水産業費	4 林業費	県単独森林整備事業費	14,500
		森林研究所運営費	2,156
8 土木費	3 河川海岸費	県単独海岸整備事業費	10,000
9 警察費	1 警察管理費	交通安全施設費	28,000
		警察施設補修費	43,900
10 教育費	6 大学費	公立大学法人振興事業費	75,560
11 災害復旧費	1 農林水産業施設 災害復旧費	災害農地復旧事業費	280,000
		漁港災害復旧費	1,452,000
		県単独漁港災害復旧費	295,000
	2 公共土木施設 災害復旧費	橋りょう災害復旧費	202,300
		海岸災害復旧費	50,800
		港湾災害復旧費	2,419,100
		公園災害復旧費	12,500
	合 計		

2 変 更

(単位 千円)

款	項	補 正 前		補 正 後	
		事 業 名	金 額	事 業 名	金 額
6 農 林 水産業費	4 林 業 費	林業成長産業化推 進事業費	856,520	林業成長産業化推 進事業費	856,742
		県単独治山事業費	12,000	県単独治山事業費	19,500
8 土 木 費	2 道 路 橋 りょう費	県単独雪寒対策施 設維持修繕費	78,000	県単独雪寒対策施 設維持修繕費	138,000
		県単独道路維持修 繕費	384,000	県単独道路維持修 繕費	518,400
		県単独橋りょう維 持修繕費	151,000	県単独橋りょう維 持修繕費	180,600
	3 河 川 海 岸 費	県単独河川維持修 繕費	635,000	県単独河川維持修 繕費	753,600
		県単独砂防維持修 繕費	480,000	県単独砂防維持修 繕費	558,900
	4 港 湾 費	県単独港湾運河維 持修繕費	150,000	県単独港湾運河維 持修繕費	449,300
	5 都 市 計 画 費	県単独都市計画街 路改良費	170,000	県単独都市計画街 路改良費	178,000
		県単独都市公園施 設整備費	505,600	県単独都市公園施 設整備費	566,800
	6 住 宅 費	公営住宅ストック 整備事業費	17,100	公営住宅ストック 整備事業費	21,500
	10 教 育 費	4 高 等 学 校 費	学校修繕費（全日 制）	136,841	学校修繕費（全日 制）
5 特別支援 学 校 費		学校修繕費（特別 支援）	12,559	学校修繕費（特別 支援）	16,759
11 災 害 復 旧 費	2 公 共 土 木 施 設 災 害 復 旧 費	道路災害復旧費	1,670, 000	道路災害復旧費	3,648, 700
		河川災害復旧費	4,280, 000	河川災害復旧費	7,442, 200
		砂防災害復旧費	590,000	砂防災害復旧費	605,000

補正されなかった 事業に係る額		36,900, 328		36,900, 328
合 計		47,028, 948		53,148, 470

第3表 債務負担行為補正

追 加

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
復興支援見守りカメラ事業	令和6年度	2,500

第4表 地方債補正

(単位 千円)

起債の目的	限度額			起債の方法	利率	償還の方法
	補正前の額	補正額	計			
県有施設整備費	4,139,400	144,800	4,284,200	普通貸借又は証券発行(他の地方公共団体との共同発行を含む。)	5.0以内(ただし、利率見直し方式で借り入れる資金について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率)	借入れの年から据置期間を含め50年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。
緊急防災・減災費	792,000		792,000			
並行在来線費	160,000		160,000			
公事等補助費	21,906,000		21,906,000			
県単独農林水産業施設整備事業費	10,000		10,000			
直轄事業費金	13,481,000		13,481,000			
公園整備事業費	471,000	26,200	497,200			
公営住宅建設費	69,000		69,000			
地方道整備費	4,311,800	74,200	4,386,000			
自然災害防止費	2,643,000	66,900	2,709,900			
警察施設整備費	563,000		563,000			
高等学校整備費	3,051,000		3,051,000			
臨時高等学校費	311,000		311,000			
特別支援学校費	316,000		316,000			
地域活性化費	1,018,000		1,018,000			
施設整備補助費	327,000		327,000			

補助直轄災害復旧事業費	5,875,500	3,762,700	9,638,200			
単独災害復旧費	203,900	763,700	967,600			
行政改革推進費	1,000,000		1,000,000			
臨時財政対策債	3,006,553		3,006,553			
計	63,655,153	4,838,500	68,493,653			

専決処分第 13 号

令和 5 年度富山県一般会計補正予算（第 8 号）

令和 5 年度富山県の一般会計補正予算（第 8 号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第 1 条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 6,854,649 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 713,012,941 千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

（繰越明許費の補正）

第 2 条 繰越明許費の補正は、「第 2 表 繰越明許費補正」による。

（債務負担行為の補正）

第 3 条 債務負担行為の補正は、「第 3 表 債務負担行為補正」による。

（地方債の補正）

第 4 条 地方債の補正は、「第 4 表 地方債補正」による。

以上、地方自治法第 179 条第 1 項の規定により専決する。

令和 6 年 2 月 6 日

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
9 国庫支出金		102,174,190	4,633,285	106,807,475
	2 国庫補助金	69,946,716	4,633,285	74,580,001
12 繰入金		18,816,976	1,936,004	20,752,980
	2 基金繰入金	11,595,573	1,936,004	13,531,577
14 諸収入		122,404,728	19,760	122,424,488
	7 雑収入	8,227,954	19,760	8,247,714
15 県債		68,493,653	265,600	68,759,253
	1 県債	68,493,653	265,600	68,759,253
補正されなかった款項に係る額		394,268,745		394,268,745
歳入合計		706,158,292	6,854,649	713,012,941
歳 出				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
2 総務費		30,121,714	434	30,122,148
	2 企画費	6,041,801	434	6,042,235
3 民生費		56,457,920	240,170	56,698,090
	1 社会福祉費	39,913,462	206,200	40,119,662

	4 災 害 救 助 費	131,733	33,970	165,703
4 衛 生 費		46,160,600	2,760	46,163,360
	4 医 務 費	5,839,265	2,760	5,842,025
6 農 林 水 産 業 費		45,727,145	692,139	46,419,284
	1 農 業 費	8,078,026	267,000	8,345,026
	4 林 業 費	10,316,629	20,139	10,336,768
	5 水 産 業 費	2,480,978	405,000	2,885,978
7 商 工 費		122,175,596	5,910,000	128,085,596
	1 商 業 費	110,942,422	60,000	111,002,422
	2 工 鉱 業 費	9,436,156	4,550,000	13,986,156
	3 観 光 費	1,797,018	1,300,000	3,097,018
10 教 育 費		105,231,257	9,146	105,240,403
	1 教 育 総 務 費	10,437,701	6,146	10,443,847
	6 大 学 費	4,096,764	3,000	4,099,764
補正されなかった款項に係る額		300,284,060		300,284,060
歳 出 合 計		706,158,292	6,854,649	713,012,941

第2表 繰越明許費補正

1 追加

(単位 千円)

款	項	事業名	金額
3 民生費	4 災害救助費	災害救助費	27,900
6 農林水産業費	1 農業費	経営体育成支援事業費	195,000
		水田農業生産振興対策事業費	72,000
7 商工費	3 観光費	観光キャンペーン事業費	1,300,000
合	計		1,594,900

2 変 更

(単位 千円)

款	項	補 正 前		補 正 後	
		事 業 名	金 額	事 業 名	金 額
6 農 林 水産業費	4 林 業 費	林業成長産業化推 進事業費	856,742	林業成長産業化推 進事業費	876,881
	5 水産業費	資源管理・漁業経 営安定対策推進事 業費	61,300	資源管理・漁業経 営安定対策推進事 業費	466,300
7 商 工 費	1 商 業 費	中小商業支援事業 費	300,000	中小商業支援事業 費	360,000
	2 工 鋳 業 費	中小企業振興事業 費	500,000	中小企業振興事業 費	5,050, 000
補正されなかった 事業に係る額			56,324, 244		56,324, 244
合 計			58,042, 286		63,077, 425

第3表 債務負担行為補正

追 加

(単位 千円)

事 項	期 間	限 度 額
漁業近代化資金利子補給 (特別枠) 1 相手方 東日本信用漁業協同組合 連合会その他の融資機関 2 資金の種類 富山県漁業近代化資金制 度実施要綱(平成17年水 漁第566号)に基づく資 金 3 利子補給の対象となる 貸付金 540,000千円以内 4 利子補給期間 10年以内	令和6年度から 令和16年度まで	年1.35%以内の利子補給 41,636

第4表 地方債補正

(単位 千円)

起債の目的	限度額			起債の方法	利率	償還の方法
	補正前の額	補正額	計			
県有施設整備費	4,284,200		4,284,200	普通貸借又は証券発行(他の地方公共団体との共同発行を含む。)	5.0以内(ただし、利率見直し方式で借り入れる資金について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の利率)	借入れの年から据置期間を含め50年以内に元利均等、元金均等又は満期一括で償還する。ただし、財政の都合により繰上償還し、償還年限を短縮し、又は低利債に借り換えることができるものとする。なお、借入先の融通条件があるときは、これに従うことができる。
緊急防災・減災費	792,000		792,000			
並行在来線費	160,000		160,000			
災害援護資金		18,600	18,600			
公事共業補助費	21,906,000		21,906,000			
県単独農林水産業施設整備費	10,000		10,000			
直轄事業費金	13,481,000		13,481,000			
公園整備事業費	497,200		497,200			
公営住宅建設費	69,000		69,000			
地方道整備費	4,386,000		4,386,000			
自然災害防止費	2,709,900		2,709,900			
警察施設整備費	563,000		563,000			
高等学校整備費	3,051,000		3,051,000			
臨時高等学校費	311,000		311,000			
特別支援学校費	316,000		316,000			
地域活性化費	1,018,000		1,018,000			

施設整備補助費	327,000		327,000			
補助直轄災害復旧事業費	9,638,200	235,000	9,873,200			
単独災害復旧費	967,600	12,000	979,600			
行政改革推進費	1,000,000		1,000,000			
臨時財政対策債	3,006,553		3,006,553			
計	68,493,653	265,600	68,759,253			

専決処分第 5 号

令和 5 年度富山県港湾施設特別会計補正予算 (第 2 号)

令和 5 年度富山県の港湾施設特別会計補正予算(第 2 号)は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正)

第 1 条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 997,000 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 3,309,108 千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

(繰越明許費)

第 2 条 地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 213 条第 1 項の規定により翌年度に繰り越して使用することができる経費は、「第 2 表 繰越明許費」による。

(地方債の補正)

第 3 条 地方債の補正は、「第 3 表 地方債補正」による。

以上、地方自治法第 179 条第 1 項の規定により専決する。

令和 6 年 1 月 12 日

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
5 県 債		1,388,000	997,000	2,385,000
	1 県 債	1,388,000	997,000	2,385,000
補正されなかった款項に係る額		924,108		924,108
歳 入 合 計		2,312,108	997,000	3,309,108
歳 出				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
1 土 木 費		2,312,108	997,000	3,309,108
	1 港 湾 費	2,312,108	997,000	3,309,108
歳 出 合 計		2,312,108	997,000	3,309,108

第2表 繰越明許費

(単位 千円)

款	項	事業名	金額
1 土 木 費	1 港 湾 費	荷役機械災害復旧事業費	210,000
		ふ頭用地災害復旧事業費	516,000
		上屋災害復旧事業費	3,000
		マリーナ・P B S 災害復旧事業費	268,000
合	計		997,000

第3表 地方債補正

(単位 千円)

起債の目的	限度額			起債の方法	利率	償還の方法
	補正前の額	補正額	計			
伏木富山港ふ頭 用地造成事業費	144,000		144,000	普通貸借 又は 証券発行	5.0以内 % (ただし、 利率見直 し方式で 借り入れ る資金に ついて、 利率の見 直しを行 った後に おいては、 当該見直 し後の利 率)	借入れの年から据置期 間を含め40年以内に元 利均等、元金均等又は 満期一括で償還する。 ただし、財政の都合に より繰上償還し、償還 年限を短縮し、又は低 利債に借り換えること ができるものとする。 なお、借入先の融通条 件があるときは、これ に従うことができる。
荷役機械建設 事業費	940,000		940,000			
地方公営企業 災害復旧事業費		997,000	997,000			
借換債	304,000		304,000			
計	1,388,000	997,000	2,385,000			

専決処分第 6 号

令和 5 年度富山県工業用地等管理特別会計 補正予算（第 1 号）

令和 5 年度富山県の工業用地等管理特別会計補正予算（第 1 号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）

第 1 条 歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 50,000 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 697,640 千円とする。

2 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表 歳入歳出予算補正」による。

（繰越明許費）

第 2 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 213 条第 1 項の規定により翌年度に繰り越して使用することができる経費は、「第 2 表 繰越明許費」による。

以上、地方自治法第 179 条第 1 項の規定により専決する。

令和 6 年 1 月 12 日

富山県知事 新 田 八 朗

第1表 歳入歳出予算補正

歳 入				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
3 繰 越 金		564,405	50,000	614,405
	1 繰 越 金	564,405	50,000	614,405
補正されなかった款項に係る額		83,235		83,235
歳 入 合 計		647,640	50,000	697,640
歳 出				
(単位 千円)				
款	項	補正前の額	補 正 額	計
1 臨海工業用地 造成事業費		590,937	50,000	640,937
	1 臨海工業用地 造成事業費	590,937	50,000	640,937
補正されなかった款項に係る額		56,703		56,703
歳 出 合 計		647,640	50,000	697,640

第2表 繰越明許費

(単位 千円)

款	項	事業名	金額
1 臨海工業用地造成事業費	1 臨海工業用地造成事業費	臨海工業用地造成事業管理費	50,000
合	計		50,000

専決処分第 7 号

令和 5 年度富山県流域下水道事業会計補正予算 (第 4 号)

第 1 条 令和 5 年度富山県流域下水道事業会計の補正予算(第 4 号)は、次に定めるところによる。

第 2 条 令和 5 年度富山県流域下水道事業会計予算(以下「予算」という。)第 4 条に定めた資本的収入及び支出の予定額を次のとおり補正する。

(科 目)	(既決予定額)	(補正予定額)	(計)
	収 入		
第 1 款 資本的収入	2,812,955千円	446,000千円	3,258,955千円
第 1 項 企 業 債	469,200千円	195,500千円	664,700千円
第 2 項 補 助 金	1,934,455千円	250,500千円	2,184,955千円
	支 出		
第 1 款 資本的支出	3,057,739千円	446,000千円	3,503,739千円
第 4 項 災害復旧費		446,000千円	446,000千円

第 3 条 予算第 6 条中

流域下水道事業費	469,200	を
----------	---------	---

流域下水道事業費	469,200	
災害復旧費	195,500	に改める。
計	664,700	

以上、地方自治法第 179 条第 1 項の規定により専決する。

令和 6 年 1 月 12 日

富山県知事 新 田 八 朗

令和 5 年度富山県電気事業会計補正予算（第 3 号）

第 1 条 令和 5 年度富山県電気事業会計の補正予算（第 3 号）は、次に定めるところによる。

第 2 条 令和 5 年度富山県電気事業会計予算第 5 条中

共同水路遠方監視制御装置更新工事費	令和 6 年度から 令和 8 年度まで	248,000
監視制御システム更新工事費	令和 6 年度から 令和 8 年度まで	539,000
発電所通信環境拡充工事費	令和 6 年度	172,457
発電所機器更新工事費	令和 6 年度	39,682
主要機器等修繕工事費	令和 6 年度	847,000
水車発電機細密点検工事費	令和 6 年度	58,069
低濃度 P C B 廃棄物無害化処理業務委託費	令和 6 年度	13,805
太陽光発電所保守点検業務委託費	令和 6 年度	6,533
電気事業機器整備費	令和 6 年度から 令和 12 年度まで	4,000
電動サーボモータ等更新工事費	令和 6 年度から 令和 7 年度まで	385,000
大長谷第二発電所 P C B	令和 6 年度	600,000

を

廃棄物処理業務委託費		
施設保守管理等業務委託	令和6年度	2,100
電気事業機器整備費（局有車更新）	令和6年度	5,000

共同水路遠方監視制御装置更新工事費	令和6年度から令和8年度まで	248,000
監視制御システム更新工事費	令和6年度から令和8年度まで	539,000
発電所通信環境拡充工事費	令和6年度	172,457
発電所機器更新工事費	令和6年度	39,682
主要機器等修繕工事費	令和6年度	847,000
水車発電機細密点検工事費	令和6年度	58,069
低濃度PCB廃棄物無害化処理業務委託費	令和6年度	13,805
太陽光発電所保守点検業務委託費	令和6年度	6,533
電気事業機器整備費	令和6年度から令和12年度まで	4,000
電動サーボモータ等更新工事費	令和6年度から令和7年度まで	385,000
大長谷第二発電所PCB	令和6年度	600,000

に改める。

廃棄物処理業務委託費		
施設保守管理等業務委託	令和6年度	2,100
電気事業機器整備費（局有車更新）	令和6年度	5,000
富山新港太陽光発電所復旧調査委託費	令和6年度	10,000

以上、地方自治法第179条第1項の規定により専決する。

令和6年1月12日

富山県知事 新 田 八 朗

専決処分第 14 号

令和 6 年能登半島地震による災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する条例制定の件

令和 6 年能登半島地震による災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する条例

(趣旨)

第 1 条 この条例は、令和 6 年能登半島地震による災害（以下「能登半島地震災害」という。）の被害者の権利利益の保全等を図るため、行政上の権利利益に係る満了日の延長及び履行されなかった義務に係る免責について定めるものとする。

(行政上の権利利益に係る満了日の延長に関する措置)

第 2 条 次に掲げる権利利益（以下この条において「特定権利利益」という。）に係る条例、規則（地方自治法（昭和22年法律第67号）第 138 条の 4 第 2 項に規定する規程を含む。第 4 項及び次条第 2 項において同じ。）、企業管理規程（地方公営企業法（昭和27年法律第 292 号）第10条に規定する企業管理規程をいう。第 4 項及び次条第 2 項において同じ。）又はこれらに基づく告示（以下「条例等」という。）の施行に関する事務を所管する県の機関（地方自治法第 2 編第 7 章に基づいて設置される県の執行機関をいう。第 2 号及び第 4 項において同じ。）は、能登半島地震災害の被害者の特定権利利益であってその存続期間が満了前であるものを保全し、又は当該特定権利利益であってその存続期間が既に満了したものを回復させるため必要があると認めるときは、令和 6 年 6 月30日を限度として、これらの特定権利利益に係る満了日を延長する措置をとることができる。

- (1) 条例等に基づく行政庁の処分（令和 6 年 1 月 1 日以前に行ったものに限る。）により付与された権利その他の利益であって、その存続期間が同日以後に満了するもの
- (2) 条例等に基づき何らかの利益を付与する処分その他の行為を当該行為に係る権限を有する県の機関等（県の機関及びこれらに置かれ、又はこれらの管理に属する機関、市町村（地方自治法第 252 条の17の 2 第 1 項及び富山県知事の権限に属する事務処理の特例に関する条例（平成11年富山県条例第50号）第 2 条の規定により知事の権限に属する事務の一部を処理することとされた市町村並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第 162 号）第55

条第1項及び富山県教育委員会の権限に属する事務処理の特例に関する条例（平成17年富山県条例第10号）第2条の規定により教育委員会の権限に属する事務の一部を処理することとされた市町村に限る。）の機関をいう。）に求めることができる権利であって、その存続期間が令和6年1月1日以後に満了するもの

- 2 前項の規定による延長の措置は、告示により、当該措置の対象となる特定権利利益の根拠となる条例等の条項ごとに、地域を単位として、当該措置の対象者及び当該措置による延長後の満了日を指定して行うものとする。
- 3 第1項の規定による延長の措置のほか、同項第1号の行政庁又は同項第2号の県の機関等（次項において「行政庁等」という。）は、能登半島地震災害の被害者であって、その特定権利利益について保全又は回復を必要とする理由を記載した書面により満了日の延長の申出を行ったものについて、令和6年6月30日までの期日を指定してその満了日を延長することができる。
- 4 第1項又は前項の規定による満了日の延長の措置を令和6年7月1日以後においても特に継続して実施する必要があると認められるときは、県の機関又は行政庁等は、第1項又は前項の例に準じ、特定権利利益の根拠となる条例等の条項ごとに新たに規則又は企業管理規程で定める日を限度として、当該特定権利利益に係る満了日を更に延長する措置をとることができる。
- 5 前各項の規定にかかわらず、災害その他やむを得ない事由がある場合における特定権利利益に係る期間に関する措置について他の条例等に別段の定めがあるときは、その定めるところによる。

（期限内に履行されなかった義務に係る免責に関する措置）

第3条 令和6年1月1日から同年4月29日までの間に条例等に規定されている履行期限が到来する義務（以下「特定義務」という。）が同月30日までに履行されたときは、当該特定義務が能登半島地震災害により履行されなかったことについて、その不履行に係る行政上及び刑事上の責任（過料に係るものを含む。次項において単に「責任」という。）は問われないものとする。

- 2 前項に定める免責の措置を令和6年5月1日以後においても特に継続して実施する必要があると認められるときは、規則又は企業管理規程で、特定義務の根拠となる条例等の条項ごとに、新たに、当該特定義務の不履行についての免責に係る期限を定めることができる。この場合において、当該特定義務が当該期限が到

来する日までに履行されたときは、当該特定義務が能登半島地震災害により履行されなかったことについて、責任は問われないものとする。

- 3 前2項の規定にかかわらず、特定義務が災害その他やむを得ない事由によりその履行期限が到来するまでに履行されなかった場合について他の条例等に別段の定めがあるときは、その定めるところによる。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

以上、地方自治法第179条第1項の規定により専決する。

令和6年2月6日

富山県知事 新 田 八 朗

損害賠償に係る和解に関する件（地方自治法第 179 条第 1 項による専決処分）

専決処分番号	概 要	和解の相手方	損害賠償額	専決処分年月日
2	令和 5 年 12 月 7 日に富山市新総曲輪地内で発生した警察車両の扉の接触による車両の損傷	富山市在住 1 名	県が支払う額 14,400円	令和 6 年 1 月 5 日
3	令和 5 年 8 月 24 日に県道富山小杉線富山市花園町地内で発生した樹木の接触による車両の損傷	富山市在住 1 名	県が支払う額 45,953円	令和 6 年 1 月 11 日
9	令和 5 年 2 月 1 日に県道砺波細入線富山市西笹津地内で発生した樹木からの落雪による車両の損傷	岐阜県飛騨市 松下電建株式会社 岐阜県飛騨市在住 1 名	県が支払う額 1,037,935円	令和 6 年 1 月 30 日
10	令和 5 年 3 月 26 日に県道富山立山公園線富山市堤町通り地内で発生した倒木による車両の損傷	東京都千代田区 東京海上日動火災 保険株式会社 富山市在住 1 名	県が支払う額 1,108,909円	令和 6 年 1 月 30 日

報告第 2 号

地方自治法第 180 条による専決処分の件

地方自治法（昭和22年法律第67号）第 180 条第 1 項の規定に基づき、次の事件を別紙のとおり専決処分したので報告する。

令和 6 年 2 月 26 日 提 出

富山県知事 新 田 八 朗

損害賠償に係る和解に関する件

損害賠償に係る和解に関する件（地方自治法第 180 条第 1 項による専決処分）

専決処分番号	概 要	和解の相手方	損害賠償額	専決処分年月日
55	令和 5 年 7 月 28 日に高岡市西藤平蔵地内で発生した県有自動車の交通事故	高岡市在住 2 名	県が支払う額 2,030,842円	令和 5 年 12月22日
56	令和 4 年 12 月 28 日に砺波市春日町地内で発生した警察車両の交通事故	神奈川県横浜市在住 1 名	県が受け取る額 118,415円	令和 5 年 12月25日
57	令和 5 年 8 月 22 日に富山市城川原地内で発生した警察車両の交通事故	石川県金沢市 株式会社ティー・ ヴィ・フーズ食品 石川県白山市在住 1 名	県が受け取る額 450,179円	令和 5 年 12月25日
58	令和 5 年 10 月 11 日に中新川郡立山町利田地内で発生した警察車両の交通事故	中新川郡立山町在住 1 名	県が受け取る額 241,274円	令和 5 年 12月25日
59	令和 5 年 10 月 20 日に富山市荒川地内で発生した警察車両の交通事故	富山市在住 1 名	県が支払う額 333,930円	令和 5 年 12月25日
60	令和 5 年 10 月 20 日に中新川郡上市町大坪地内で発生した警察車両の交通事故	中新川郡立山町 株式会社森井工務 所 魚津市在住 1 名	県が受け取る額 49,005円	令和 5 年 12月25日
61	令和 5 年 10 月 6 日に中新川郡立山町蔵本新地内で発生した警察車両の交通事故	中新川郡上市町在住 1 名	県が受け取る額 17,600円	令和 5 年 12月26日
1	令和 4 年 6 月 21 日に富山市婦中町鶴坂地内で発生した交通事故による信号柱の損傷	富山市在住 1 名	県が受け取る額 1,347,500円	令和 6 年 1月5日
11	令和 5 年 7 月 28 日に射水市南太閤山地内で発生した警察車両の交通事故	砺波市在住 1 名	県が受け取る額 171,083円	令和 6 年 1月30日
12	令和 5 年 10 月 4 日に富山市平吹町地内で発生した県有自動車の交通事故	富山市在住 1 名	県が受け取る額 175,280円	令和 6 年 1月30日